

# 上江田西田遺跡 源六堰遺跡

広域基幹河川改修事業石田川に伴う  
埋蔵文化財調査報告書

2010

群馬県太田土木事務所  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 上江田西田遺跡 源六堰遺跡

広域基幹河川改修事業石田川に伴う  
埋蔵文化財調査報告書

2010

群馬県太田土木事務所  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

## 序

上江田西田遺跡は太田市新田上江田に、源六堰遺跡は同市新田下田中に所在します。両遺跡は石田川河川改修工事に伴い発掘調査を実施しました。

発掘調査は群馬県太田土木事務所からの委託を受けた財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成6年度に上江田西田遺跡、平成9年度に源六堰遺跡を実施しました。

上江田西田遺跡では縄文時代後期前葉の堀之内式土器を出土する住居跡等、源六堰遺跡では同じく後期初頭の称名寺式土器が検出されました。そのほかにも源六堰遺跡では古墳時代前期の住居跡等が確認されました。

太田市には縄文時代から古代の遺跡が多数知られており、特に東日本随一の規模を誇る太田天神山古墳をはじめとして、古墳時代には数多くの古墳も築かれました。その古墳時代の始まりの土器である石田川式土器の命名は、昭和27年の石田川の護岸工事により偶然発見された石田川遺跡に由来します。

それ以外にも旧石器時代までさかのぼる人々の生活の痕跡が知られており、また時代を下っても中世に新田氏等の侍たちが活躍した場所としても知られています。このような多くの遺跡の存在は、過去の人々の生活をありありと示してくれます。

このたびの発掘調査で判明した事実は、この地域の歴史をひもとく貴重な歴史遺産のひとつであると考えております。

本報告書が群馬県の歴史研究をはじめ、地域の多くの方々、次代を担う子供達の歴史教育や郷土史研究の一助として活用頂ければ幸いと考えております。

最後になりましたが太田市教育委員会、地元関係者の皆様のご指導・ご協力に衷心より感謝いたします。そして発掘調査から報告書作成に至るまで、ご理解とご協力を頂いた群馬県県土整備部、太田土木事務所、群馬県教育委員会に感謝の意をあらわし、序といたします。

平成22年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 須田 栄 一

## 例 言

- 1 本書は広域基幹河川改修事業石田川に伴い発掘調査された上江田西田遺跡・源六堰遺跡の調査報告書である。
- 2 上江田西田遺跡は太田市新田上江田に、源六堰遺跡は太田市新田下田中に所在する。
- 3 事業主体 群馬県国土整備部太田土木事務所
- 4 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 調査期間 上江田西田遺跡  
平成6年12月12日～平成7年3月31日  
源六堰遺跡  
平成10年1月1日～平成10年3月31日
- 6 整理期間 平成21年4月1日～平成22年2月28日  
整理期間は当初平成21年4月1日から平成22年3月31日であったが、1ヶ月短縮し平成21年4月1日より平成22年2月28日までとした。
- 7 発掘調査体制は次のとおりである。

### 上江田西田遺跡

平成6年度

常務理事 中村英一

事務局長 近藤 功

管理部長 蜂巣 実 調査研究部長 神保脩史 調査研究第4課長 中東耕志

事務担当 齊藤俊一 国定 均 笠原秀樹 須田朋子 吉田有光 柳岡良宏 高橋定義 大澤友治  
(非常勤嘱託)

事務補助員 吉田恵子 松井美智代 杉山ひろみ 内山佳子 星野美智子 羽鳥京子 菅原淑子  
今井もと子 吉田笑子 並木綾子 松下次男 浅見宣記 山本正司

発掘調査担当 大木神一郎 齋藤英敏 黒沢照弘

### 源六堰遺跡

平成9年度

常務理事 菅野 清

事務局長 原田恒弘

副事務局長(調査研究第1部長) 赤山容造

管理部長 渡辺 健 調査研究第2部長 神保脩史 調査研究第2課長 能登 健

事務担当 小淵 淳 井上 剛 須田朋子 吉田有光 柳岡良宏 岡島伸昌 宮崎忠司  
大澤友治(非常勤嘱託)

事務補助員 吉田恵子 内山佳子 若田 誠 佐藤美佐子 本間久美子 北原おかり 安藤美  
狩野真子 羽鳥京子 星野美智子 小保方香里 吉田笑子 今井もと子 並木綾子  
松下次男 浅見宣記 吉田 茂

発掘調査担当 友廣哲也 小室(立澤)綾子 松島久仁治

8 整理体制は次のとおりである。

理事長 高橋勇夫 須田栄一（平成21年7月～）

常務理事（事務局長）木村裕紀

事業局長 相京建史

総務部長 笠原秀樹 調査研究部長 飯島義雄 資料整理部長 石坂 茂

資料整理部第2グループリーダー 大木神一郎

整理担当 友廣哲也

事務担当 経理グループリーダー 佐嶋芳明 須田朋子 柳岡良宏 矢島一美 田口小百合  
高橋次代

事務補助員 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり 狩野真子 今井もと子

保存処理 関 邦一 増田政子 津久井桂一 多田ひさ子

遺物写真 佐藤元彦

遺物機械実測 田中精子 町田礼子 田所順子 岸 弘子 木原幸子 福島瑞希

9 編集執筆 大木神一郎（Ⅵ章）

友廣哲也（編集、Ⅵ章以外執筆）

10 デジタル写真図版作成

齊田智彦 牧野裕美 市田武子 安藤美奈子 酒井史恵 廣津真希子 荒木絵美 高梨由美子  
矢端真親 横塚由香 下川陽子

（縄紋土器整理）橋本 淳 （石器整理）岩崎泰一（土師器整理）関 晴彦

11 発掘調査および報告書作成には、現太田市教育委員会、群馬県太田土木事務所、群馬県教育委員会をはじめ関係機関ならびに下記の方のご指導をいただきました。記して感謝いたします。

小宮俊久

12 発掘調査記録および出土品は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

## 凡 例

- 1 挿図に示す方位記号は国家座標上の北を基準としている。
- 2 遺構及び遺物実測図中の縮尺はそれぞれの図中にスケールで表示してある。写真は大概図と同じ縮尺である。
- 3 遺構の呼称は算用数字を用い、住居跡、掘立柱建物跡、溝、土坑など遺構ごとに番号を付した。また遺構番号は各々上江田西田遺跡、渾六塚遺跡ごとに関連性は無い。
- 4 報告書中にある火山噴出物の表記は下記のとおりである。

As-A：浅間A軽石 1783年 天明3年

As-B：浅間B軽石 1108年 天仁元年

Hr-FP：榛名二ッ岳軽石 6世紀前半～中葉

Hr-FA：榛名二ッ岳軽石 6世紀初頭

As-C：浅間C軽石 3世紀末

# 目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
表目次	
写真図版目次	
I 発掘調査と遺跡の概要	1
1. 発掘調査にいたる経過	1
II 周辺の遺跡と環境	2
1. 地理的環境	2
2. 歴史的環境	2
3. 遺跡の概要	7
III 調査の方法	7
1. グリッドの設定	7
2. 調査の概要	8
3. 基本土層	8
IV 検出された遺構と遺物 (上江田西田遺跡)	10
V 検出された遺構と遺物 (源六堰遺跡)	76
VI 上江田西田遺跡・源六堰遺跡出土の古墳時代土器について	118
VII まとめ	122
写真図版	
抄録	

## 挿図目次

### 上江田西田遺跡

第1図	遺跡位置図 (1/25,000)	1
第2図	調査区	3
第3図	大間々扇状地と位置図	4
第4図	周辺遺跡図	5
第5図	基本土層図	8
第6図	1号住居跡	11
第7図	2号住居跡・竈	12
第8図	1～9号土坑	13
第9図	10～14号土坑、1・2・4～9号ピット	14
第10図	10～18号ピット、1・2・4～6号溝	15
第11図	1・2号住居跡出土遺物	17
第12図	2号住居跡出土遺物	18
第13図	1～4・7・8号土坑出土遺物	19
第14図	8・9・13・14号土坑、遺構外1～4 (1) 出土遺物	20
第15図	遺構外出土遺物5～11 (2)	21
第16図	遺構外出土遺物12～16 (3)	22
第17図	遺構外出土遺物17～21 (4)	23
第18図	遺構外出土遺物22～27 (5)	24
第19図	遺構外出土遺物28～62 (6)	25
第20図	遺構外出土遺物63～83 (7)	26
第21図	遺構外出土遺物84～104 (8)	27
第22図	遺構外出土遺物105～126 (9)	28
第23図	遺構外出土遺物127～142 (10)	29
第24図	遺構外出土遺物143～162 (11)	30
第25図	遺構外出土遺物163～175 (12)	31
第26図	遺構外出土遺物176～192 (13)	32
第27図	遺構外出土遺物193～208 (14)	33
第28図	遺構外出土遺物209～230 (15)	34
第29図	遺構外出土遺物231～254 (16)	35
第30図	遺構外出土遺物255～269 (17)	36
第31図	遺構外出土遺物270～291 (18)	37
第32図	遺構外出土遺物292～301、弥生1・2、2区外1～6 (19)	38
第33図	遺構外出土遺物1～16 (20)	39
第34図	遺構外出土遺物17～28 (21)	40
第35図	遺構外出土遺物29～46 (22)	41
第36図	遺構外出土遺物47～61 (23)	42
第37図	遺構外出土遺物62～83 (24)	43
第38図	遺構外出土遺物84～108 (25)	44
第39図	遺構外出土遺物109～136 (26)	45
第40図	1号住居跡出土石器	46
第41図	2号住居跡出土石器	47
第42図	1号土坑、遺構外1～14 (1) 出土石器	48

第43図	遺構外出土石器15～24（2）	49
第44図	遺構外出土石器25～34（3）	50
第45図	遺構外金属製品1～4、4号溝（1）出土木器	51
第46図	4（2）・5号溝、遺構外1～3出土木器	52

#### 源六塚遺跡

第47図	1号住居跡	77
第48図	2号住居跡	78
第49図	1号掘立柱建物跡	79
第50図	1～13号土坑	80
第51図	14～30号土坑	81
第52図	31～37・39・41～49号土坑	82
第53図	50・59～66・72号土坑	83
第54図	67～71・73～82号土坑	84
第55図	83～85号・87～92号土坑	85
第56図	93～103号土坑	86
第57図	86・105～109・111～115号土坑	87
第58図	116～132号土坑	88
第59図	133～144号土坑	89
第60図	145～150・153～158号土坑、1・2号溝	90
第61図	8・82・84～86・91・105～108・122・129・132・133号土坑出土遺物	94
第62図	137・143・145・146・148・158号土坑、遺構外1～7（1）出土遺物	95
第63図	遺構外出土遺物8～34（2）	96
第64図	32・45・62・64・65号土坑、遺構外35～43（3）出土遺物	97
第65図	65・68号土坑出土遺物	98
第66図	69・78・82・91・137号土坑、遺構外1～19（4）出土遺物	99
第67図	遺構外出土遺物20～43（5）	100
第68図	1・2号住居跡、7号土坑、1号溝、遺構外1～4（6）出土遺物	101
第69図	遺構外出土遺物5～16（7）	102
第70図	1・2号住居跡、109・135号土坑、遺構外1～6（1）出土石器	103
第71図	遺構外出土石器7～14（2）	104
第72図	2号住居跡柱穴内出土礎板	105

## 目 次

#### 上江田西田遺跡

第1表	遺跡周辺の遺跡	6
第2表	土坑・ピット・溝計測表	16
第3表	遺物観察表	53

#### 源六塚遺跡

第4表	土坑・溝計測表	91
第5表	遺物観察表	106



## 写真図版目次

### 上江田西田

PL. 1  
1号住居全景  
1号住居全景  
2号住居全景  
2号住居炉全景  
2号住居炉全景  
1号土坑全景  
2号土坑全景  
3号土坑全景  
PL. 2  
4号土坑遺物出土状態  
4号土坑全景  
5号土坑全景  
6号土坑全景  
7号土坑全景  
8・9号土坑全景  
10号土坑全景  
11号土坑全景  
PL. 3  
12号土坑全景  
13号土坑全景  
14号土坑全景  
1・2号溝全景  
1・2号溝全景  
1・2号溝遺物出土状態  
1・2号溝遺物出土状態  
3号溝全景  
PL. 4  
4号溝杭  
4号溝全景  
4号溝杭  
4号溝全景  
5号溝全景  
5号溝遺物出土状態  
PL. 5  
6号溝全景  
G-9グリッド遺物出土状態

### 基本土層

J-8グリッド遺物出土状態  
J-8グリッド遺物出土状態  
PL. 6 出土遺物 (1)  
PL. 7 出土遺物 (2)  
PL. 8 出土遺物 (3)  
PL. 9 出土遺物 (4)  
PL. 10 出土遺物 (5)  
PL. 11 出土遺物 (6)  
PL. 12 出土遺物 (7)  
PL. 13 出土遺物 (8)  
PL. 14 出土遺物 (9)  
PL. 15 出土遺物 (10)  
PL. 16 出土遺物 (11)  
PL. 17 出土遺物 (12)  
PL. 18 出土遺物 (13)  
PL. 19 出土遺物 (14)  
PL. 20 出土遺物 (15)  
PL. 21 出土遺物 (16)  
PL. 22 出土遺物 (17)  
PL. 23 出土遺物 (18)  
PL. 24 出土遺物 (19)  
PL. 25 出土遺物 (20)

### 源六堰

PL. 26  
1号住居全景  
1号住居掘り方全景  
1号住居内1号土坑全景  
1号住居内1号土坑遺物出土状態  
1号住居床直土器  
2号住居全景  
2号住居全景  
2号住居掘り方全景  
PL. 27  
2号住居掘り方全景  
2号住居南東柱穴内礎板

2号住居南東柱穴内礎板  
2号住居北東柱穴の柱材  
2号住居遺物出土状態  
2号住居遺物出土状態  
PL. 28  
1号溝全景  
2号溝全景  
2号包含層  
2号包含層遺物出土状態  
2号包含層遺物出土状態  
2号包含層遺物出土状態  
PL. 29  
2号包含層遺物出土状態  
1号包含層  
2号包含層遺物出土状態  
1号掘立柱建物全景  
1号掘立柱建物全景  
B区全景  
西側壁近接  
PL. 30  
遠景  
A区北側全景  
B区全景  
1号土坑全景  
2号土坑全景  
3号土坑全景  
4号土坑全景  
5号土坑全景  
PL. 31  
6号土坑全景  
7号土坑全景  
8号土坑全景  
9号土坑全景  
10号土坑全景  
11号土坑全景  
12号土坑全景  
13号土坑全景  
PL. 32

14号土坑全景	62号土坑全景	98号土坑全景
15号土坑全景	63号土坑全景	99号土坑全景
16号土坑全景	64号土坑全景	100号土坑全景
17号土坑全景	PL.37	101·104号土坑全景
18号土坑全景	65号土坑全景	102号土坑全景
19号土坑全景	66号土坑全景	103号土坑全景
20号土坑全景	67号土坑全景	107号土坑全景
21号土坑全景	68号土坑全景	PL.42
PL.33	69号土坑全景	108号土坑全景
22号土坑全景	70号土坑全景	111号土坑全景
23号土坑全景	71号土坑全景	112号土坑全景
24·25号土坑全景	72号土坑全景	113号土坑全景
26号土坑全景	PL.38	114号土坑全景
27号土坑全景	73号土坑全景	115号土坑全景
28号土坑全景	74号土坑全景	116号土坑全景
29号土坑全景	74·75·76号土坑全景	117号土坑全景
30号土坑全景	75号土坑全景	PL.43
PL.34	76号土坑全景	118号土坑全景
31号土坑全景	77号土坑全景	119号土坑全景
32号土坑全景	78·79号土坑全景	120号土坑全景
33号土坑全景	80号土坑全景	121号土坑全景
34号土坑全景	PL.39	122号土坑全景
35号土坑全景	81号土坑全景	123号土坑全景
36号土坑全景	82号土坑全景	124号土坑全景
37号土坑全景	83号土坑全景	125号土坑全景
39号土坑全景	84号土坑全景	PL.44
PL.35	85号土坑全景	126号土坑全景
41号土坑全景	86·106号土坑全景	127号土坑全景
42号土坑全景	87号土坑全景	128号土坑全景
43号土坑全景	88号土坑全景	129号土坑全景
44号土坑全景	PL.40	131号土坑全景
45号土坑全景	89号土坑全景	132号土坑全景
46·47号土坑全景	90号土坑全景	133号土坑全景
48号土坑全景	91号土坑全景	134号土坑全景
49号土坑全景	92号土坑全景	PL.45
PL.36	93号土坑全景	135号土坑全景
50号土坑全景	94号土坑全景	136号土坑全景
59号土坑全景	95号土坑全景	137号土坑全景
60号土坑全景	96号土坑全景	138号土坑全景
60·72号土坑全景	PL.41	139号土坑全景
61号土坑全景	97号土坑全景	140号土坑全景

141号土坑全景  
142号土坑全景  
PL.46  
143号土坑全景  
144号土坑全景  
145号土坑全景  
146号土坑全景  
147·157号土坑全景  
148号土坑全景  
149号土坑全景  
150号土坑全景  
PL.47  
153号土坑全景  
154号土坑全景  
155号土坑全景  
156号土坑全景  
158号土坑全景  
PL.48 出土遺物 (1)  
PL.49 出土遺物 (2)  
PL.50 出土遺物 (3)  
PL.51 出土遺物 (4)  
PL.52 出土遺物 (5)  
PL.53 出土遺物 (6)  
PL.54 出土遺物 (7)

## I 発掘調査と遺跡の概要

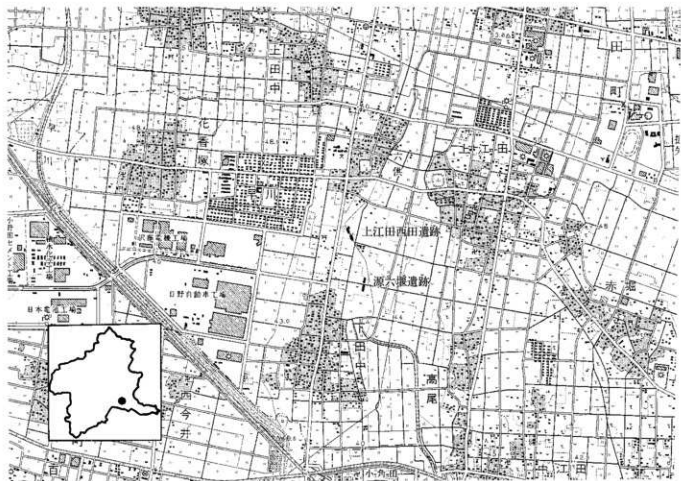
### 1. 発掘調査にいたる経過

利根川支流の石田川は太田市新田町から尾島町に至る市内南西部を東南流する小河川である。平成元年以降石田川を流れる上流部に大規模な工業団地が造成され、また宅地開発も活発に行われているため集中豪雨が続きこれらの開発地に集積した雨水が石田川に集中し、下流で洪水被害にみまわれる被害が相次いだ。

そのため流域全体での河川改修事業が群馬県土木部で計画され、平成5年度から県教育委員会により事業地での試掘調査が各事業ごとに実施された。

確認された遺跡については、翌6年太田市上江田西田遺跡を第一次調査として断続的に平成13年度まで継続することとなった。

このうち平成6年度上江田西田遺跡・平成9年度源六塚遺跡を当事業団が実施した。上江田西田遺跡、源六塚遺跡の発掘調査は石田川流路に接する部分のため濁水期である冬期に行った。



第1図 遺跡位置図（日本地理院 1：25,000）地形図使用

## II 周辺の遺跡と環境

### 1. 地理的環境

石田川は大間々扇状地の末端である太田市新田町大根の矢太神沼を源流とし、同市世良田町まで約5km南流した後、東に流れを変え同市古戸で利根川に合流している。全長約15kmの小河川であり、狭いところでは幅2～3mにすぎない南流部分に比べ、扇状地末端の多くの湧水を集める東流部分は急激に川幅を広め約10mに達する。

さらに石田川には支流が幾筋もあり、その中で石田川と利根川が合流する3kmほど上流で最大の支流、蛇川が分岐している。蛇川は扇状地東側にある八王子丘陵からの水を集める。蛇川に対し、金山丘陵から流れる水は八瀬川となって利根川合流部の約1km手前で石田川と合流する。

蛇川合流点以東は、明治元年には石田川でなく蛇川と呼ばれていた。石田川と利根川合流部2km手前両川の間には小島地区があり、埼玉県熊谷市に所属している。このことから近世には利根川本流部であったと考えられる。

さて蛇川以西の地域は豊富な湧水からの水が、木崎台地などの点在する微高地地形が形成されるがこれに対し東岸は邑楽台地に続く比高5mほどの高林台地が展開している。

上江田西田遺跡と源六堰遺跡は大間々扇状地の藪塚面にあり標高は40mに立地する。

### 2. 歴史的環境

#### 旧石器時代

上江田西田遺跡と源六堰遺跡の所在する太田市西部は利根川流域にあたり、旧石器時代の遺物は余り確認されていないが、中江田遺跡(31)、重殿遺跡(34)で、最終末期のナイフ形石器が出土している。

#### 縄文時代

草創期は中江田A地点で爪形土器がまとまって出土した。中江田遺跡はその後前期間山式から黒浜

式、譜読a・b式と続き、縄文前期の分布も多いが、出土土器はあまり多とはいえない。中期になると遺跡の分布は増え、当遺跡でも出土している加曾利E式、後期の加曾利B式土器が出土する。石田川の湧水点の1つである矢太神沼そばに矢太神沼遺跡(44)があり、加曾利E2・3式土器が出土し、さらに後期堀之内1式期の住居跡が確認されている。また太田市小角田前遺跡では堀之内2式期の住居跡を確認した。一丁田遺跡(40)では中期加曾利E4式期の柄鏡形住居跡が確認されている。このように当地域では草創期から始まり前・中・後期へと断続的ながら、遺跡立地が認められる。

#### 弥生時代

東毛平野部は今まで弥生時代の遺跡が少ないとされていた。しかし、国道17号バイパス工事や、近年の北関東自動車道の事前調査により、多くの弥生時代遺跡の資料が蓄積されている。阿久津宮内遺跡では中期条痕文土器が確認され、長楽寺遺跡(67)、歌舞伎遺跡(69)では中期の土器が確認されている。太田市台遺跡(28)、矢太神遺跡、東田遺跡(45)、中江田遺跡では棒式土器や赤井戸式土器を確認している。

このように以前には弥生時代の遺跡が少なく不毛の曠野とも指摘されていた低地部から、近年いくつかの弥生時代の遺構が確認されるようになった。

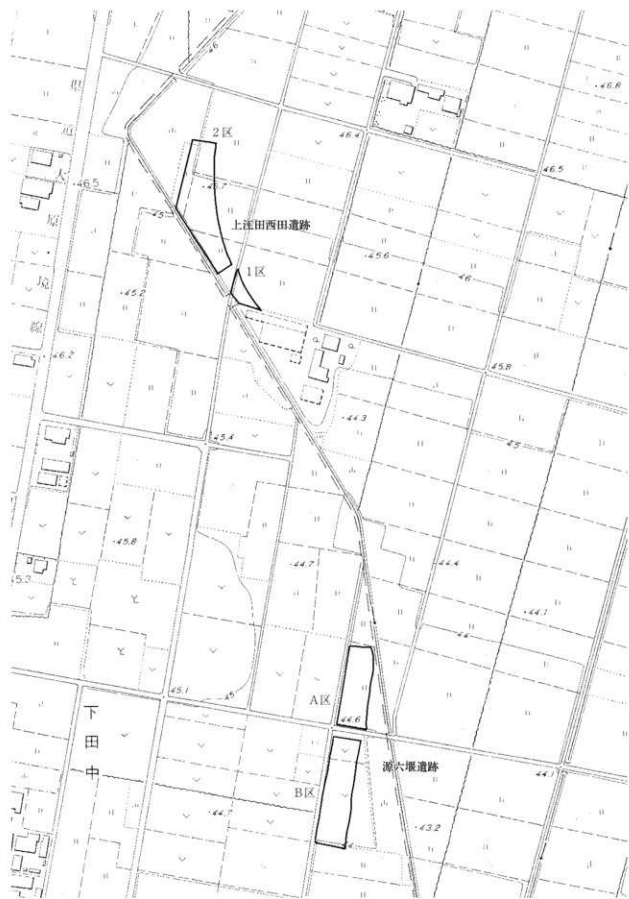
分布密度は稀薄だが、小規模集落の散在は間違いない。

#### 古墳時代

古墳時代になると、弥生時代中期から継続的に遺跡数が増え、谷地の台地縁辺や、古墳時代中期以降になるとさらに谷状地形以外の場所へと耕地が拡大していく。

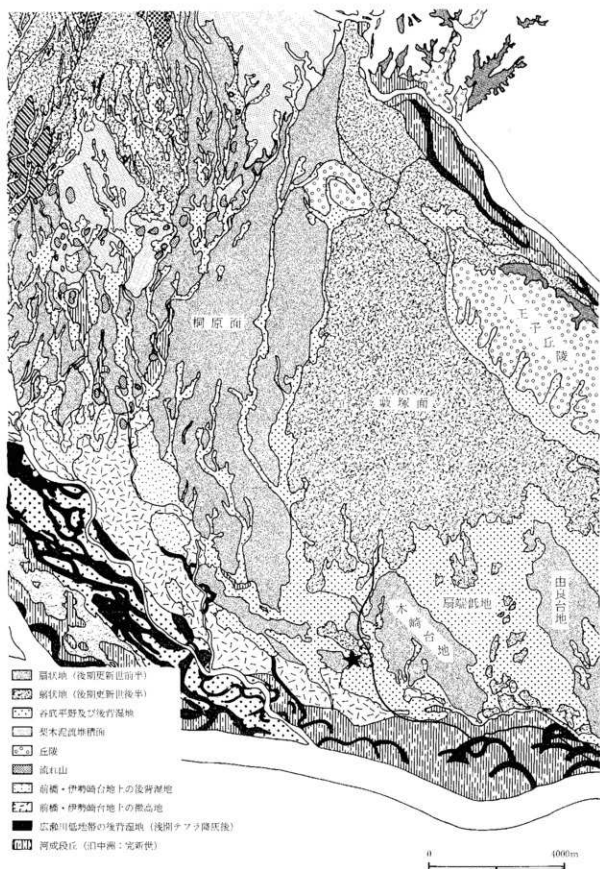
源六堰遺跡、上江田西田遺跡の調査でも古墳時代前期の土器群が出土している。残念ながら大半は遺構外の出土である。群馬県内には古墳時代前期の土器様式として石田川式土器がある。

当時は古墳時代前期にいたり、新しい開拓と考えられたが、周辺での弥生時代中期から後期へと継続

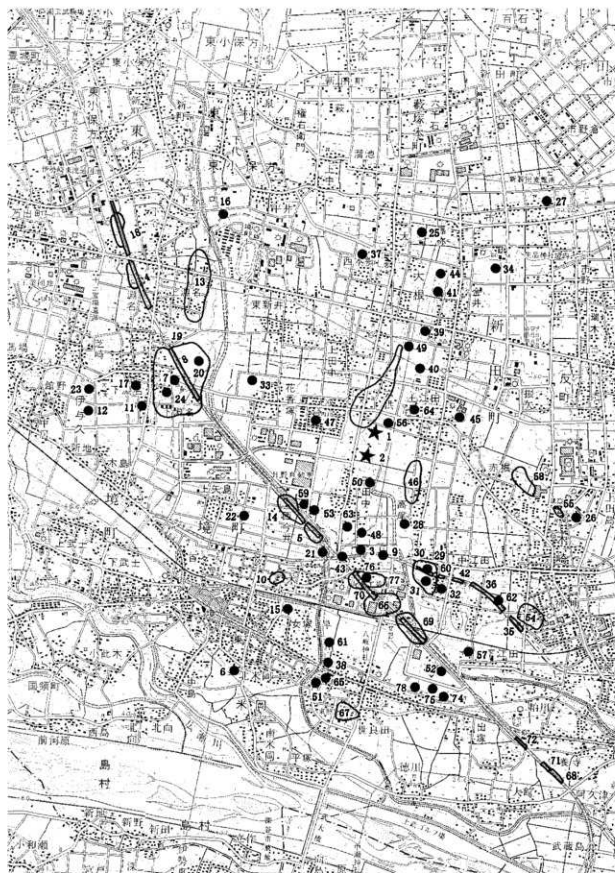


第2図 調査区 (国土地理院 1:25,000)

## II 周辺の遺跡と環境



第3図 大間々扇状地と位置図 (群馬県史1付図2を使用 一部改変)



第4図 周辺遺跡図 (国土地理院 1:50,000)



## Ⅱ 周辺の遺跡と環境

第1表 遺跡周辺の遺跡

	縄文時代				古墳時代						奈良時代		中世	備考	
	前・中	早期	中期	後期	前期	中期	後期	前期	中期	後期	前期	後期			
1 上江田西田遺跡			○	○	住居										
2 源六塚遺跡				○											
3 下田中倉遺跡					○										
4 上流名古墳分遺跡	○								○	○			水田	時期不明	
5 三ツ木遺跡			○	○	○					○			○	○	
6 北栗河遺跡				○				○							
7 明神遺跡					○								○	○	
8 下流名塚遺跡				○	○			○	○	○			○	○	
9 小舟田遺跡														田舎	
10 西木遺跡					○				○						
11 田口遺跡					○	○		○							田舎
12 島津戸遺跡					○								○	○	
13 上流名古墳群					○					○			○	○	
14 西ヶ井遺跡										○			○	○	
15 友原遺跡										○					
16 鶴名古墳										○					西岡石室山前使用の横穴式石室
17 上流遺跡3地点															
18 三ツ木ノ谷遺跡										○				水田	
19 下流名遺跡										○					
20 寺家遺跡													○		
21 三ツ木峠戸遺跡													○		
22 上矢島遺跡													○		
23 土物・三ツ古原遺跡													田下		
24 大岡神社															延喜式内社
25 東木遺跡	○														
26 大森寺遺跡	○														
27 愛宕遺跡	○														
28 台遺跡	○														
29 中江田A1地点遺跡		○	○	○											
30 中江田A2地点遺跡				○											
31 中江田B地点遺跡		○	○	○											
32 中江田C地点遺跡		○	○	○											
33 蟹子木遺跡		○	○	○											
34 藤原遺跡		○	○	○											
35 花原遺跡		○	○	○											
36 中江田東遺跡			○	○	○	○							○	○	
37 田成坊遺跡			○	○											
38 徳田上野田遺跡														水田	○
39 新野遺跡		○	○	○											
40 一ノ田遺跡				○											
41 矢太神遺跡				○	○										
42 中江田本郷遺跡										○			○	○	
43 下田中川久保遺跡															
44 矢太神遺跡				○	○										
45 栗田遺跡					○										○
46 谷津遺跡					○								○	○	
47 下田中遺跡										○					
48 中倉遺跡													○	○	
49 大野遺跡群					○										
50 谷津遺跡					○								○	○	
51 今井遺跡					○										
52 徳田川下遺跡														水田	○
53 淵田下遺跡										○					
54 本郷中野村遺跡													○		
55 大森寺後遺跡													○		
56 西田遺跡													○	○	年代不明の長方形土坑・住居から出土
57 矢太神社古墳													○		前方後円墳、西岡石室山前使用の横穴式石室
58 徳田古墳群															
59 西ヶ井土遺跡													○	○	人跡土器
60 中江田留遺跡															
61 上新田遺跡															○
62 中江田八ツ縄遺跡															
63 三ツ木田遺跡															
64 江田船遺跡															
65 新田船遺跡															
66 尾島丁常陸屋遺跡				○	○	○		○	○	○		○	○	島	
67 長楽寺遺跡									○						○
68 阿久津宮内遺跡					○					島			島	○	○
69 歌籠屋遺跡					○				○				○	○	
70 小舟田前遺跡					○								○	○	
71 大野馬場遺跡										島			島	○	○
72 安楽寺寺内遺跡													島	○	○
73 玉取取遺跡															○
74 一本松城古墳										○					
75 じど木山古墳													○		
76 小舟田古墳群													○		
77 小舟田下遺跡													○	○	
78 二休地蔵古墳													○	○	本跡非口

する地域であることが近年わかってきた。

上江田西田遺跡では遺構の確認はないが前期土器が多量に出土し、源六堰遺跡では前期の住居跡が確認されている。

#### 奈良・平安時代

この時期になると古墳時代から継続する集落、耕地と、さらに新たに開発される集落が急増していく。

さらに東山道などの官道も造られ、畿内中央との関係も指摘できる。天良七堂遺跡は新田郡衙と考えられ、十三宝塚遺跡等の存在と合わせ東山道のルートが指摘できる。

この道のためか周辺には集落遺跡が増えていく。また耕地拡大に伴い水田跡や島遺構が石田川周辺の遺跡群で確認されている。

#### 中世

中世になると新田郡は新田荘に引き継がれ、遺跡周辺には館跡も確認されるようになる。新田荘は1157(保元2)年新田義重によって仁和寺の法金剛院領に寄進されたとされている。

1108(天仁元年)年になると群馬県域の広い範囲に浅間山噴火による火山灰や軽石が降下し、大災害を受けることになる。この時の災害復旧に伴いさらにこの周辺は荘園化していく。

さてこのように石田川周辺地域は縄文時代から弥生時代中期、後期、古墳時代へと継続していく地域である。縄文時代は湧水を求め、弥生時代以降は農耕適地として選択されていく地域といえる。

### 3. 遺跡の概要

上江田西田遺跡では、縄文時代後期前葉の堀之内式土器主体の出土傾向が指摘できる。住居跡は痕跡として2軒、他に土坑が確認された。

源六堰遺跡は同じく縄文時代後期初葉の称名寺式土器を主体として出土する。縄文時代の遺構は土坑が主体で、古墳時代後期の住居跡が確認されている。

両遺跡とも縄文時代が後期初葉から前葉に集中し、湧水点の矢太神遺跡とはほぼ並行、継続する遺跡と考えられる。

また上江田西田遺跡では河川による、洪水堆積土の下より多量の土師器が出土した。遺物の時期は群馬県で石田川遺跡出土土師器と同様古墳時代前期にあてられる。

本遺跡でも河道の攪乱により遺構は確認されていないが、古墳時代前期の住居跡とともに、遺構外から多量の土師器が検出されている。

## III 調査の方法

### 1. グリッドの設定

上江田西田遺跡は南北に流れる石田川西岸である。遺跡南西部を定点とし、5mの正方形グリッドを設定した。グリッドは南から北に向かいアルファベットを振り、東に向かいアラビア数字を振った。なお南北についてはZをすぎると新たに2A、2B、2C……とし、東西については1～20までにとどめて遺構は1からふり直した。

この結果、定点であるA1グリッドは遺跡外に所在し、その南西部座標点はX=32445、Y=-49876である。

各々のグリッドの呼称は西北部の杭を使用した。つまりB2グリッドとは杭の南東部の範囲を指す。

源六堰遺跡は上江田西田遺跡よりさらに南に約1kmの場所に位置し、平成9年度に調査が行われた。調査年度が異なり、遺跡間の距離が遠いため調査担当者の協議の結果、上江田西田遺跡の方眼をあててことをやめて国家座標をそのままあてることとした。座標点は全体図に示してある。

このため源六堰遺跡には方眼が組まれていない。源六堰遺跡は遺構の一番近い部分の国家座標の下3桁を掲示している。

## 2. 調査の概要

### (1) 上江田西田遺跡

上江田西田遺跡は南北に走る河道部の南側を1区とし、北側を2区として調査を開始した。

出土する遺物は、縄文時代後期前葉の堀之内式土器群を主体として、中期勝坂式や加曾利E式と後期後半の加曾利B式などの土器が見られる。遺構については明確には周壁、竪は確認できなかった1号住居跡と、同じく周壁は確認できなかったが、竪を持つ2号住居跡を検出した。住居跡2軒、土坑、溝を確認した。河道の移動により遺構外の出土物が多いが、縄文時代は後期の土器が集中し、古墳時代前期の土器も暗褐色土(Ⅲa)から大量に出土している。

### (2) 源六塚遺跡

源六塚遺跡は南北に走る河道部を分けるように中央部が未買収であったため、北側半分から調査に入りA区とした。調査中に用地を取得し、南側をB区とした。

A区には土坑が群をなして100基以上確認され、B区には2軒の住居跡が検出された。

1号住居跡の時期は確認面が浅く、半分が調査区外に延びるが、2軒とも出土遺物から古墳時代前期と確認された。

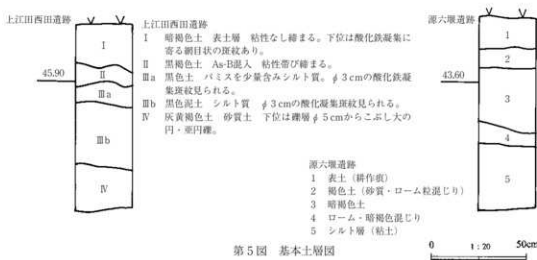
## 3. 基本土層

### 上江田西田の基本土層

- I 表土 現在の水田耕土。色調の違いから客土と思われる地点も見られる。近世～現代の陶磁器類を含む。
- II 黒色土 As-Bを含む。鉄分凝集斑が見られる。粘性高く、水田耕土であった可能性がある。
- III a 黒色土 黄白色バミス(Hr-FAかAs-C)をまばらに含む。粘性が高く、水田耕土であった可能性が高い。
- III b 黒色泥土 未分解の植物体を含む。河道を埋積した主堆積層で、縄文～古墳時代前期の遺物を含む。縄文後期の遺構を厚く覆っている。

### 源六塚遺跡の基本土層

- 1 表土 現在の耕作土
- 2 褐色土 砂質土、ローム粒が混じる。やや粘性があるが砂が混入する。河道の影響と考えられる。
- 3 暗褐色土 粘性が高く、土器器片、縄文土器片の遺物を含む。
- 4 ローム粒と暗褐色土層の混じった層、A区では土器器出土住居跡の確認面、B区では土坑の確認面にもあたる。縄文後期の遺物を含む。



# 上江田西田遺跡

## IV 検出された遺構と遺物

### 1号住居跡

1区南部に位置し、EFG10～11の範囲にある。住居跡の輪郭ははっきり確認できていない。FG10～11グリッドの中に敷石が確認され、柄鏡形敷石住居跡と考えられる。石は人頭大で、平坦に敷かれている。敷石の廻りには12、14号土坑、13、15、16、17号ピットが確認され、さらに南にやや離れ、18号ピットが確認されている。出土遺物は敷石の周辺から同じレベルで称名寺2式期から堀之内2式期の土器が出土し、主体は堀之内1式段階にある。

### 2号住居跡

1区南部に位置し、FG8・9の範囲にある。1号住居跡の西北に接するように所在する。2号住居跡も1号住居跡同様、河川の洪水等により壁等のほりこみは確認できなかった。G9グリッド南部で敷石が確認され、また中央部に土器埋設坑が検出されたことにより柄鏡形敷石住居跡とした。炬の北側に近接してNo1～4・8などの土器片が出土している。炬を中心にしてその外周3mほどの位置にP5～P8のピットが確認され、住居跡に付設された可能性が指摘できる。出土遺物は炬跡周辺にまとまって出土し、称名寺2式期から堀之内1式土器が出土し、主体は堀之内1式期にある。

### 土坑・ピット

1区には土坑が14基確認されている。遺構の位置・形状・規模・出土遺物等の所見は土坑一覧表に記載してある。遺物出土が確認されているのは1～4号・7～9号・13号・14号土坑である。遺物は縄文時代後期前葉、堀之内1・2式土器である。

出土土器はすべて土坑かピットないし谷埋積土層からであり、明確に各遺構の時期を示すのは難しいと考えられる。遺物が出土しない土坑も遺物を出す土坑同様、石田川の右岸の西側にあり、侵食された台地の部分にあたる。川の侵食による崩壊を免れたものと考えられる。古墳時代には湿地であったと考えられるので、この地点での土坑はそれ以前

(縄文時代)ととらえたい。

1号住居跡の範囲内から検出された12・14号土坑は12号、長径79cm、短径53cm、深さ35cm、形態は東半部が川にかり壊されているため不明である。14号が、長径185cm、短径153cm、深さ23cmを測り、隅丸形状を呈する。これらの土坑と1号住居跡との関係は不明であるが、出土遺物は後期前葉の堀之内式土器を主体にしており、住居跡に伴うと考えてよい。

2号住居跡の範囲内から検出された7号土坑の規模は長径170cm、短径140cm、深さ12cmの円形を呈し、4号ピットの規模は長径86cm、短径68cm、深さ25cmを測る円形である。出土遺物は縄文時代後期前葉堀之内式土器が主体を占めるが、その配列には規則性はうかがえず、2号住居跡に付随する施設か否か不明である。P5～P8は壁柱穴の可能性もある。

各々の規模はP13：長径59cm、短径41cm、深さ7cm、P15：長径35cm、短径25cm、深さ7cm、P16：径31cm、深さ13cm、P17：径38cm、深さ5cm、P18：径32cm、深さ7cmを測る。

### 溝

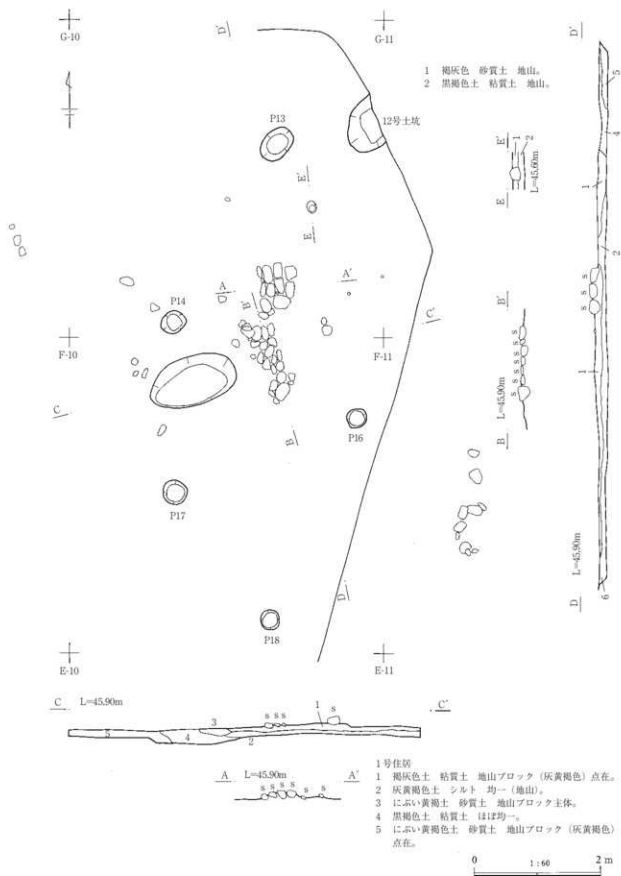
上江田西田遺跡では1～6号の5条の溝が検出された。すべて18世紀から近現代にあてられる。溝からは木器が出土している。

杭は先端を鋭利な道具で削って尖らせてある。樹種はコナラ節である。

4号溝、5号溝から各々一足の近世の下駄が出土している。2号溝からも近世の煙管の雁首が出土している。

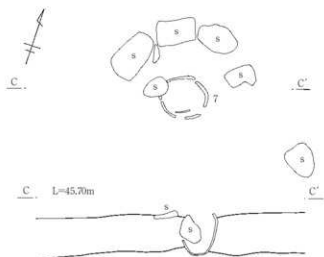
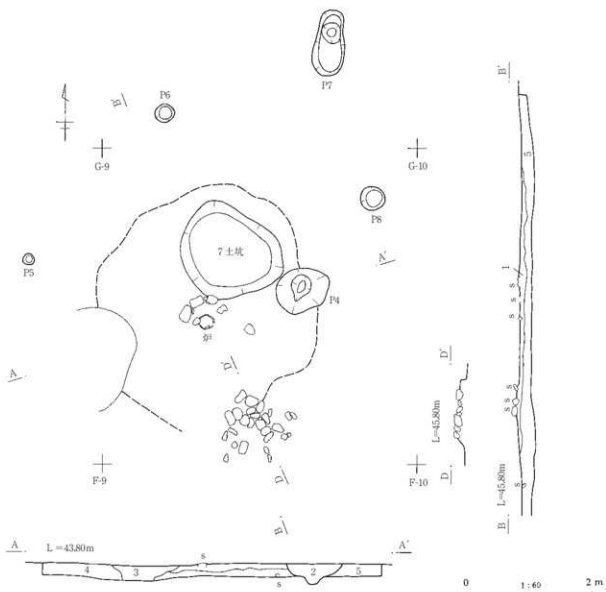
### 遺構外出土遺物

河川の氾濫に伴う堆積土中（基本土層4・5層）からたぐさんの縄文土器、土師器とともに打製石斧4点、凹み石8点、砥石6点が出土している。砥石はすべて砥沢石を石材としている。



第6図 1号住居跡

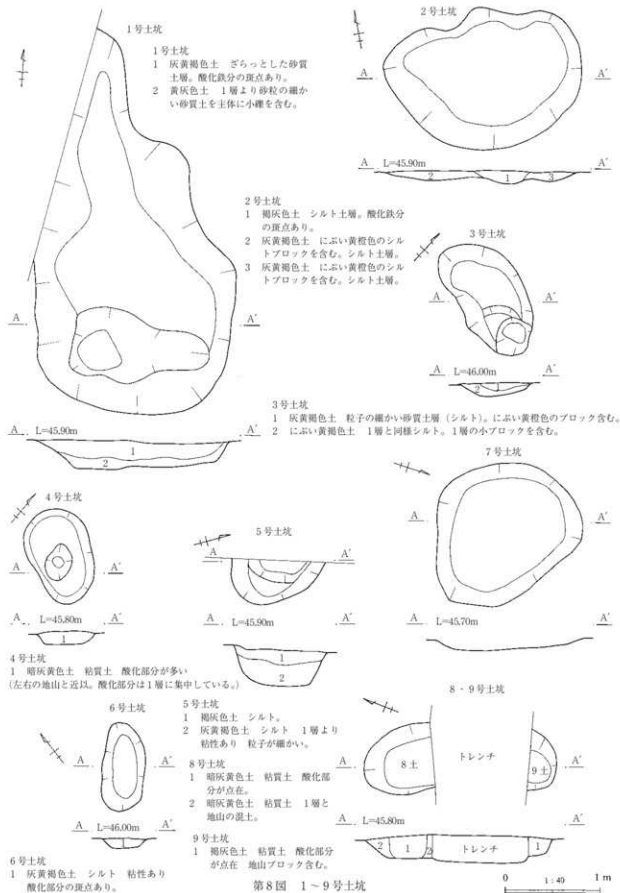
IV 検出された遺構と遺物



2号住居

- 1 にぶい黄褐色土 砂質土と粘土の混土、粘性あり。
- 2 灰黄褐色土 砂質土と粘土の混土。粘性あり。1層より黒色が強い。
- 3 灰黄褐色土 砂質土と粘土の混土。粘性あり。
- 4 青灰色土 砂礫層 米粒大～こぶし大の礫混入。
- 5 青灰色土 地山の砂礫。

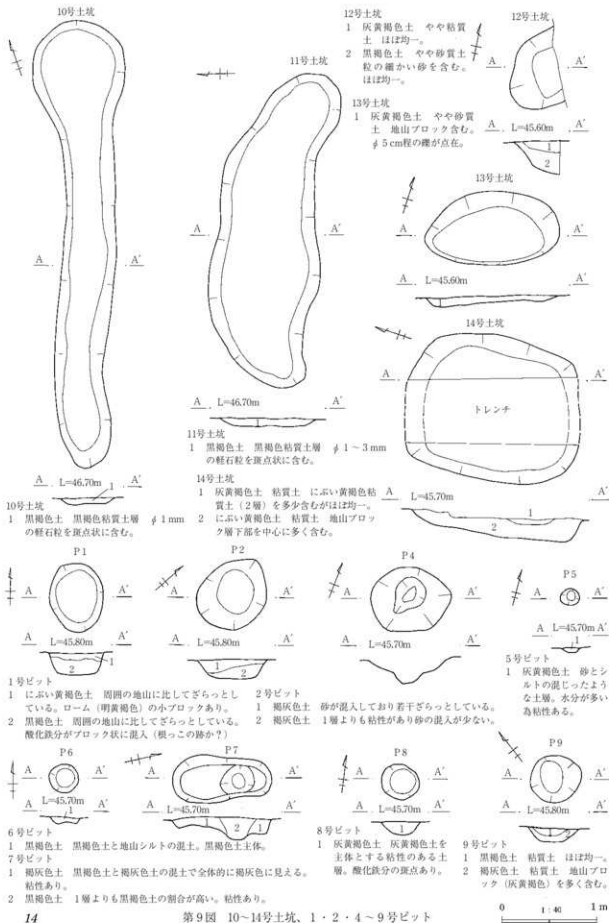
第7図 2号住居跡・竈

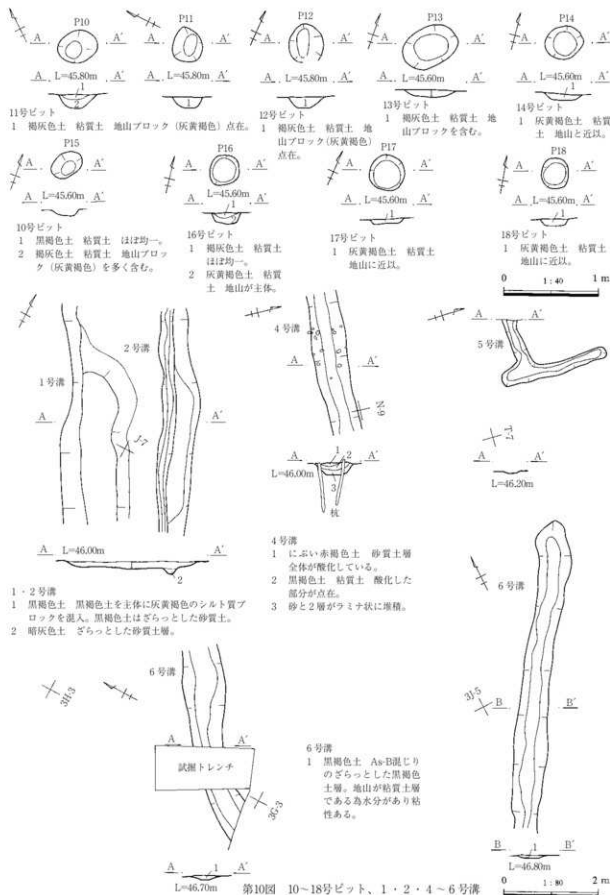


第8図 1~9号土坑



IV 検出された遺構と遺物





第10図 10~18号ピット、1・2・4~6号溝

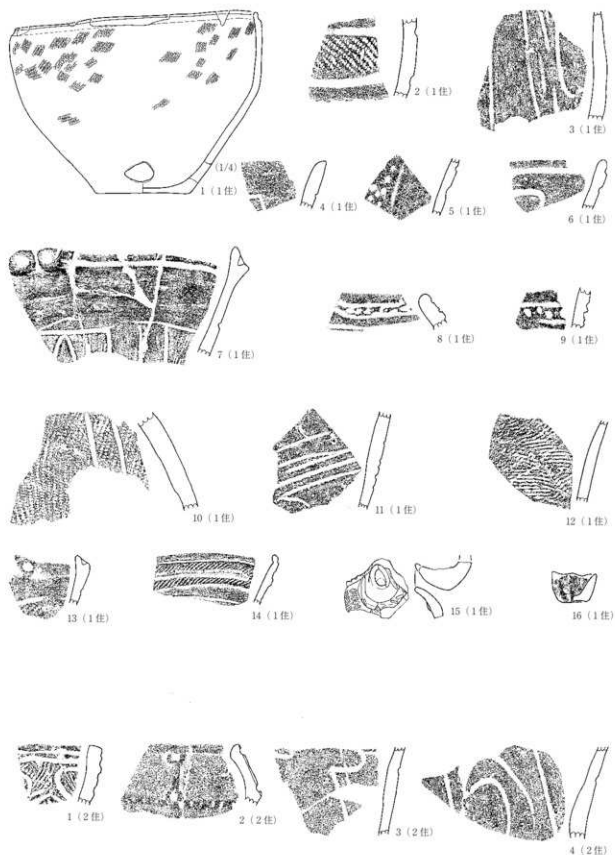
Ⅳ 検出された遺構と遺物

第2表 土坑・ピット・溝計測表

番号	長径	短径	深さ	形状	位置	遺物
土坑 1	406	213	30	楕円形	O-4	堀之内Ⅰ式土器
土坑 2	210	150	14	楕円形	N-5	堀之内Ⅰ式土器
土坑 3	136	71	12	楕円形	O-5	後期前半
土坑 4	100	65	12	楕円形	L-6	堀之内Ⅰ式土器
土坑 5	98	47	40		P-5	
土坑 6	93	46	9	楕円形	P-5	
土坑 7	170	140	12	円形	G-9	加曾利E式土器・前期後半
土坑 8	72	70	23		K-6	堀之内Ⅰ・2式土器
土坑 9	63	29	18		J-6	後期前半
土坑 10	473	56	7	隅丸長方形	3F-18	
土坑 11	334	106	10	楕円形	3F-19	
土坑 12	79	53	35		G-10	
土坑 13	142	79	10	楕円形	F-10	堀之内Ⅱ式土器
土坑 14	185	153	23	隅丸方形	H-10	称名寺Ⅱ式土器

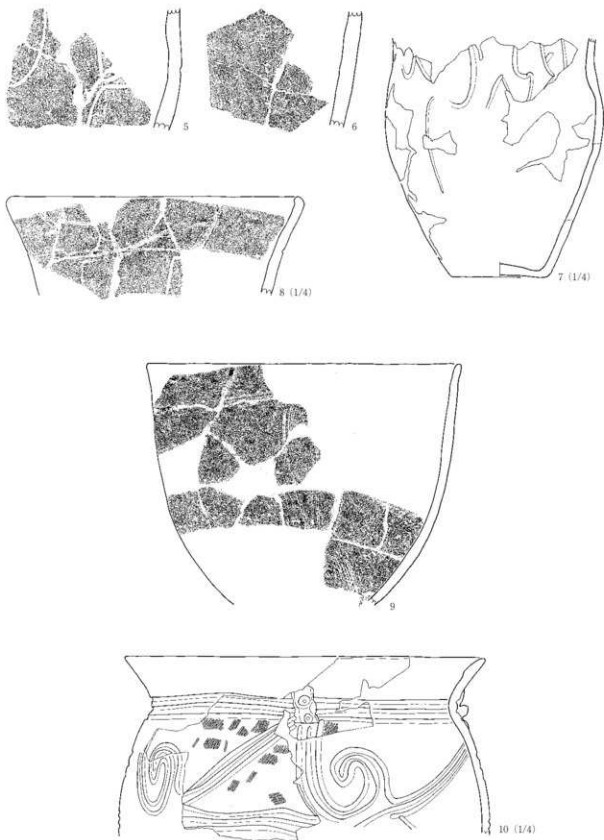
番号	長径	短径	深さ	形状	位置
ピット 1	73	57	24	楕円形	H-8
ピット 2	82	66	19	円形	I-9
ピット 4	86	68	25	円形	G-9
ピット 5	20	17	5	円形	G-8
ピット 6	30	29	7	円形	H-9
ピット 7	104	40	23	隅丸長方形	H-9
ピット 8	39	38	14	円形	G-9
ピット 9	55	50	16	円形	K-6
ピット 10	41	34	15	円形	K-6
ピット 11	37	31	11	円形	K-6
ピット 12	40	37	13	円形	K-5
ピット 13	59	41	7	楕円形	G-10
ピット 14	40	35	7	円形	G-10
ピット 15	35	25	7	楕円形	G-10
ピット 16	31	31	13	円形	F-10
ピット 17	38	37	5	円形	F-10
ピット 18	32	29	7	円形	F-10

番号	幅	深さ	位置
1号溝	282	14	D～M-5～10
2号溝	28	15	G～M-5～9
4号溝	73	27	L～O-4～9
5号溝	30	5	2A-6
6号溝	65	10	3G～k-2～5



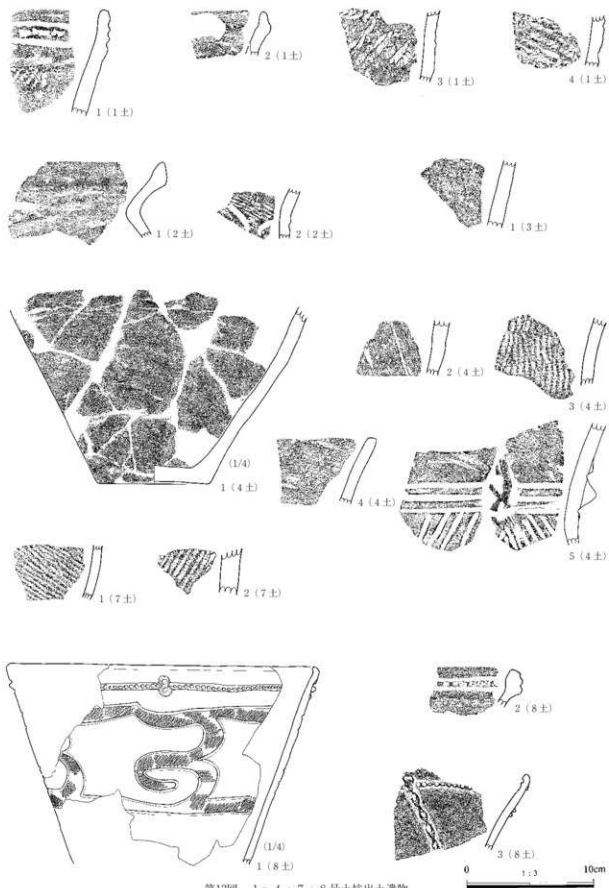
第11圖 1・2号住居跡出土遺物

IV 検出された遺構と遺物



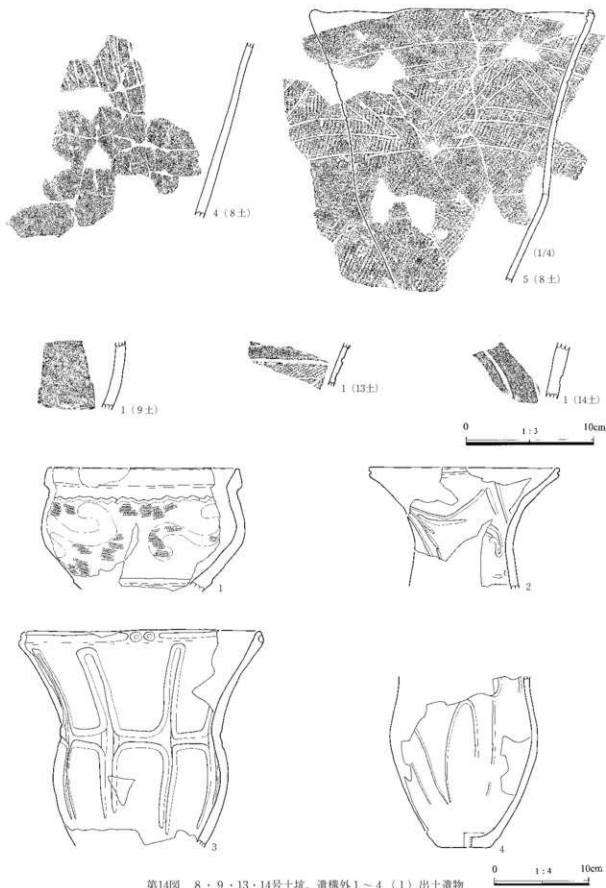
第12図 2号住居跡出土遺物

0 1:3 10cm

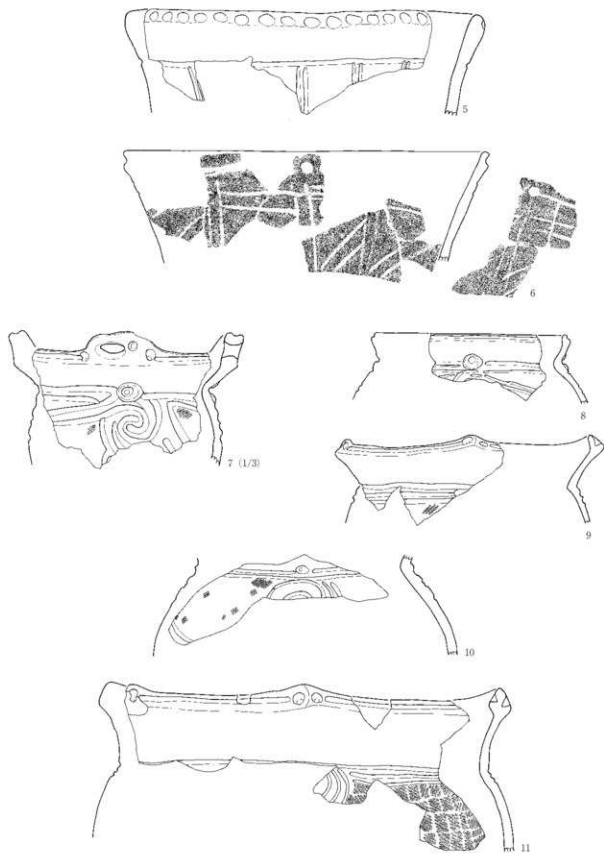


第13図 1~4・7・8号土坑出土遺物

IV 検出された遺構と遺物



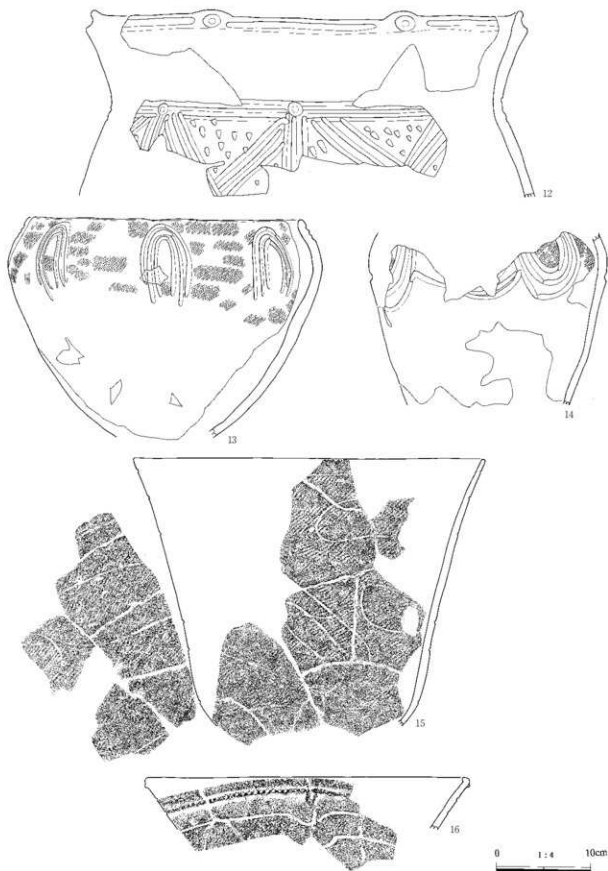
第14図 8・9・13・14号土坑、遺構外1～4 (1) 出土遺物



第15図 遺構外出土遺物 5~11 (2)



IV 検出された遺構と遺物

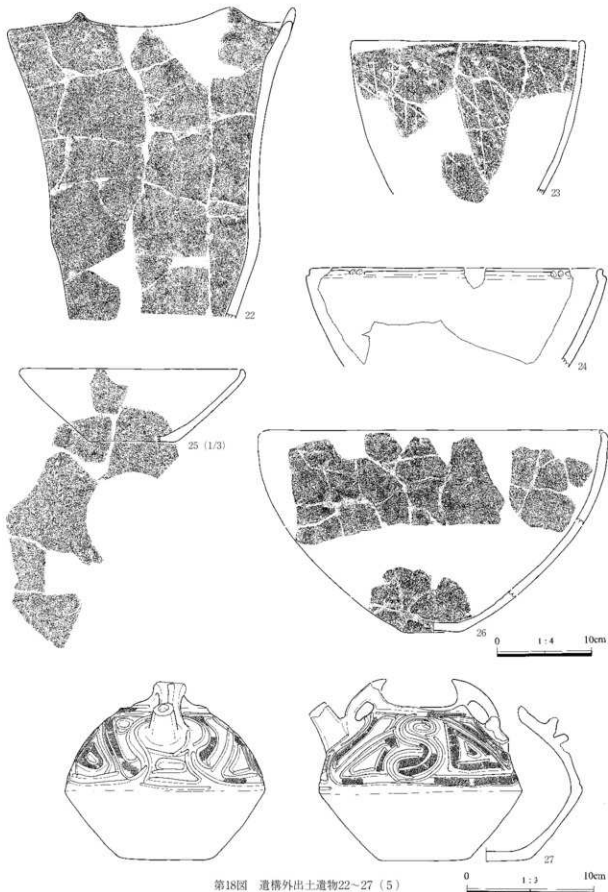


第16図 遺構外出土遺物12~16 (3)



第17図 遺構外出土遺物17~21 (4)

IV 検出された遺構と遺物



第18図 遺構外出土遺物22~27 (5)



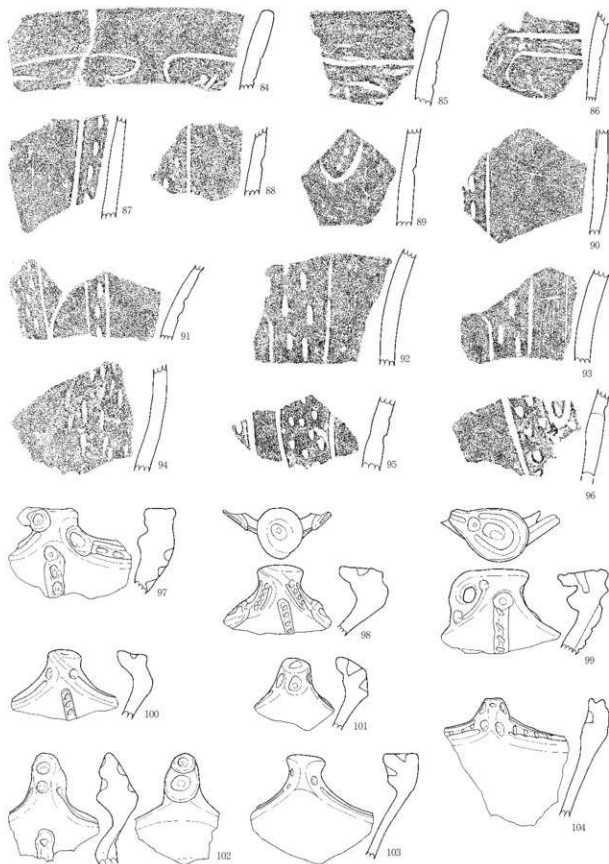
第19図 遺構外出土遺物28~62 (6)

IV 検出された遺構と遺物



第20図 遺構外出土遺物63~83 (7)

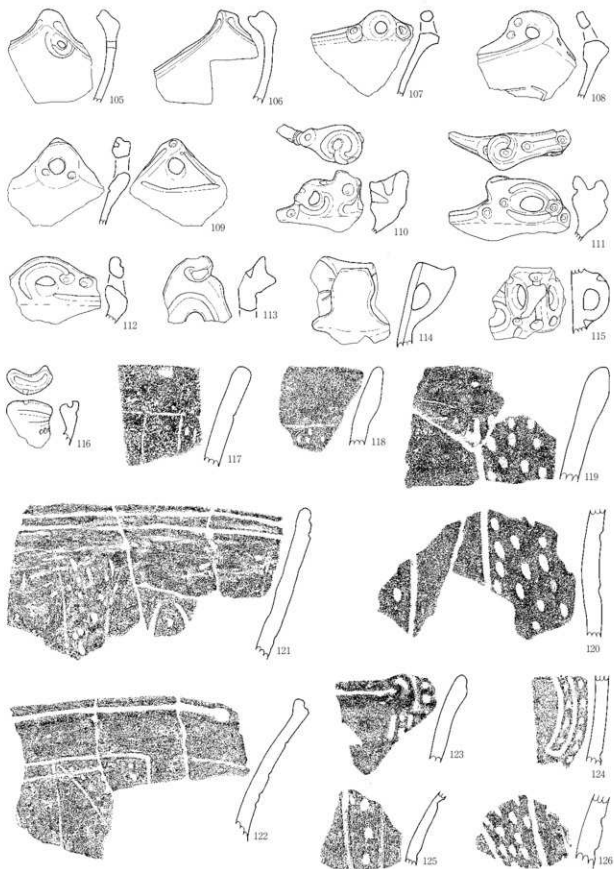
0 1:3 10cm



第21図 遺構外出土遺物84~104 (8)

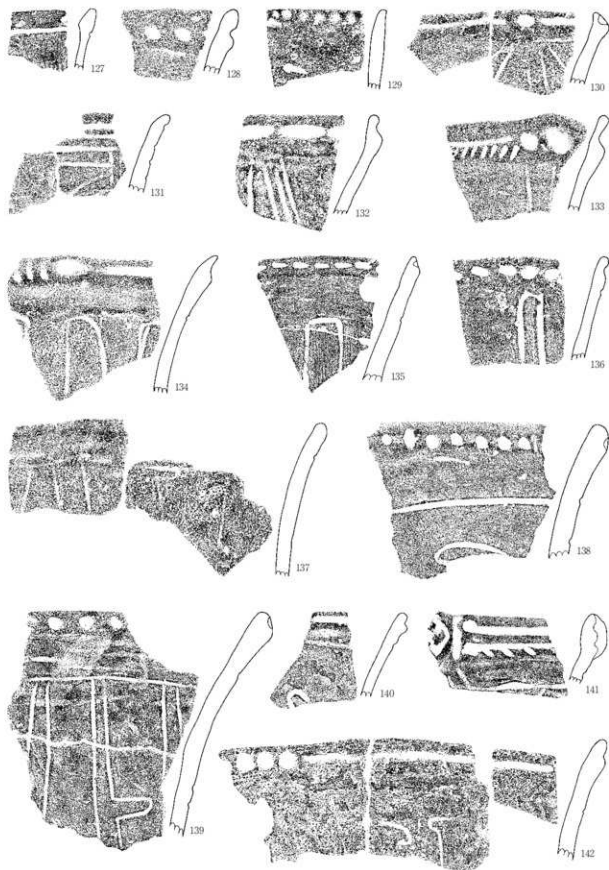
0 1:3 10cm

IV 検出された遺構と遺物



第22図 遺構外出土遺物105~126(9)

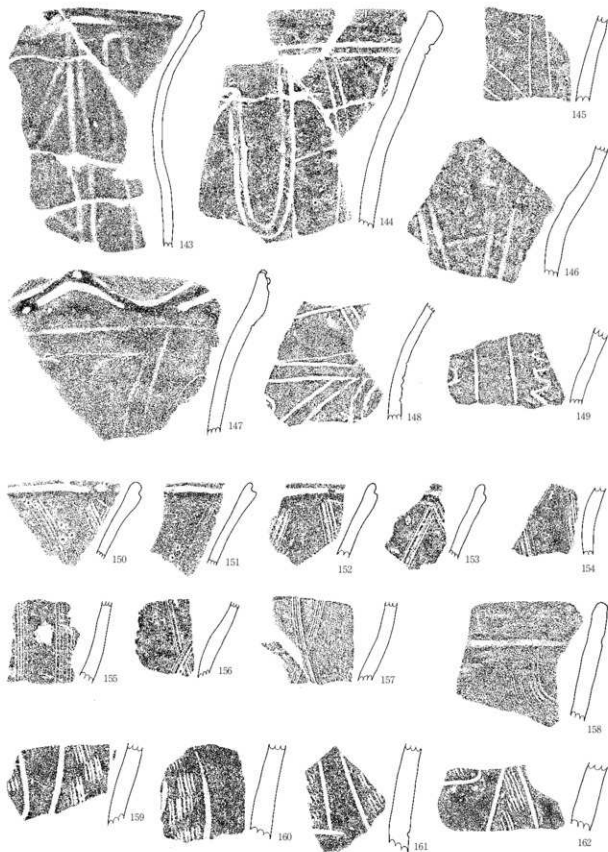
0 1:3 10cm



第23図 遺構外出土遺物127~142 (10)

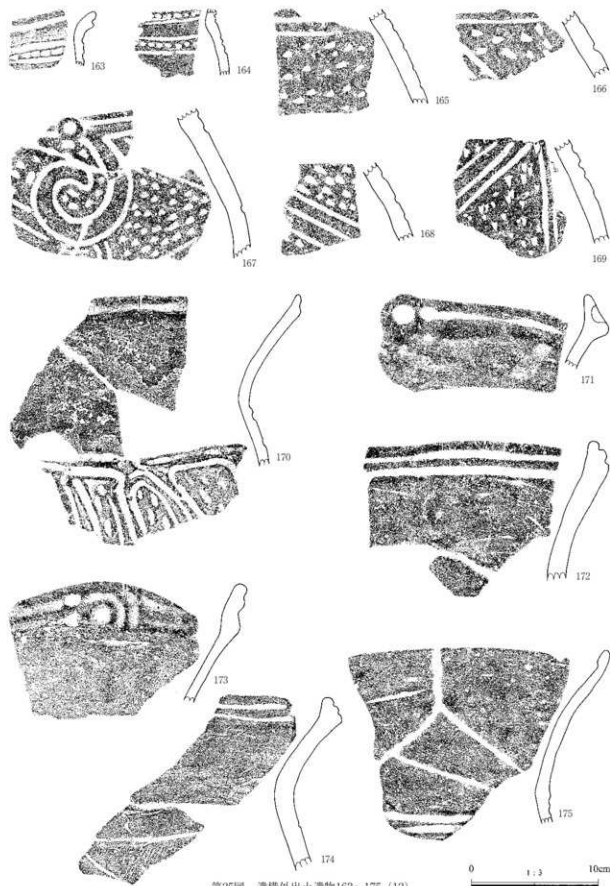


IV 検出された遺構と遺物



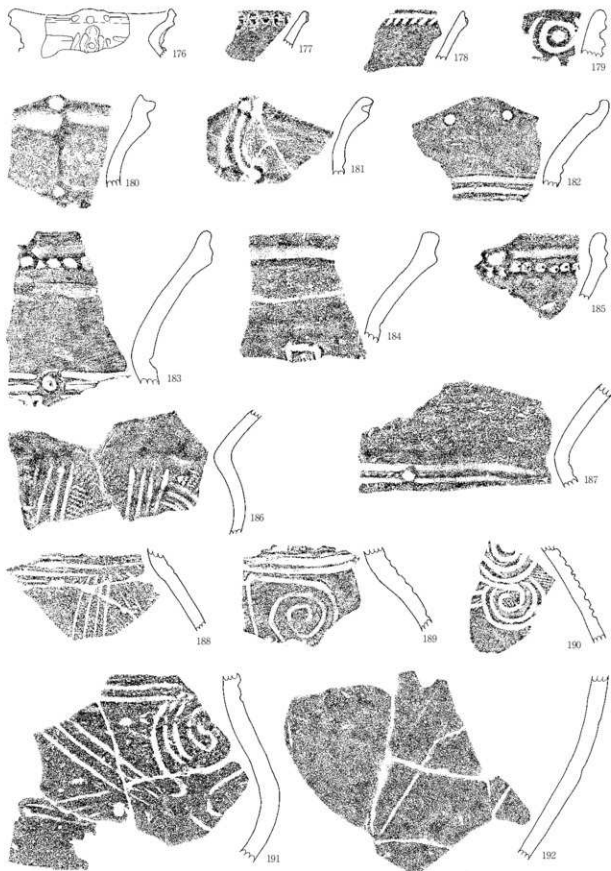
第24図 遺構外出土遺物143～162 (11)

0 1:3 10cm

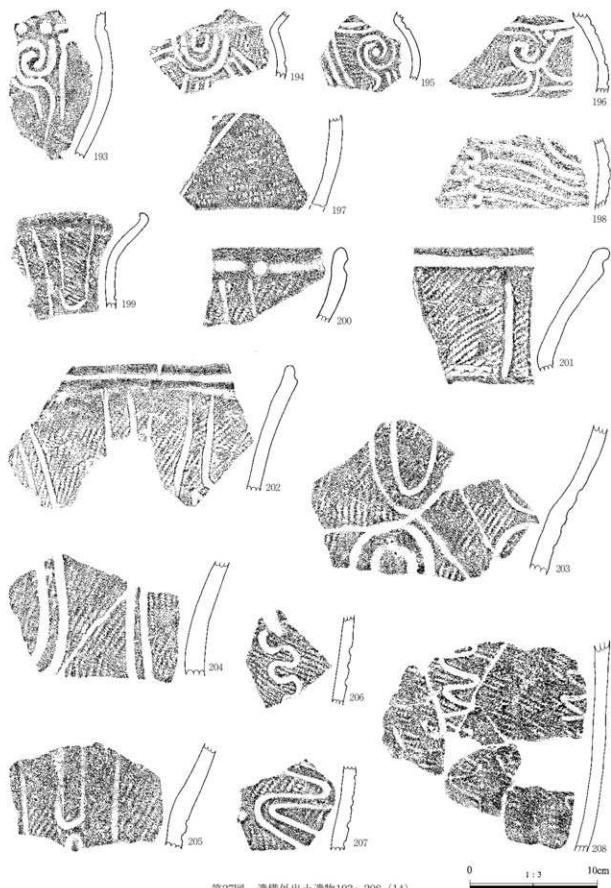


第25図 遺構外出土遺物163~175 (12)

IV 検出された遺構と遺物

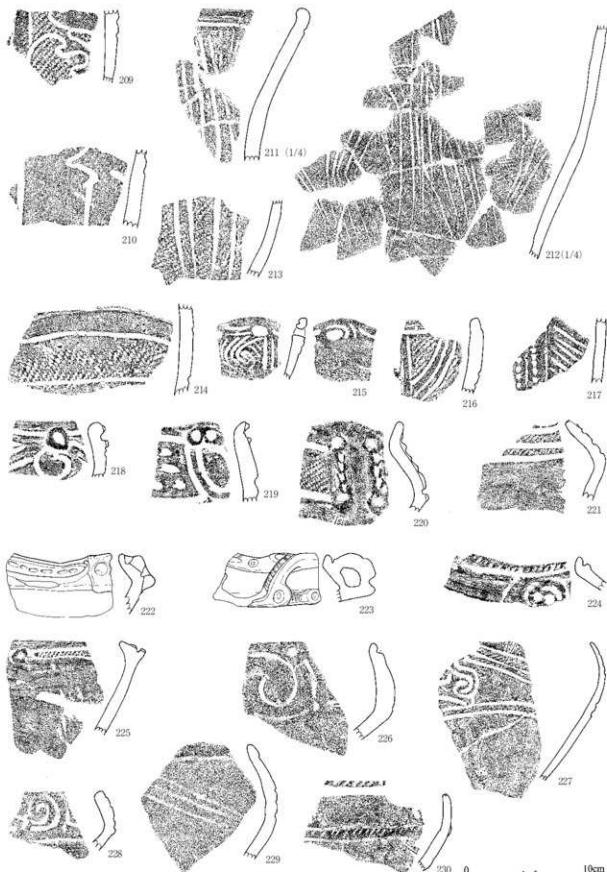


第26図 遺構外出土遺物176~192 (13)

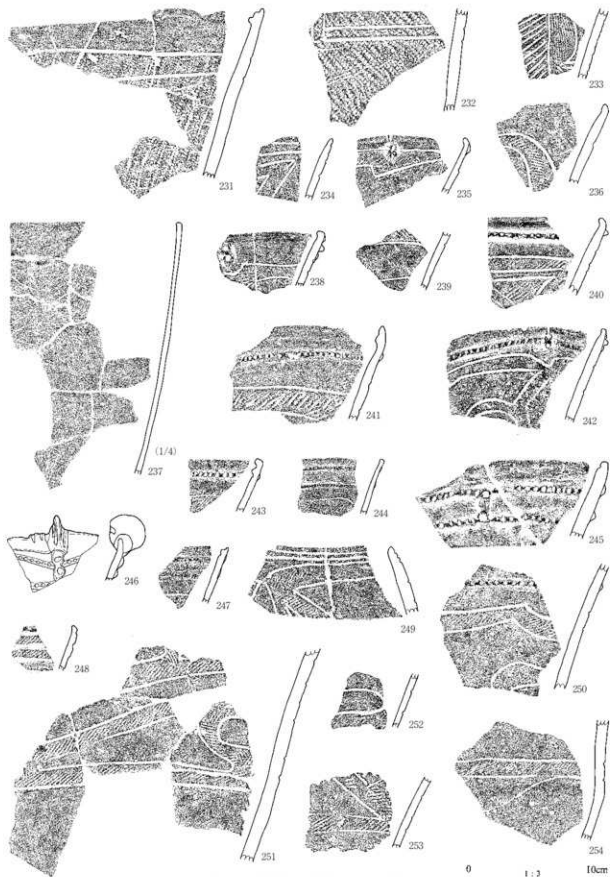


第27図 遺構外出土遺物193~208 (14)

IV 検出された遺構と遺物

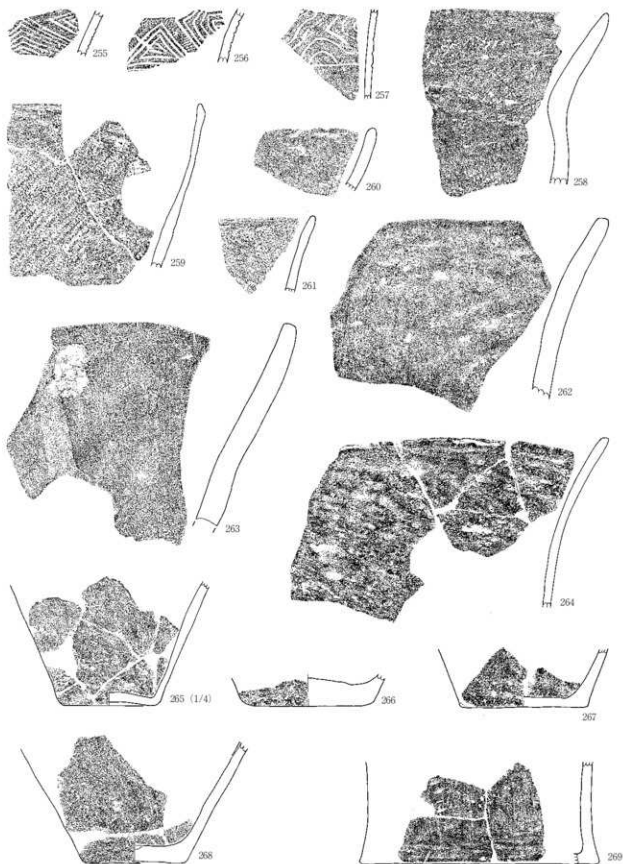


第28図 遺構外出土遺物209～230 (15)



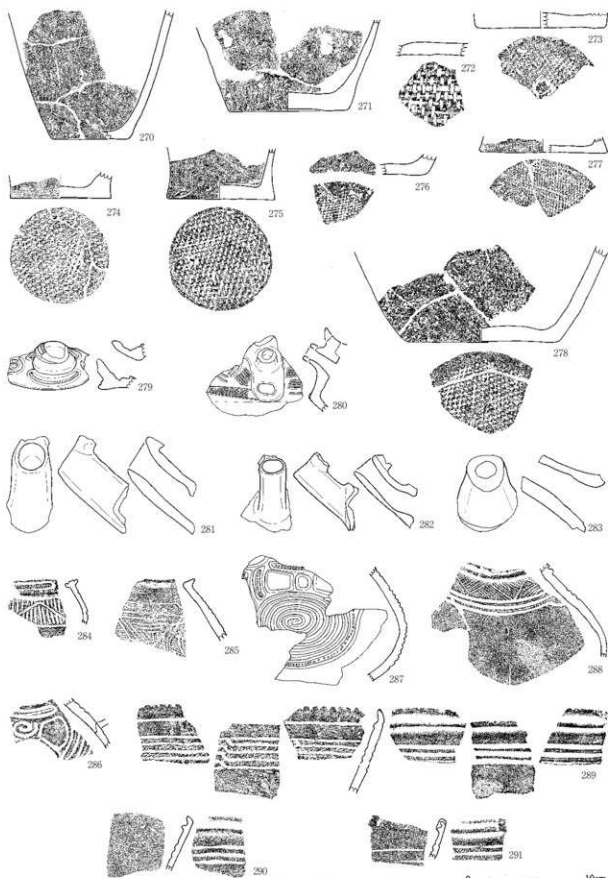
第29図 遺構外出土遺物231~254 (16)

IV 検出された遺構と遺物



第30図 遺構外出土遺物255~269 (17)

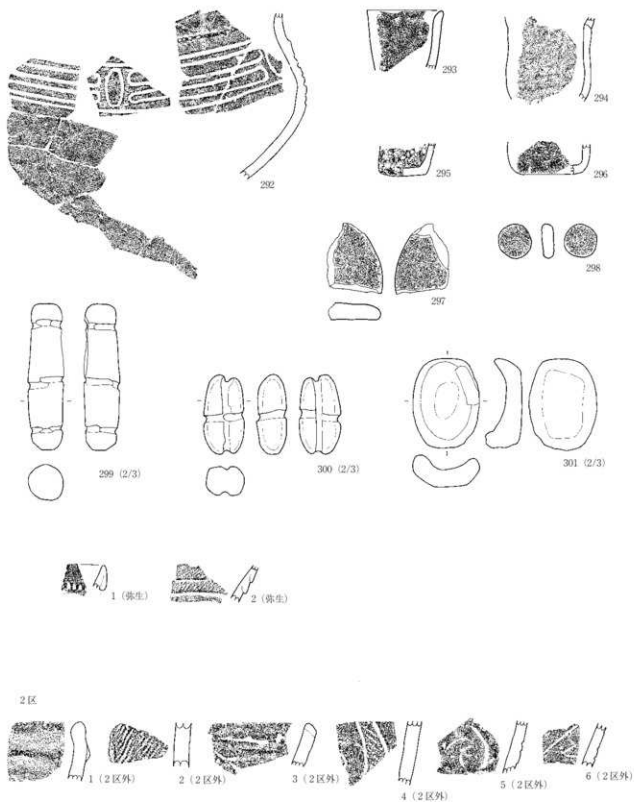
0 1:3 10cm



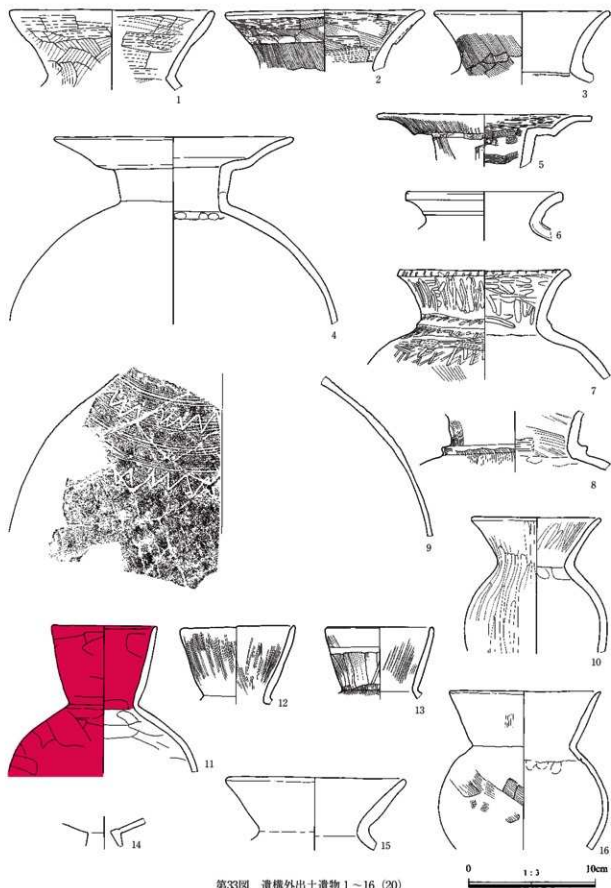
第31图 遺構外出土遺物270~291 (18)



IV 検出された遺構と遺物

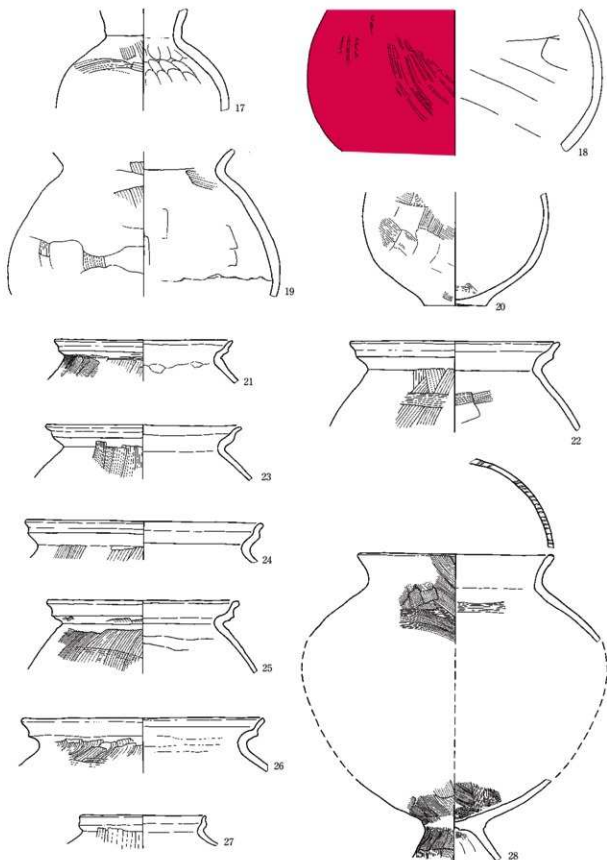


第32図 遺構外出土遺物292~301、弥生1・2、2区外1~6 (19)



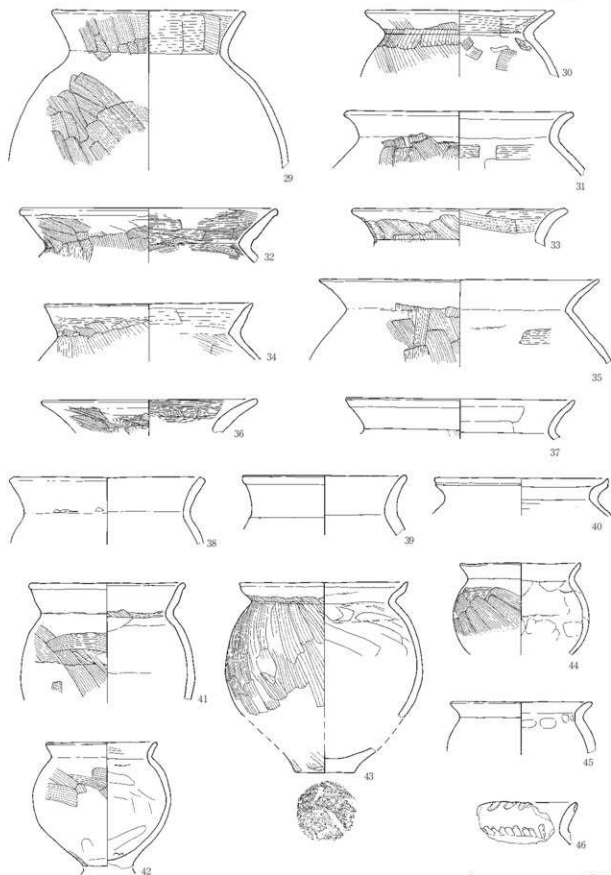
第33図 遺構外出土遺物 1~16 (20)

IV 検出された遺構と遺物



第34図 遺構外出土遺物17~28 (21)

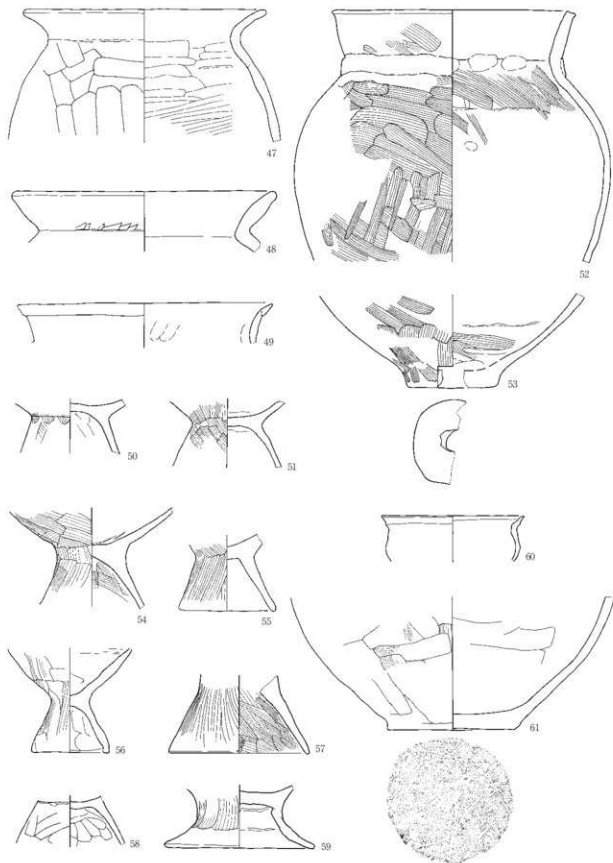
0 1:3 10cm



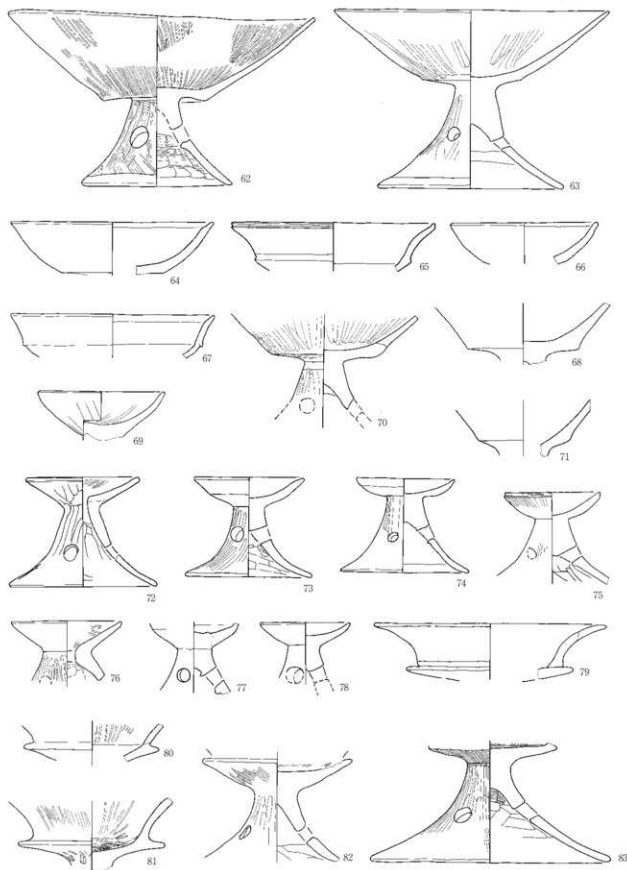
第35図 遺構外出土遺物29~46 (22)

0 1:3 10cm

IV 検出された遺構と遺物

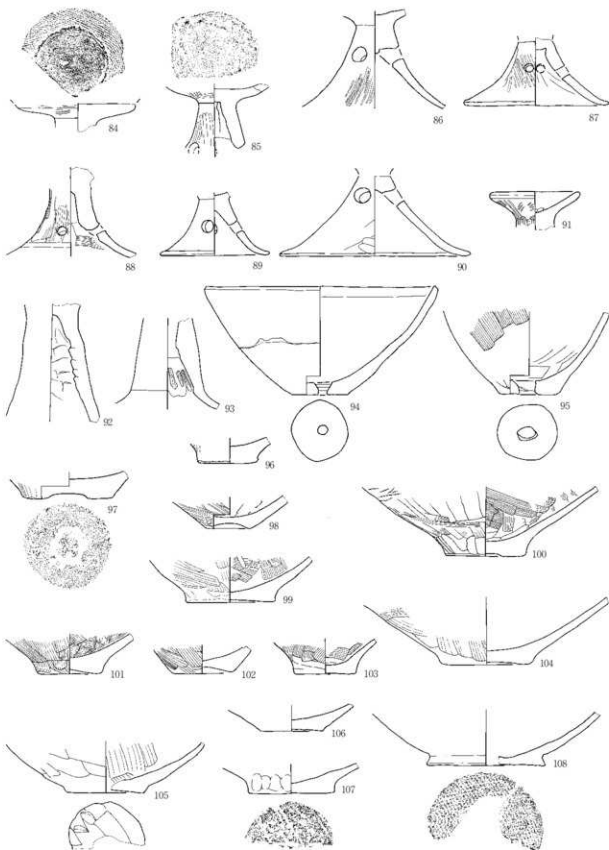


第36図 遺構外出土遺物47~61 (23)



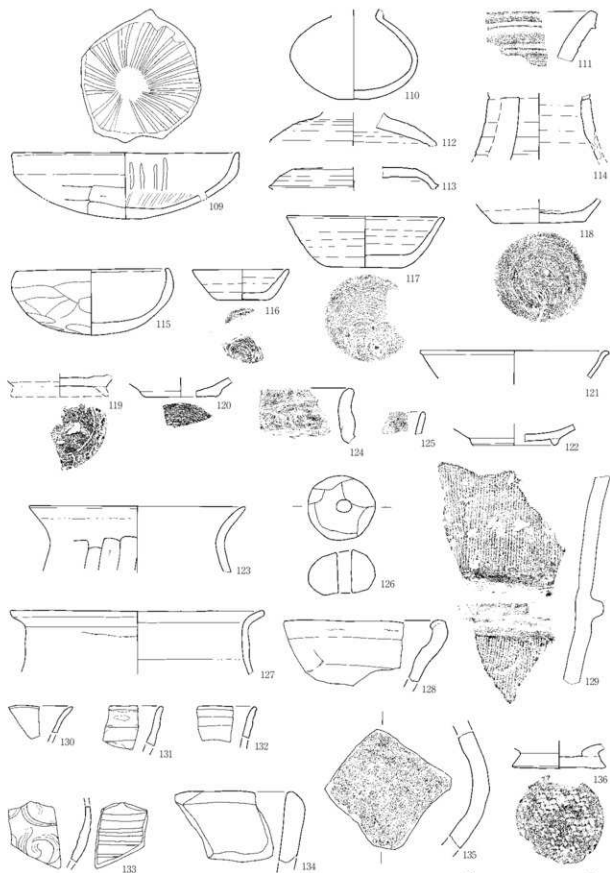
第37図 遺構外出土遺物62~83 (24)

IV 検出された遺構と遺物



第38図 遺構外出土遺物84~108 (25)

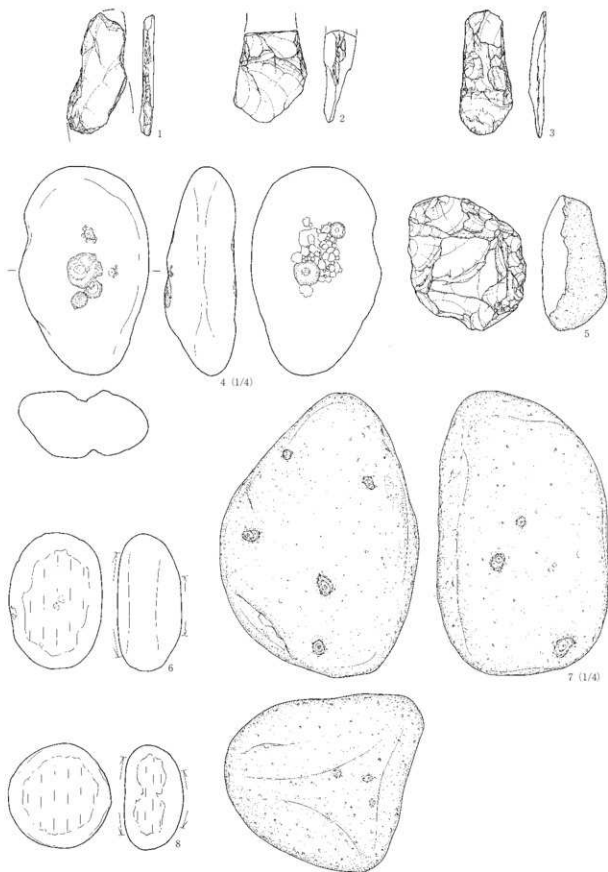
0 1:3 10cm



第39図 遺構外出土遺物109~136 (26)

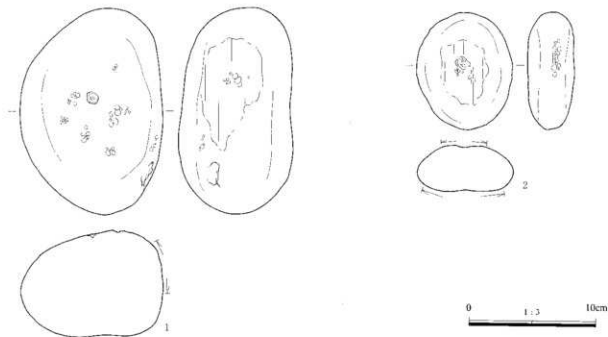


IV 検出された遺構と遺物



第40図 1号住居跡出土石器

0 1:3 10cm



第41図 2号住居跡出土石器

#### 包含層出土の石器

計218点(剥片系石器31点、磨石等の礫石器24点、剥片類141点、鏝・礫片類22点)が出土した。北側調査区に石田川の低地部があり、この地点でも包含層(基本土層4層)が確認されている。縄文期遺構に伴う石器類は1号住居に良好な資料があり、帰属時期の明らかな資料とすることができる。

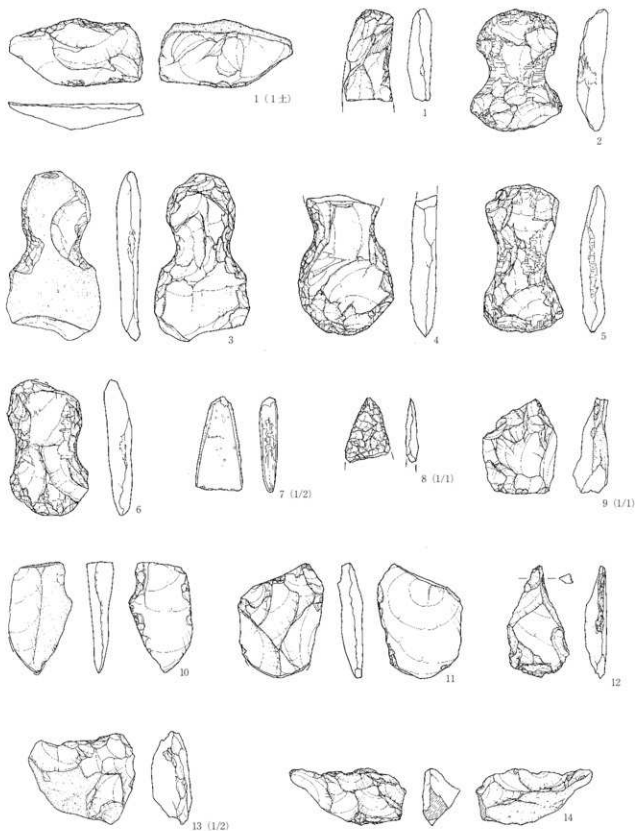
包含層から出土した主な石器には、打製石斧13・磨製石斧1・石鏃1・刮器5・楔形石器1・加工痕ある剥片7等の剥片系石器があるほか、凹石12・磨石2・敲石1・多孔石4・垂飾1・石棒1・砥石1等の礫石器類があり、概して、中・後期に特徴的な石器類が多い。以下、整理過程で気付いた点について、その概要を記す。

打製石斧は14点中9点が分銅形、5点が短冊形のそれで、前者が中・後期的、後者が前期的石斧とされることが多い。石器石材は前者が細粒輝石安山岩を、後者は黒色頁岩を用いており、相違は明らか

である。分銅型のそれは側縁を緩く括るタイプ(42図5・6)と、上半を括る片刃タイプ(同図3)があり、半数以上に刃部再生や捲損痕がある。短冊形のそれも刃部再生や刃部磨耗が著しく、遺跡内製作の可能性は低い、と考えている。加工痕ある剥片を含む刮器類には黒色頁岩やチャートをを用いた遺跡内の剥片生産と石器製作が想定され、形状の整った剥片(42図10・11)を選択的に用いた石器製作しているもの、と考えている。礫石器類では凹石・磨石類が安定して出土、加えて多孔石も多出しており、後期的色彩の強い器種組成を示す。このほか、軽石製の垂飾(44図26)・砥石(同図27)・石棒(同図28)があり、当該期集落特有の器種組成を示していた。

石材構成は剥片系石器に10種、礫石器に5種を用いているが、剥片系石器には渡良瀬起源のホルンフェルス・チャートや利根川流域の黒色頁岩・黒色安山岩をベースに、これに三波川起源の片岩類や、非在地の黒曜石が加わるようである。

IV 検出された遺構と遺物



第42図 1号土坑、遺構外1~14(1)出土石器

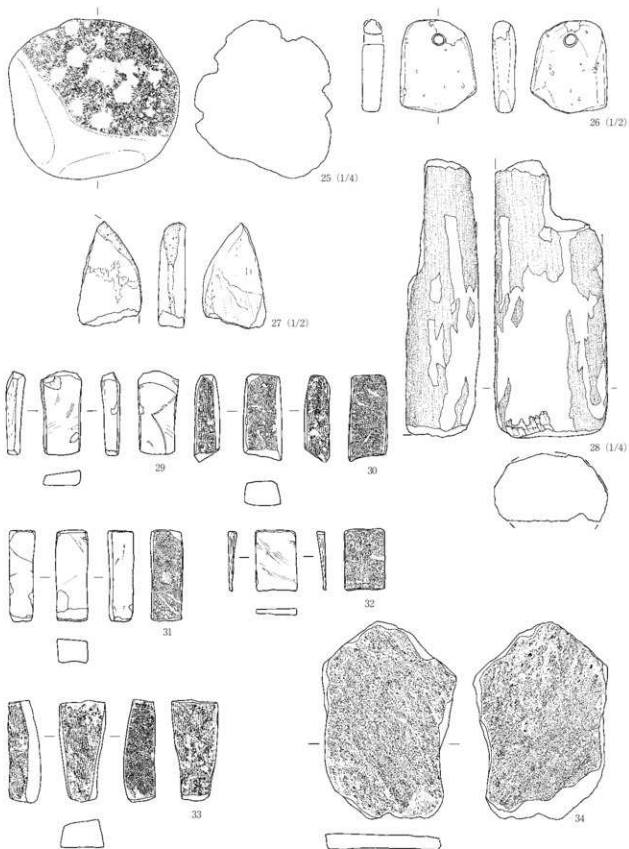




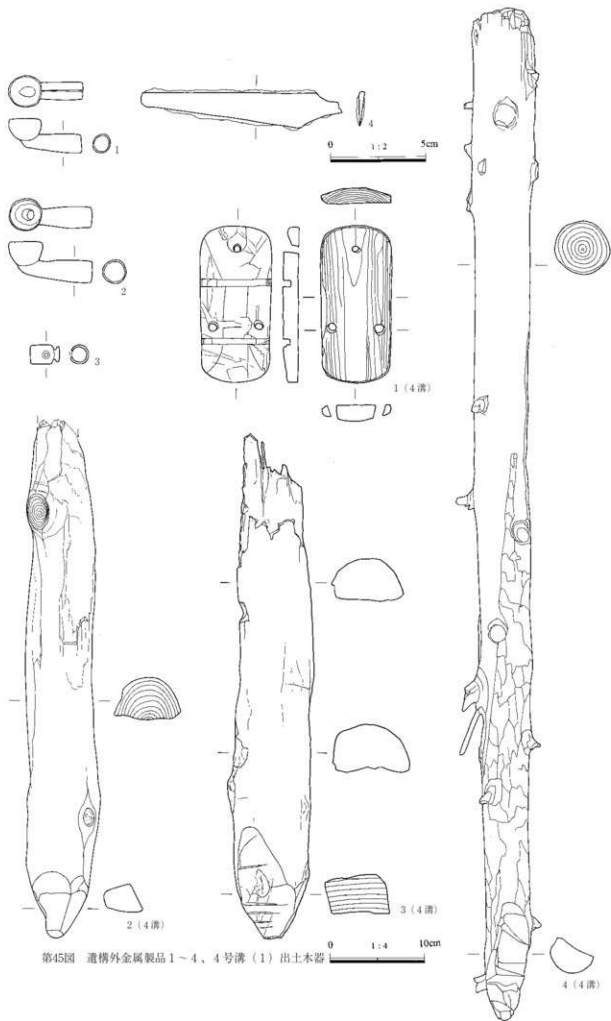
第43図 遺構外出土石器15~24 (2)

0 1:3 10cm

IV 検出された遺構と遺物

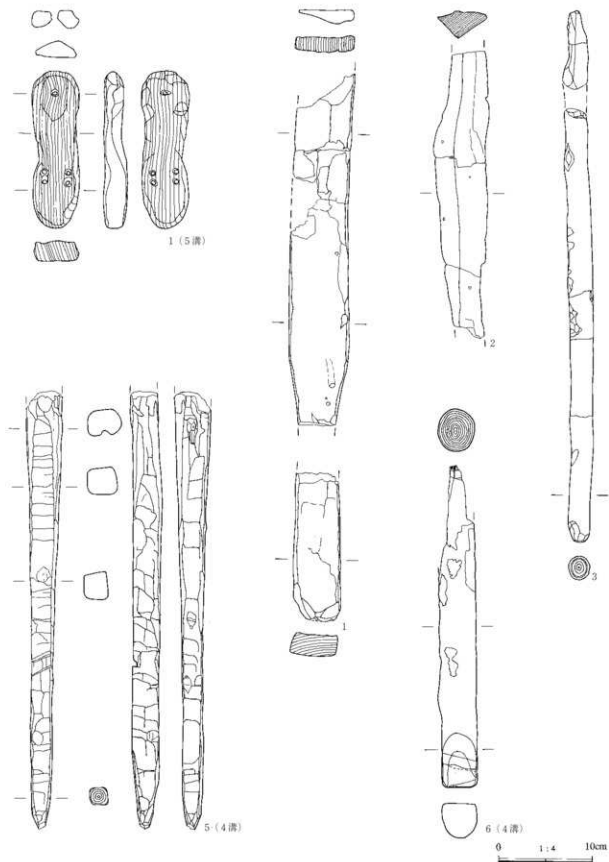


第44図 遺構外出土石器25~34 (3)



第45回 遺構外金属製品1~4、4号溝(1)出土木器

IV 検出された遺構と遺物



第46図 4 (2)・5号溝、遺構外1~3出土木器

第3表 遺物観察表(上江田西田遺跡縄文土器)

図番号	種別	器形	区	名	遺物種	取上番号	口径(長)	底径(短)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考	
第11図 1住1 PL.6	縄紋土器	鉢	1		遺物外	覆土	長径 25.0 短径 22.3	9.6	19.4		ほぼ完成	粗砂、白色粒	橙	普通	横断面楕円形状を呈す。口縁下に1条の沈線をめぐるせ、以下、単筋L R縄紋を順位充填施す。底面近くは1ヶ所3×2.1cmの不整形円形状の孔を穿つ。	類1
第11図 1住2 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	掘り方					口縁片	粗砂	浅黄橙	良好	沈線による順位楕円状区画内に単筋L R縄紋を充填施す。	加E 3
第11図 1住3 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	覆土					胴部片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	帯状沈線によるモチーフを描き、区画内に列点を充填施す。	称II
第11図 1住4 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	掘り方					口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	沈線による幾何学モチーフを描く。	称II
第11図 1住5 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	掘り方					胴部片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	沈線間に列点を充填施す。	後期前
第11図 1住6 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	掘り方					口縁片	粗砂	浅黄橙	普通	口縁下に1条の沈線、沈線による幾何学モチーフを描く。	類1
第11図 1住7 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	掘り方					口縁片	粗砂	浅黄橙	良好	口縁下に1条の沈線と円形刺突、沈線による幾何学モチーフを描き、区画内に多条の短沈線を充填施す。	類1
第11図 1住8 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	覆土					口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	内折する口縁部、順位沈線間に列点を充填施す。	類1
第11図 1住9 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	覆土					胴部片	粗砂	灰黄褐	普通	順位沈線間に列点を充填施す。	類1
第11図 1住10 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	掘り方					胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	単筋L R縄紋を地紋とし、斜位の帯状沈線を施す。	類1
第11図 1住11 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	掘り方					胴部片	粗砂、細礫、白色粒	にぶい黄橙	普通	斜位、強状の沈線を施す。	類1
第11図 1住12 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	掘り方					胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	単筋L R縄紋を充填施す。	類1
第11図 1住13 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	掘り方					口縁片	粗砂、白色粒	灰黄褐	普通	液状口縁で頂部部下に円形刺突、沈線によるモチーフを施し、単筋L R縄紋を充填施す。	類2
第11図 1住14 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	1	住居	覆土					口縁片	粗砂	灰黄褐	普通	口縁下に2条の隆帯をめぐるせ、隆帯上に単筋L R縄紋を施す。以下、沈線によるモチーフを描く。	類2
第11図 1住15 PL.6	縄紋土器	注口	1	1	住居	掘り方					口縁片	粗砂	橙	普通	刻みを付した隆帯をめぐるせ、単筋L R縄紋を施す。	類1
第11図 1住16 PL.6	縄紋土器	ミニチュア	1	1	住居	掘り方	3.3	2.5	2.2		ほぼ完成	粗砂	にぶい黄橙	普通	無紋。器面に凹凸残る。	後期前
第11図 2住1 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	2	住居	覆土					口縁片	粗砂	橙	良好	単筋L R縄紋を地紋とし、沈線により楕円状モチーフを描く。	加E 2
第11図 2住2 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	2	配石	覆土					口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	くの字状に口縁が内折する器形、口縁から頂部部にかけて隆帯を垂下させ、両面に刺突を施す。	類1
第11図 2住3 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	2	住居	覆土					胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	沈線による幾何学モチーフを描く。	類1
第11図 2住4 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	2	住居	覆土					口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	沈線による無差紋、幾何学モチーフを描く。	類1
第12図 2住5 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	2	住居	掘り方					胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	沈線による幾何学モチーフを描く。	類1
第12図 2住6 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	2	住居	覆土					胴部片	粗砂、白色粒	橙	普通	無紋。	後期前
第12図 2住7 PL.6	縄紋土器	深鉢	1	2	住居	覆土		9.8		胴～底	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	沈線による順位展開するモチーフを描く。厚縁が深い。	称II	



Ⅳ 検出された遺構と遺物

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径 (長)	底径 (短)	器高 (厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第12区 2住8 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	2 住居	覆土	推300			口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描く。	類1
第12区 2住9 PL 6	縄紋土器	深鉢	1	2 住居	掘り方	推327			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	条線を口縁下にめぐらせ、以下、条線による幾何学モチーフを描く。	類1
第12区 2住 10 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	2 住居	覆土	推376			口～胴	粗砂	にぶい 橙	普通	胴部で屈曲する器形。屈曲部に3本の横位沈線と8の字貼付紋。以下、単節L R縄紋を地紋とし、沈線によるワラビ手状モチーフを描く。斜行紋を描く。口縁内面に稜がある。	類1
第13区 1土1 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	1 土坑	覆土				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁下肥厚部に2本の横位沈線を描き、沈線間に刺突を充填施す。肥厚部下は単節L R縄紋を地紋とする。	類1
第13区 1土2 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	1 土坑	覆土				口縁片	粗砂	橙	普通	口唇外面が肥厚。残存部は無紋。	類1
第13区 1土3 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	1 土坑	覆土				胴部片	粗砂、繊維	灰黄褐	普通	無節L R縄紋を横位施す。	黒浜式
第13区 1土4 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	1 土坑	覆土				胴部片	粗砂、繊維	にぶい 黄橙	普通	無節R 1縄紋を横位施す。	黒浜式
第13区 2土1 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	2 土坑	覆土				口縁片	粗砂、白色粒	橙	普通	胴部で屈曲する器形。残存部は無紋。	類1
第13区 2土2 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	2 土坑	覆土				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	沈線による張状モチーフを描き、単節L R縄紋を充填施す。	類1
第13区 3土1 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	3 土坑	覆土				胴部片	粗砂	浅黄橙	普通	無紋。	後期前
第13区 4土1 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	4 土坑	覆土		11.8		胴～底	粗砂	浅黄橙	普通	無紋。	後期前
第13区 4土2 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	4 土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	斜位に沈線を施す。	類1
第13区 4土3 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	4 土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	単節L R縄紋を地紋とし、沈線による張状モチーフを描く。	類1
第13区 4土4 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	4 土坑	覆土				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	無紋。横位の摺痕が見られる。	後期前
第13区 4土5 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	4 土坑	覆土				胴部片	粗砂	浅黄橙	普通	3本の横位沈線を描き、区画紋下に沈線による斜行紋を貼付。	類1
第13区 7土1 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	7 土坑	覆土				胴部片	粗砂、繊維	橙	良好	単節L R縄紋を横位施す。	前期後
第13区 7土2 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	7 土坑	覆土				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	単節L R縄紋を横位施す。	加E
第13区 8土1 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	8 土坑	覆土	推320			口～胴	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に1本の隆線と8の字貼付紋。沈線により、単節L R縄紋を充填施す。	類2
第13区 8土2 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	8 土坑	覆土				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁下肥厚部に2本の沈線を描き、沈線間に刺突を充填施す。	類1
第13区 8土3 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	8 土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に1本の隆線。さらに斜位に隆線を垂下させる。	類2
第14区 8土4 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	8 土坑	覆土				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	沈線を斜位に施す。胴部下手は無紋。	類1
第14区 8土5 PL 7	縄紋土器	深鉢	1	8 土坑	覆土	推300			口～胴	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁に幅広の小突起を付す。単節L R縄紋を地紋とし、沈線により横位に連続する三角形モチーフを描く。	類2
第14区 9土1 PL 8	縄紋土器	深鉢	1	9 土坑	覆土				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	無紋。	後期前
第14区 13土1 PL 8	縄紋土器	深鉢	1	13 土坑	覆土				胴部片	粗砂	灰黄褐	普通	口縁下の部位。隆線をめぐらせ、沈線による幾何学モチーフを描き、単節L R縄紋を充填施す。	類2

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第14図14上 PL 8	縄紋土器	深鉢	1	14	土坑	覆土			胴部片	粗砂、白色粒	橙	普通	弧状の帯状沈線を施す。	称Ⅱ
第14図 1 PL 8	縄紋土器	深鉢			遺構外	4トレ	推200		口~胴	粗砂	橙	普通	球胴形を呈す。口縁がくの字状に反り外反し、口縁部が肥厚する。肥厚部下に沈線による筋曲状をめぐらせ、地紋に単節LR縄紋を施す。剥落しているが、逆S字状の隆帯を貼付していたことが確認できる。	加E 1
第14図 2 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	D13	推198		口~胴	粗砂	橙	普通	口縁下に1条の沈線。沈線に寄り幾何学モチーフを描く。	Ⅷ1
第14図 3 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	J9	247		口~胴	粗砂	にぶい 橙	普通	口縁下に横位沈線と円形刺突。2帯構成で、屈曲部上位に沈線により横位に連結するU字状モチーフ、下位は逆U字状モチーフを描く。	Ⅷ1
第14図 4 PL 8	縄紋土器	深鉢	1	L2	溝	覆土	55		胴~底	粗砂、白色粒	橙	普通	沈線により縦位に展開するモチーフを描く。	Ⅷ1
第15図 5 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	M9			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に円形刺突。以下、沈線による幾何学モチーフを描く。	Ⅷ1
第15図 6 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	L9	推380		口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に円形刺突と1条の沈線。帯状沈線を縦位、横位、斜位に施す。	Ⅷ1
第15図 7 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	C13	推162		口~胴	粗砂	にぶい 黄橙	普通	頸部で屈曲する器形。口縁部に環状把手。屈曲部下に沈線による幾何学モチーフを描き、間隙に単節LR縄紋を充填施す。屈曲部に貼付紋を貼付。	Ⅷ1
第15図 8 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	C13	推197		口~胴	粗砂	にぶい 黄橙	普通	頸部で屈曲する器形。口縁下に1条の沈線。屈曲部下に沈線による幾何学モチーフを描く。屈曲部に貼付紋を貼付。	Ⅷ1
第15図 9 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	M9	推256		口~胴	粗砂	にぶい 黄橙	普通	頸部で屈曲する器形。波状口縁で口縁が反り内折し、内折部に1条の沈線。波頭部下に円形刺突を施す。頸部に3条の横位沈線を施す。地紋に単節LR縄紋を施す。	Ⅷ1
第15図 10 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	M9			胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	屈曲部下の部位。沈線を横位、波巻状、斜位に施す。地紋に単節LR縄紋を施すが、摩滅激しい。	Ⅷ1
第15図 11 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	2A10	推410		口~胴	粗砂、細粒、 白色粒	にぶい 黄橙	普通	頸部で屈曲する器形。小波状口縁で波頭部下に円形刺突。口縁下に1条の沈線をめぐらす。屈曲部下に横位沈線。弧状沈線を施し、単節LR縄紋を充填施す。	Ⅷ1
第16図 12 PL 8	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	Q10	推450		口~胴	粗砂	にぶい 橙	普通	頸部で屈曲する器形。小波状口縁で波頭部下に円形刺突。口縁下に1条の沈線をめぐらす。屈曲部下に3条の沈線をめぐらせて区画とし、横位区画、V字状の沈線を施し、余白に列点を充填施す。	Ⅷ1
第16図 13 PL 9	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	L8	推286		口~胴	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	口縁が強く内湾する器形。地紋に単節LR縄紋を充填施す。口縁下に3条の沈線による逆U字状モチーフを配す。摩滅激しい。	Ⅷ1

Ⅳ 検出された遺構と遺物

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調等	備考
第16図 PL 8	14	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 J7				胴部片	粗砂	橙	普通	3条の沈線によりU字状モチーフを描き、単節L R縄紋を縦位に充墳施す。	順1
第16図 PL 9	15	縄紋土器	深鉢		遺構外 4トレ	推366			口~胴	粗砂、片岩	にぶい 黄橙	普通	単節L R縄紋を地紋とし、沈線により楕円状など幾何学モチーフを描く。	順2
第16図 PL 9	16	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 1トレ	推334			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に1条の隆線。帯状沈線を描き、単節L R縄紋を充墳施す。	順2
第17図 PL 9	17	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 B9	推296			口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	沈線による三角形モチーフを描き、部分的に沈線間に単節L R縄紋を充墳施す。	順2
第17図 PL 9	18	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 B12	推350			口~胴	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	波状口縁。口縁下に1条の隆線と波頂部下に8の字形付。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節L R縄紋を充墳施す。	順2
第17図 PL 9	19	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 G9	25.6			口~胴	粗砂	にぶい 橙	普通	口縁下に2条の隆線。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節L R縄紋を充墳施す。	順2
第17図 PL 9	20	縄紋土器	深鉢		遺構外 4トレ	31.0			口~胴	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に2条の隆線。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節L R縄紋を充墳施す。	順2
第17図 PL 10	21	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 L7、M8	推277	8.5	44.1	口~底	粗砂	にぶい 橙	普通	口縁下に1条の沈線を描き、以下、斜位の撫で痕を全面に残す。	順1
第18図 PL 10	22	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 G11	推298			口~胴	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	波状口縁だが、単位が不規則。無紋。	後期前
第18図 PL 10	23	縄紋土器	深鉢		遺構外 4トレ				口~胴	粗砂	にぶい 黄橙	普通	沈線により斜格子目紋を施す。口縁内面に1条の沈線を描く。	順1
第18図 PL 10	24	縄紋土器	浅鉢	1	遺構外 T9	推306			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に内形刺突と1条の沈線。以下は無紋。	順1
第18図 PL 10	25	縄紋土器	浅鉢		遺構外 4トレ	推230	推9.0	7.8	口~底	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	外側S字状の口唇部。無紋。	後期前
第18図 PL 10	26	縄紋土器	浅鉢		遺構外 推354	6.0	推21.3		口~底	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	外側S字状の口唇部。無紋。	後期前
第18図 PL 10	27	縄紋土器	注口	1	遺構外 J7	6.5	7.3		ほぼ定形	粗砂	橙	普通	算盤玉状の器形。屈曲部上位に、沈線によるS字状や三角形などの幾何学モチーフを描き、部分的に沈線間に単節L R縄紋を充墳施す。屈曲部下位は結節。口縁部に2単位の把手がついていたと思われる。	順1
第19図 PL 11	28	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 2D8				胴部片	粗砂、繊維	にぶい 黄橙	普通	単節R L縄紋を地紋とし、多数竹管内皮状の工具による沈線を描き、部分で、弧状モチーフを描く。	前期前
第19図 PL 11	29	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 M6				口縁片	粗砂、繊維	にぶい 黄橙	普通	単節R L、L R縄紋による羽状構成。	前期前
第19図 PL 11	30	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 M8				口縁片	粗砂、繊維	にぶい 黄橙	普通	内側S字状の口唇部。単節R L縄紋を施す。	前期前
第19図 PL 11	31	縄紋土器	深鉢	1	L2 溝	覆土			胴部片	粗砂、繊維	にぶい 黄橙	普通	単節R L、L R縄紋による羽状構成。	前期前
第19図 PL 11	32	縄紋土器	深鉢		遺構外 8トレ				胴部片	粗砂、石英、繊維	明赤褐	普通	0段多条L R縄紋を施す。	前期前
第19図 PL 11	33	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 M8				胴部片	粗砂、繊維	橙	普通	単節L R、R L縄紋による羽状構成。	前期前
第19図 PL 11	34	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 M8				胴部片	粗砂、片岩、繊維	にぶい 黄橙	普通	単節L R縄紋を施す。	前期前
第19図 PL 11	35	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 M8				胴部片	粗砂、繊維、繊維	橙	普通	0段多条L R縄紋を施す。	前期前
第19図 PL 11	36	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 M6				底部片	粗砂、繊維	橙	普通	上げ底の底底部片。	前期前

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成瀬整等	備考
第19図 PL 11 37	縄紋土器	深鉢	1	遺構外					口縁片	粗砂、白色粒	明赤褐	良好	液状口縁、C字状爪形紋、凹形刺突を施す。	溝堀b式
第19図 PL 11 38	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O6				胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	平載竹管による集合沈線を横位、斜位、弧状に施す。	溝堀b式
第19図 PL 11 39	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	I7				胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	平載竹管内皮による刺突を縦位多発に施す。	前期後
第19図 PL 11 40	縄紋土器	浅鉢	1	遺構外	D7				口縁片	粗砂	にぶい 橙	普通	くの字状に内折する器形。口縁下に1条の隆線をめぐらし、それに沿って凹孔を穿つ。	溝堀b式
第19図 PL 11 41	縄紋土器	深鉢		遺構外	7トレ				口縁片	粗砂	橙	普通	液状口縁で口唇内面が肥厚。口縁下を凹ませて無紋帯とし、その下に刺突列を2条施す。	中期前
第19図 PL 11 42	縄紋土器	深鉢		遺構外	5トレ				口縁片	粗砂多	灰黄褐	普通	液状口縁で、キャリバー状の器形を呈す。隆線を施し、C字の押引、沈線を沿わせる。	溝堀式
第19図 PL 11 43	縄紋土器	深鉢		遺構外	5トレ				胴部片	粗砂多	明赤褐	普通	幾何学状に隆線を貼付し、区画内に爪形刺突を充填施す。	溝堀式
第19図 PL 11 44	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	I9				胴部片	粗砂、細礫	橙	良好	沈線により渦巻紋を施し、沈線の片側に刺突を沿わせる。	溝堀式
第19図 PL 11 45	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O9				胴部片	粗砂	明赤褐	普通	隆起帯の部位。沈線、刺突を施す。	溝堀式
第19図 PL 11 46	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q9				胴部片	粗砂	橙	普通	沈線により菱形紋を施す。V字状押引紋を沿わせる。	溝堀式
第19図 PL 11 47	縄紋土器	深鉢	1	溝	覆土				胴部片	粗砂、白色粒	橙	良好	弧状隆線を施し、液状沈線を充填施す。	阿玉台
第19図 PL 11 48	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	E12				口縁片	粗砂	橙	普通	キャリバー状の器形で、口縁部紋様帯の部位。隆線により区画し、区画内に縦位沈線を充填施す。	加E2
第19図 PL 11 49	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	K10				口縁片	粗砂多	にぶい 黄橙	普通	キャリバー状の器形で、口縁部紋様帯の部位。液状口縁を呈す。隆線、沈線による区画内に単筋R L 渦紋を充填施す。	加E2
第19図 PL 11 50	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O12				口縁片	粗砂	橙	普通	キャリバー状の器形で、口縁部紋様帯の部位。地紋に単筋R L 渦紋を施し、隆線による渦巻紋を施す。	加E2
第19図 PL 11 51	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N10				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	キャリバー状の器形。屈曲部に口縁部紋様帯を区画する刻みを付した隆線をめぐらし、口縁部紋様帯内は沈線による縦面状紋を施す。	加E2
第19図 PL 11 52	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	2E8	推212			口一胴	粗砂、白色粒	橙	普通	口縁がくの字状に外反する器形で、口唇内面が肥厚。単筋R L 渦紋を地紋とし、胴部下に横位集合沈線、S字状の沈線を施す。	加E2
第19図 PL 11 53	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	I9				口縁片	粗砂、白色粒	明赤褐	普通	キャリバー状の器形で、口縁部紋様帯の部位。液状口縁を呈す。縦位沈線を施し、区画内に単筋R L 渦紋を充填施す。	加E2
第19図 PL 11 54	縄紋土器	深鉢	1	遺構外					口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	液状口縁で、くの字状に外反する器形を呈す。単筋R L 渦紋を地紋とし、口縁部無紋帯を区画する横位隆帯、垂下隆帯を施す。	加E2
第19図 PL 11 55	縄紋土器	深鉢		遺構外					口縁片	粗砂	橙	良好	キャリバー状の器形で、口縁部紋様帯の部位。沈線による指円状区画内に単筋R L 渦紋を充填施す。渦巻紋上に刺突。	加E3

IV 検出された遺構と遺物

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(短)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第19図 PL 11	56	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O12			口縁片	粗砂	にぶい 黄緑	普通	口縁下に凹線をめぐらせ、沈線による逆U字状モチーフを描く。	加E 4
第19図 PL 11	57	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	C13			胴部片	粗砂	橙	普通	単節R L縄紋を地紋とし、沈線による渦巻紋を施す。	加E 2
第19図 PL 11	58	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	H10			胴部片	粗砂、白色粒	明赤褐	普通	単節R L縄紋を地紋とし、フラジ手状の隆線を附与する。	加E 3
第19図 PL 11	59	縄紋土器	深鉢	1	遺構外				胴部片	粗砂多	明赤褐	良好	単節R L縦位施紋を地紋とし、沈線による懸垂紋を施す。	加E 2
第19図 PL 11	60	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	H9			胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	0段多変R L縦位施紋を地紋とし、横位、懸垂紋、蛇行懸垂紋を施す。	加E 2
第19図 PL 11	61	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	K8			胴部片	粗砂	橙	普通	縦位条線を施す。	加E 2
第19図 PL 11	62	縄紋土器	深鉢		遺構外	4トレ			胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	縦位条線を地紋とし、横位沈線を施す。	加E 2
第20図 PL 11	63	縄紋土器	深鉢		遺構外	8トレ			胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄緑	普通	隆線による懸垂紋。区画内に単節R L縄紋を充填施紋する。	加E 4
第20図 PL 11	64	縄紋土器	深鉢		遺構外	5トレ			胴部片	粗砂、白色粒	橙	普通	隆線による懸垂紋。区画内に単節L R縄紋を縦位充填施紋する。	加E 4
第20図 PL 11	65	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L8			胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	隆線による懸垂紋。区画内に単節L R縄紋を縦位充填施紋する。	加E 4
第20図 PL 11	66	縄紋土器	深鉢		遺構外	5トレ			胴部片	粗砂	灰黄褐	普通	沈線による懸垂紋。区画内に単節L R縄紋を縦位充填施紋する。	加E 3
第20図 PL 11	67	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	G11			胴部片	粗砂	浅黄緑	良好	沈線による懸垂紋。区画内に単節L R縄紋を縦位充填施紋する。	加E 3
第20図 PL 11	68	縄紋土器	深鉢		遺構外	4トレ			胴部片	粗砂、石英	にぶい 黄緑	普通	縦位、弧状の沈線を施し、附加条縄紋を充填施紋する。	加E 4
第20図 PL 11	69	縄紋土器	深鉢		遺構外	4トレ			胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄緑	普通	沈線により弧状モチーフを描き、区画内に単節L R縄紋を充填施紋する。	加E 4
第20図 PL 11	70	縄紋土器	深鉢		遺構外	5トレ			胴部片	粗砂、白色粒	橙	普通	横位隆線をめぐらせて口縁部無紋帯を区画、隆帯下に単節L R縄紋を充填施紋する。	加E 4
第20図 PL 11	71	縄紋土器	浅鉢	1	遺構外	I10			口縁片	粗砂	明赤褐	普通	口縁下に凹線をめぐらす。	加E 2
第20図 PL 11	72	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	不明			口縁片	粗砂	にぶい 普通	普通	液状口縁の突起で、渦巻状を呈す。	称名寺
第20図 PL 11	73	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L9			口縁片	粗砂	橙	良好	液状口縁の環状突起。円形刺突、沈線を施す。	称名寺
第20図 PL 11	74	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L8			口縁片	粗砂、白色粒	橙	普通	液状口縁の環状突起。円形刺突、沈線を施す。	称名寺
第20図 PL 11	75	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L8			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄緑	普通	液頂部に環状の突起。隆線を2条垂下させる。	称名寺
第20図 PL 11	76	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	S8			口縁片	粗砂	にぶい 黄緑	普通	液状口縁の突起で、液頂部に環状に隆帯を附与する。円形刺突、液頂部に沈線を施す。	称名寺
第20図 PL 11	77	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O8			把手	粗砂、白色粒	橙	普通	楕状把手。把手上に円形刺突、沈線を施す。	称名寺
第20図 PL 12	78	縄紋土器	深鉢		遺構外	4トレ			把手	粗砂	にぶい 黄緑	普通	楕状把手。沈線、貼付紋、円形刺突を施す。	称名寺
第20図 PL 12	79	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M10			口縁片	粗砂	にぶい 橙	普通	口縁がくの字状に短く外反する。口縁から胴部上位にかけて楕状把手を付す。沈線、円形刺突を施す。把手の下部が注口となる。	称名寺
第20図 PL 12	80	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9			口縁片				No.79と同一個体。	称名寺
第20図 PL 12	81	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L9			口縁片	粗砂	にぶい 黄緑	普通	小突起をもつ口縁部破片で、液頂部下に円孔を穿つ。沈線によるモチーフを描き、単節L R縄紋を充填施紋する。	称名寺

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成瀬整等	備考
第20図 PL 12	82	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D13			胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	帯状沈澱により幾何学モチーフを描き、区画内に彫刻し、口縁を充填施す。	Ⅱ
第20図 PL 12	83	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9			胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	帯状沈澱による「J」字状モチーフを描く。	Ⅱ
第21図 PL 12	84	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L9			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	沈澱により幾何学モチーフを描く。	Ⅱ
第21図 PL 12	85	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	沈澱により幾何学モチーフを描く。	Ⅱ
第21図 PL 12	86	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L9			胴部片	粗砂	浅黄	普通	帯状沈澱によりモチーフを描き、区画内に列点を充填施す。	Ⅱ
第21図 PL 12	87	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O9			胴部片	粗砂、白色粒	灰黄褐	普通	帯状沈澱内に列点を充填施す。	後期前
第21図 PL 12	88	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	K10			胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	帯状沈澱内に列点を充填施す。	後期前
第21図 PL 12	89	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9			胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	帯状沈澱内に列点を充填施す。	後期前
第21図 PL 12	90	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N10			胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	帯状沈澱内に列点を充填施す。	後期前
第21図 PL 12	91	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9			胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	帯状沈澱内に列点を充填施す。	後期前
第21図 PL 12	92	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N9			胴部片	粗砂	浅黄褐	普通	帯状沈澱内に列点を充填施す。	後期前
第21図 PL 12	93	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N9			胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	帯状沈澱内に列点を充填施す。	後期前
第21図 PL 12	94	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9			胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	列点を縦列に施す。	後期前
第21図 PL 12	95	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	C13			胴部片	粗砂、白色粒	橙	普通	帯状沈澱内に列点を充填施す。	後期前
第21図 PL 12	96	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J7			胴部片	粗砂	明赤褐	普通	帯状沈澱内に列点を充填施す。	後期前
第21図 PL 12	97	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O8			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	波状口縁の突起。口縁の内折部に沈澱による長方形区画を施し、列点を充填施す。波頂部下から刺突を施した隆帯を垂下させる。	Ⅱ
第21図 PL 12	98	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M10			口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	波状口縁の突起。波頂部に凹形刺突、口縁内折部に刺突列を挿入し沈澱、隆帯を施す。波頂部から刺突を付した隆帯を垂下させる。	Ⅱ
第21図 PL 12	99	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	G・H10			口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	波状口縁の突起。波頂部に隆帯の突起を付す。波頂部から刺突を付した隆帯を垂下させる。	Ⅱ
第21図 PL 12	100	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M10			口縁片	粗砂	灰黄褐	普通	波状口縁の波頂部。波頂部に凹形刺突、口縁内折部に凹形刺突、沈澱を施す。波頂部から刺突を付した隆帯を垂下させる。	Ⅱ
第21図 PL 12	101	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9			口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	波状口縁の波頂部。波頂部に凹形刺突、口縁内折部に沈澱を施す。	Ⅱ
第21図 PL 12	102	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	4トレ			口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	波状口縁の突起。口縁が短く内折する。波頂部および波頂部下に凹形刺突、内折部に凹形刺突、沈澱を施す。波頂部下から刺突を付した隆帯を垂下させる。	Ⅱ
第21図 PL 12	103	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O8			口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	波状口縁の突起。波頂部に凹形刺突、口縁内折部に凹形刺突、沈澱を施す。	Ⅱ
第21図 PL 12	104	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	S9			口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	波状口縁の突起。波頂部および波頂部下に凹形刺突、口縁内折部に刺突を挿入し沈澱を施す。	Ⅱ
第22図 PL 12	105	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	S8			口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	波状口縁の波頂部で、口縁が短く内折する。波頂部に刺突、内折部に沈澱を施す。	Ⅱ

Ⅳ 検出された遺構と遺物

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第22図 PL 12	106	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 S8				口縁片				105と同一個体。	図1
第22図 PL 12	107	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 R7				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	液状口縁で、液頂部下に 円孔を穿つ。口縁下に1 条の沈線、円形刺突を施 す。	図1
第22図 PL 12	108	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 L9				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	液状口縁で、液頂部下に 円孔を穿つ。口縁下に1 条の沈線、円形刺突を施 す。沈線による幾何学モ チーフを描く。	図1
第22図 PL 12	109	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 K7				口縁片	粗砂、白色粒	橙	普通	液状口縁の液頂部で、円 孔を穿ち、円形刺突を施 す。液頂部内面にも沈線、 円形刺突を施す。	図1
第22図 PL 12	110	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 M10				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁の突起。沈線、円形 刺突を施す。	図1
第22図 PL 12	111	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 M10				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁部の塊状突起。沈線、 円形刺突を施す。	図1
第22図 PL 13	112	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 M9				口縁片	粗砂	にぶい 橙	普通	口縁部の突起。円孔を 穿ち、沈線、刺突を施す。	図1
第22図 PL 13	113	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 M8				口縁片	粗砂	浅黄橙	普通	液状口縁の液頂部。口縁 に沿って沈線を施し、円 孔を穿つ。内面に円形刺 突。	図1
第22図 PL 13	114	縄紋土器	深鉢		遺構外 4トレ				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁部の横状把手。	図1
第22図 PL 13	115	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 P9				口縁片	粗砂	明赤褐	普通	横状把手を付し、円形刺 突を施す。沈線による幾 何学モチーフを描く。	図1
第22図 PL 13	116	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 D13				口縁片	粗砂	橙	普通	液頂部の突起。横位沈線、 刺突を施す。液頂部にも 沈線を施す。	図1
第22図 PL 13	117	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 M9				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁部に1条の沈線をめ ぐらせ、以下、帯非紋を 施す。沈線間に列点を施 す。	図1
第22図 PL 13	118	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 M8				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁部をやや幅広い肥厚 帯を成形し、無紋とする。 肥厚部下に列点を充填施 す。	図1
第22図 PL 13	119	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 N10				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下を肥厚させて無紋 帯とし、肥厚部下に縦位 沈線を施して、区画内に 列点を充填施す。	図1
第22図 PL 13	120	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 N9				胴部片				N.119と同一個体。	図1
第22図 PL 13	121	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 M9				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に2条の沈線。以 下、沈線による幾何学モ チーフを描き、列点を充 填施す。	図1
第22図 PL 13	122	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 M10				口縁片	粗砂、細礫	にぶい 黄橙	普通	口縁下に円形刺突と1条 の沈線。沈線により幾何 学モチーフを描き、一部 列点を沿わせる。	図1
第22図 PL 13	123	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 R9				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下肥厚部に円形刺 突、沈線、弧状隆線を施 す。肥厚部下は帯状沈線 内に列点を充填施す。	図1
第22図 PL 13	124	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 O8				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	弧状の帯状沈線、列点を 施す。	図1
第22図 PL 13	125	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 F11				胴部片	粗砂	橙	普通	帯状沈線内に列点を充填 施す。	図1
第22図 PL 13	126	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 N10				胴部片	粗砂	灰黄褐	普通	沈線により幾何学モチ ーフを描き、余白に列点を 充填施す。	図1
第23図 PL 13	127	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 G11				口縁片	粗砂、白色粒	浅黄橙	普通	口縁下に1条の沈線をめ ぐらす。口縁内面を肥厚 させ、横を成形する。	図1
第23図 PL 13	128	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 谷				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に円形刺突をめぐ らす。	図1

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第23図 PL 13	129 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	R8				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁下に指頭押捺をめぐらす。以下、無紋。	順1
第23図 PL 13	130 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に円形刺突と1条の沈線。以下、縦位沈線、斜行紋を施す。	順1
第23図 PL 13	131 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L9				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に2条の沈線をめぐらせ、以下、沈線により幾何学モチーフを描く。	順1
第23図 PL 13	132 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	R8				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	口縁下に刺突列。以下、縦垂紋を施す。	順1
第23図 PL 13	133 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N7				口縁片	粗砂	灰黄褐	普通	液状口縁。液頂部下に円形刺突。口縁下肥厚部に1条の沈線と下縁に斜位の短沈線を施す。肥厚部下は縦位の沈線を施す。	順1
第23図 PL 13	134 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q・R9				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に縦位短沈線、円形刺突、1条の沈線。沈線により逆U字状モチーフを描く。	順1
第23図 PL 13	135 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	G11				口縁片	粗砂、白色粒	浅黄橙	普通	口縁下に刺突列。沈線により逆U字状モチーフを描く。	順1
第23図 PL 13	136 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M10				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に刺突列。以下、逆U字状モチーフを描く。	順1
第23図 PL 13	137 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L9				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	沈線による幾何学モチーフを描く。	順1
第23図 PL 13	138 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	II1				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に円形刺突列。沈線による幾何学モチーフを描く。	順1
第23図 PL 14	139 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9	推36.4			口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に円形刺突をめぐらす。やや幅広を空けて1条の沈線をめぐらせ、2条1単位の沈線を垂下させる。	順1
第23図 PL 14	140 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に1条の沈線。沈線により幾何学モチーフを描く。	順1
第23図 PL 14	141 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L8				口縁片	粗砂、白色粒	浅黄橙	普通	口縁が緩く内折する器形。内折部に突起、横位沈線、円形刺突、下縁に斜位の筋みをめぐらす。内折部下は沈線により幾何学モチーフを描く。	順1
第23図 PL 14	142 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M10				口縁片	粗砂、細礫	にぶい 橙	普通	口縁下に円形刺突と1条の沈線。沈線により幾何学モチーフを描く。	順1
第24図 PL 14	143 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q9				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に円形刺突と1条の沈線。沈線により幾何学モチーフを描く。器壁7mmと薄手。	順1
第24図 PL 14	144 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に2条の沈線をめぐらせ、以下、沈線、波状の沈線を施す。	順1
第24図 PL 14	145 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J9				胴部片	粗砂	橙	良好	帯状沈線を縦位、斜位に施す。	順1
第24図 PL 14	146 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	3トレ				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	帯状沈線を斜位に施す。	順1
第24図 PL 14	147 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L10				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下肥厚部に液状の隆線を施す。以下、沈線により幾何学モチーフを描く。	順1
第24図 PL 14	148 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	F11				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	帯状沈線を横位、斜位、弧状に施す。	順1
第24図 PL 14	149 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N9				胴部片	粗砂	淡黄	普通	縦位、蛇行縦垂紋を施す。	順1
第24図 PL 14	150 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	3トレ				口縁片	粗砂、細礫	にぶい 黄橙	普通	口縁下に1条の沈線と円形刺突。斜標子目状に条線を施す。	順1
第24図 PL 14	151 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q9				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	良好	口縁下に1条の沈線。斜位に条線を施す。	順1



IV 検出された遺構と遺物

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(短)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第24図 PL 14	152 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	S9				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に1条の沈線。条線を斜位に施す。	図1
第24図 PL 14	153 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	ZB9				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に1条の沈線。斜位に条線を施す。	図1
第24図 PL 14	154 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	S8				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	斜格子目状に条線を施す。	図1
第24図 PL 14	155 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q9				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	縦位の条線を施す。	図1
第24図 PL 14	156 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J7				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	斜格子目状に条線を施す。	図1
第24図 PL 14	157 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J9				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	斜格子目状に条線を施す。	図1
第24図 PL 14	158 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N9				口縁片	粗砂	灰黄褐	普通	口縁部に1条の沈線をめぐらせ、以下、条線を施す。	図1
第24図 PL 14	159 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L16				胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描き、区画内に多条の短沈線を充填施す。	図1
第24図 PL 14	160 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D13				胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描き、区画内に多条の短沈線を充填施す。	図1
第24図 PL 14	161 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L10				胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描き、区画内に多条の短沈線を充填施す。	図1
第24図 PL 14	162 縄紋土器	深鉢		遺構外	河道				胴部片				161と同一個体。	図1
第25図 PL 14	163 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D13				口縁片	粗砂	橙	普通	波状口縁。口縁下に1条の沈線。以下、横位沈線、斜突列を施す。	図1
第25図 PL 15	164 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J7				頸部	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	屈曲する器形。横位沈線間に列点を充填施す。	図1
第25図 PL 15	165 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q9				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描き、余白に列点を充填施す。	図1
第25図 PL 15	166 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q10				胴部片	粗砂	にぶい 橙	普通	横位沈線、斜行紋を施し、余白に列点を充填施す。	図1
第25図 PL 15	167 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N9				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	屈曲部下の部位。帯状沈線により「J」字紋、斜行紋を描き、余白に列点を充填施す。	図1
第25図 PL 15	168 縄紋土器	鉢	1	遺構外	N9				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	斜行沈線を施し、余白に列点を充填施す。	図1
第25図 PL 15	169 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q-R9				胴部片	粗砂	にぶい 黄橙	良好	縦位沈線、斜行紋を施し、余白に列点を充填施す。	図1
第25図 PL 15	170 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	T8				口一胴	粗砂	にぶい 橙	普通	頸部で屈曲する器形。口縁下に1条の沈線。屈曲部下に沈線による幾何学モチーフを描き、列点を充填施す。	図1
第25図 PL 15	171 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9				口縁片	粗砂	橙	普通	円形刺突を施した小突起を付す。口縁下肥厚部に1条の沈線。	図1
第25図 PL 15	172 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O9				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に2条の沈線をめぐらす。	図1
第25図 PL 15	173 縄紋土器	深鉢		遺構外	Bトレ				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	良好	小波状口縁で口縁が内折する器形。内折部に沈線により幾何学モチーフを描く。	図1
第25図 PL 15	174 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	G11				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	頸部で屈曲する器形。口縁下に2条の沈線。屈曲部下に沈線による幾何学モチーフを描き、単面シR襷紋を充填施す。	図1
第25図 PL 15	175 縄紋土器	深鉢	1	遺構外	4トレ				口縁片	粗砂、白色粒	橙	普通	頸部で屈曲する器形。屈曲部下に横位沈線を施す。口唇内部が肥厚。	図1

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成瀬整等	備考
第26図 PL 15	176	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q9	推124		口縁片	粗砂	灰黄褐色	普通	頸部で屈曲する器形。口縁部に小突起を付す。横位沈線、幾何学モチーフを描く。波頂部下に円形刺突、屈曲部に貼付紋。	限1
第26図 PL 15	177	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L10			口縁片	粗砂	橙	良好	口縁下に横位の切縁線をめくらす。	限1
第26図 PL 15	178	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L10			口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁下肥厚部に1条の沈線、下端に斜位の筋みをめくらす。	限1
第26図 PL 15	179	縄紋土器	深鉢	1	遺構外				口縁片	粗砂	橙	良好	小波状口縁の波頂部下の部位。沈線により同心円紋を施す。	限1
第26図 PL 15	180	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M10			口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	小波状口縁。口縁下に1条の沈線。波頂部から隆線を垂下させる。	限1
第26図 PL 15	181	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D12			口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	波状口縁で波頂部から弧状の隆線を垂下させる。隆線の両端に円形刺突、隆線下に沈線を施す。	限1
第26図 PL 15	182	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	L8			口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	小波状口縁。波頂部部に2個1対の刺突を施す。口縁部を無紋帯として空け、横位沈線を施す。	限1
第26図 PL 15	183	縄紋土器	深鉢	1	L2溝	覆土			口縁片	粗砂	橙	良好	頸部で屈曲する器形。口縁下肥厚部に隆線、1条の沈線、下部に刺突、屈曲部に横位沈線、円形刺突を施す。	限1
第26図 PL 15	184	縄紋土器	深鉢		遺構外	5トレ			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	口縁下に1条の沈線。沈線により矩形モチーフを描き、内部に条線を充填施紋する。	限1
第26図 PL 15	185	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	R9			口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁下肥厚部に1条の沈線と円形刺突、下端に竹管による刺突列を施す。	限1
第26図 PL 15	186	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	T8			頸部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	頸部で屈曲する器形。屈曲部下に単筋しR縄紋を描きとし、沈線による懸垂紋を施す。	限1
第26図 PL 15	187	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q9			頸部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	頸部で屈曲する器形。屈曲部に横位沈線、円形刺突を施す。	限1
第26図 PL 15	188	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q9			頸部片	粗砂	橙	普通	屈曲部下の部位で横位沈線、懸垂紋を施す。	限1
第26図 PL 15	189	縄紋土器	深鉢	1	遺構外				頸部片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	屈曲部下の部位。横位沈線により区画し、沈線による渦巻状モチーフを描く。	限1
第26図 PL 15	190	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	Q7			頸部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	沈線により渦巻状モチーフを施し、間隙に単筋しR縄紋を施す。	限1
第26図 PL 16	191	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D13			頸部片	粗砂、白色粒	橙	普通	屈曲部下の部位。横位沈線により区画し、沈線により渦巻状、斜行紋を描く。	限1
第26図 PL 16	192	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N10			頸部片	粗砂、白色粒	橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描く。	限1
第27図 PL 16	193	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	2トレ			頸部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	屈曲する器形。沈線により懸垂紋を施す。	限1
第27図 PL 16	194	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D13			頸部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	頸部で屈曲する器形。屈曲部下に沈線による幾何学モチーフを描き、間隙に単筋しR縄紋を充填施紋する。	限1
第27図 PL 16	195	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	F8			頸部片	粗砂	灰黄褐色	普通	屈曲する器形。沈線により幾何学モチーフを描き、間隙に単筋しR縄紋を充填施紋する。	限1
第27図 PL 16	196	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9			頸部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描き、単筋しR縄紋を充填施紋する。	限1
第27図 PL 16	197	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D7			頸部片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	横位沈線、斜行紋を施し、区画内に歯状工具による刺突を充填施紋する。	限1

Ⅳ 検出された遺構と遺物

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径 (長)	底径 (短)	器高 (厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第27図 PL 16	198	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 Q-R9				銅部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	内湾する器形。低位状に沈線を入れ、蛇行懸垂紋を施す。	照1
第27図 PL 16	199	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 M10				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	外反する器形。沈線による懸垂紋、U字状紋を施し、区内に単節LR縄紋を充填施す。	照1
第27図 PL 16	200	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 2A10				口縁片	粗砂	にぶい 橙	普通	口縁下に円形衝突と1条の沈線。単節LR縄紋を地紋とし、沈線による懸垂紋を施す。	照1
第27図 PL 16	201	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 T8				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	口縁下に1条の沈線。以下、単節LR縄紋を地紋とし、低位の沈線を垂下させる。	照1
第27図 PL 16	202	縄紋土器	深鉢	1	遺構外				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に1条の沈線。以下、単節LR縄紋を地紋とし、沈線を垂下させる。	照1
第27図 PL 16	203	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 S8				銅部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、帯状沈線による槽状モチーフを上下2段施す。	照1
第27図 PL 16	204	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 R8				銅部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、2条の沈線でU字状モチーフを描く。	照1
第27図 PL 16	205	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 P8				銅部片	粗砂、細礫	にぶい 黄橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、低位沈線、低位槽状モチーフを施す。	照1
第27図 PL 16	206	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 J10				銅部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	良好	単節LR縄紋を地紋とし、沈線による蛇行懸垂紋を施す。	照1
第27図 PL 16	207	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 2B8				銅部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	良好	単節LR縄紋を地紋とし、2条の沈線による蛇行懸垂紋を施す。	照1
第27図 PL 16	208	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 M10				銅部片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	地紋に単節LR縄紋を施し、沈線による蛇行懸垂紋を施す。	照1
第28図 PL 16	209	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 1トレ				銅部片	粗砂	浅黄	普通	単節LR縄紋を施し、沈線により幾何学モチーフを描く。	照1
第28図 PL 16	210	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 L8				銅部片	粗砂、細礫	にぶい 黄橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、低位、蛇行懸垂紋を施す。	照1
第28図 PL 16	211	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 D11				口縁片	粗砂	にぶい 黄橙	普通	口縁下に1条の沈線をめぐらせ、以下、集合沈線を垂下させる。同時に単節LR縄紋を施す。	照1
第28図 PL 16	212	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 D11				銅部片				211と同一個体。	照1
第28図 PL 16	213	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 J7				銅部片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、沈線による懸垂紋を施す。	照1
第28図 PL 16	214	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 O6				銅部片	粗砂、白色粒	浅黄橙	普通	単節LR縄紋を施し、横位沈線を施す。	照1
第28図 PL 16	215	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 J10				口縁片	粗砂	にぶい 橙	普通	小波状口縁で波頂下に円孔を穿つ。沈線による懸垂紋を施す。口縁内面にも沈線を施す。	照1
第28図 PL 17	216	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 J7				口縁片	粗砂	赤褐	普通	単節LR縄紋を地紋とし、沈線により幾何学モチーフを描く。	照1
第28図 PL 17	217	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 O9				銅部片	粗砂、白色粒	橙	普通	衝突列を挟んだ沈線により低位区別し、区内に斜位の沈線を充填施す。	照1
第28図 PL 17	218	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 D13				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁が緩く内湾する器形。沈線により幾何学モチーフを描き、貼付紋を貼付する。	照1
第28図 PL 17	219	縄紋土器	深鉢	1	遺構外 C13				口縁片	粗砂	にぶい 橙	普通	小波状口縁。沈線により幾何学モチーフを貼付する。区内に列点を充填施す。	照1

## 上江田西田遺跡

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成画整等	備考
第28図 PL 17	220	縄紋土器	浅鉢	1	1	溝	覆土		口縁片	粗砂	橙	普通	くの字状に内折し、口縁が短く外反する器形。口縁から屈曲部にかけて2条の隆線を垂下させ、両端に円形刺突、隆線には単節LR縄紋を施し、横位沈線を施す。	順1
第28図 PL 17	221	縄紋土器	浅鉢			遺構外	4トレ		胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	くの字状に内折する器形。屈曲部上位に単節LR縄紋、横位沈線を施す。	順1
第27図 PL 17	222	縄紋土器	浅鉢	1		遺構外	S8		口縁片	粗砂、細礫	にぶい黄橙	普通	深状口縁で、口縁がくの字状に短く内折する。内折部に沈線による橋状区画を施し、両点を充填施す。口縁から屈曲部にかかると隆線を貼付し、円形刺突を施す。	順1
第28図 PL 17	223	縄紋土器	浅鉢	1		遺構外	F11		口縁片	粗砂、白色粒	橙	普通	口縁がくの字状に内折、橋状把手を付し、把手状に沈線、刻みを付す。	順1
第28図 PL 17	224	縄紋土器	浅鉢	1		遺構外	G11		口縁片				223と同一個体。	順1
第28図 PL 17	225	縄紋土器	浅鉢	1		遺構外	5トレ		口縁片	粗砂	橙	普通	口縁が短く内折する器形。内折部に沈線による橋状区画を描き、単節LR縄紋を充填施す。貼付紋を貼付。	順1
第28図 PL 17	226	縄紋土器	浅鉢	1		遺構外	M9		口縁片	粗砂	橙	普通	口縁が内折する器形。内折部に帯状沈線によりJ字紋など幾何学モチーフを描く。	順1
第28図 PL 17	227	縄紋土器	浅鉢	1		遺構外	M10		口一側	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁が内湾する器形。2条の沈線をめぐらせて幅狭な口縁部紋線帯を区画。紋線帯内はS字状、斜位の沈線を施し、一部沈線間に単節LR縄紋を充填施す。紋線帯下は無紋。	順1
第28図 PL 17	228	縄紋土器	浅鉢	1		遺構外	M9		口縁片	粗砂	橙	普通	口縁が内折する器形。内折部に沈線により幾何学モチーフを描く。	順1
第28図 PL 17	229	縄紋土器	浅鉢			遺構外	3トレ		口縁片	細砂	にぶい黄橙	普通	口縁が内湾する器形。口縁部外面が肥厚。斜位の沈線を施す。	順1
第28図 PL 17	230	縄紋土器	浅鉢			遺構外	4トレ		口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	口縁が内湾する器形。口縁部に斜位の刻みを付した隆線を1条めぐらす。口唇部にも斜位の刻みを付す。	順1
第29図 PL 17	231	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	K6、K7		口縁片	粗砂	橙	普通	口縁に小突起を付す。単節LR縄紋を施せとし、帯状沈線を施す。	順2
第29図 PL 17	232	縄紋土器	深鉢			遺構外	3トレ		胴部片	粗砂	にぶい黄橙	良好	単節LR縄紋を施せとし、帯状沈線を横位、縦位に施す。	順2
第29図 PL 17	233	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	K7		胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	帯状沈線を施し、単節LR縄紋を充填施す。斜位に沈線を充填施す。	順2
第29図 PL 17	234	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	E12		口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施す。	順2
第29図 PL 17	235	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	B9		口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施す。口縁下にSの字貼付紋を貼付。	順2
第29図 PL 17	236	縄紋土器	深鉢	1		遺構外	K10		口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	帯状沈線により弧状モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施す。	順2

Ⅳ 検出された遺構と遺物

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(短)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第29図 PL 17	237	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	3トレ			口へ胴	粗砂、白色粒	にぶい 黄緑	普通	帯状沈線により対弧状モチーフを描く。	順2
第29図 PL 17	238	縄紋土器	深鉢	1	1,2 溝	覆土			口縁片	粗砂、白色粒	灰黄緑	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節L R縄紋を充填施す。口縁下にSの字貼付紋を貼付。	順2
第29図 PL 17	239	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	B8			胴部片				238と同一個体。	順2
第29図 PL 17	240	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	B12			口縁片	粗砂、白色粒	赤褐	普通	口縁下に1条の隆線。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節L R縄紋を充填施す。	順2
第29図 PL 17	241	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	H10			口縁片	粗砂、白色粒	橙	良好	口縁下に1条の隆線。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節L R縄紋を充填施す。	順2
第29図 PL 17	242	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	C13			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄緑	普通	口縁下に1条の隆線。帯状沈線により幾何学モチーフを描く。隆線下にSの字貼付紋を貼付。	順2
第29図 PL 17	243	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D13			口縁片	粗砂	明赤褐	良好	口縁下に1条の隆線。帯状沈線を描き、単節L R縄紋を充填施す。	順2
第29図 PL 17	244	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	B9、J9			口縁片	粗砂	黒褐	普通	口縁下に2条の隆線。帯状沈線を描き、単節L R縄紋を充填施す。	順2
第29図 PL 17	245	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	P7			口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 橙	普通	口縁下に2条の隆線をめぐらせ、隆線をつなぐ幅位の隆線を描き、両端に円形刺突を施す。	順2
第29図 PL 17	246	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J9			口縁片	粗砂	にぶい 黄緑	普通	口縁部に突起を付す。突起下に刻みを付した隆線を垂下させ、斜位に隆線を描く。	順2
第29図 PL 17	247	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	1トレ			口縁片	粗砂	黒褐	普通	口縁下に2条の隆線。横位沈線を描く。	順2
第29図 PL 17	248	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	F11			口縁片	粗砂	灰黄緑	普通	口縁下に2条の隆線を描き、隆線下に単節L R縄紋を施す。	順2
第29図 PL 17	249	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	B9			口縁片	粗砂、白色粒	橙	普通	口縁が内湾する器形。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節L R縄紋を充填施す。	順2
第29図 PL 17	250	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J9			胴部片	粗砂	にぶい 黄緑	普通	口縁下に1条の隆線。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節L R縄紋を充填施す。	順2
第29図 PL 17	251	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J8、J9			胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄緑	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節L R縄紋を充填施す。	順2
第29図 PL 18	252	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	B9			胴部片	粗砂	にぶい 黄緑	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節L R縄紋を充填施す。	順2
第29図 PL 18	253	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	B9			胴部片	粗砂	灰黄緑	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節L R縄紋を充填施す。	順2
第29図 PL 18	254	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	F10			胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄緑	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節L R縄紋を充填施す。	順2
第30図 PL 18	255	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	表土			胴部片	粗砂、白色粒	橙	良好	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節L R縄紋を充填施す。余白に相似形に沈線を充填施す。	順2
第30図 PL 18	256	縄紋土器	深鉢	1	遺構外				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄緑	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節L R縄紋を充填施す。余白に相似形に沈線を充填施す。	順2
第30図 PL 18	257	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D13			胴部片	粗砂	灰白	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描く。	順2
第30図 PL 18	258	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	S8			口縁片	粗砂	にぶい 黄緑	普通	頸部がくびれる器形。単節L R縄紋をまばらに施す。	後期前

図番号	種別	器形	区	名	遺構種	取上番号	口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第30図 PL 18	259	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N9				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄粒	普通	外唇ぎ状の口唇部。単筋 L R 縄紋を横位施紋する。	後期前
第30図 PL 18	260	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	G11				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄粒	普通	無紋。	後期前
第30図 PL 18	261	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J9				口縁片	粗砂	にぶい 黄粒	普通	無紋。斜位の擦痕が見ら れる。	後期前
第30図 PL 18	262	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	N10				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄粒	普通	無紋。	後期前
第30図 PL 18	263	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O9				口縁片	粗砂、白色粒	灰黄褐	普通	無紋だが、縦位の隆帯が 剥落した痕跡がある。	後期前
第30図 PL 18	264	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	3トレ				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい 黄粒	普通	無紋。斜位の擦で痕が見 られる。	後期前
第30図 PL 18	265	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	G11		9.6		胴～底	粗砂	にぶい 黄粒	普通	残存部は無紋。	後期前
第30図	266	縄紋土器	深鉢	1	遺構外			10.3		底部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄粒	普通	残存部は無紋。	後期前
第30図	267	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9		10.0		底部片	粗砂、白色粒	明赤褐	普通	残存部は無紋。	後期前
第30図 PL 18	268	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	M9		10.5		胴～底	粗砂	にぶい 黄粒	普通	残存部は無紋。	後期前
第30図 PL 18	269	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J7		推18.6		底部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄粒	普通	残存部は無紋。	後期前
第31図 PL 18	270	縄紋土器	深鉢	1	1,2 溝	覆土		8.0		胴～底	粗砂	にぶい 黄粒	普通	残存部は無紋。	後期前
第31図	271	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J7		9.2		底部片	粗砂	黄	普通	残存部は無紋。底面に網 代痕が残る。	後期前
第31図 PL 18	272	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	O11				底部片	粗砂	黄	普通	底面に網代痕が残る。	後期前
第31図 PL 18	273	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	I9		推10.0		底部片	粗砂	にぶい 黄粒	普通	底面に網代痕が残る。	後期前
第31図 PL 18	274	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	H10		7.9		底部片	細砂	にぶい 黄粒	普通	残存部は無紋。底面に網 代痕が残る。	後期前
第31図 PL 18	275	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	I8		8.4		底部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄粒	普通	残存部は無紋。底面に網 代痕が残る。	後期前
第31図 PL 19	276	縄紋土器	深鉢	1	1 溝	覆土				底部片	粗砂	浅黄	普通	底面に網代痕が残る。	後期前
第31図 PL 19	277	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	NS、L7		推9.8		底部片	粗砂	黄	良好	底面に網代痕が残る。	後期前
第31図	278	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	D11		推12.0		底部片	粗砂	浅黄	普通	残存部は無紋。底面に網 代痕が残る。	後期前
第31図 PL 19	279	縄紋土器	注口	1	遺構外	D13				口縁片	細砂	浅黄褐	普通	鋭角に屈曲する器形。沈 澱により渦巻紋、楕円状 区画を描き、楕円状区 画内に刺突を充填施紋す る。注口は蛇腹状を呈し、 先端部にも沈澱と刺突を 施す。	順1
第31図 PL 19	280	縄紋土器	注口		遺構外	不明				口～胴	粗砂	にぶい 黄	普通	くの字状に屈曲する器 形。屈曲部上位に沈澱に よる幾何学モチーフ、単 筋 L R 縄紋を施す。注口 部に隆帯を貼付。	順1
第31図 PL 19	281	縄紋土器	注口	1	遺構外	M10				注口部	粗砂	黄	普通	注口先端部と口縁部をつ なぐ把手の痕跡が残る。	後期前
第31図 PL 19	282	縄紋土器	注口	1	遺構外	Q9				注口部	粗砂	にぶい 黄	普通	注口先端部と口縁部をつ なぐ把手の痕跡が残る。	後期前
第31図 PL 19	283	縄紋土器	注口	1	遺構外	K9				注口部	粗砂	にぶい 黄粒	普通		後期前
第31図 PL 19	284	縄紋土器	注口	1	遺構外	H9				口縁片	細砂	黄	普通	口縁下に鋸歯状紋を施 し、余白に縦位沈澱を充 填施紋する。口唇部内 端を肥厚させて平知面 を作出。楕円状比線を施 し、刺突を充填施紋す る。	順1
第31図 PL 19	285	縄紋土器	注口	1	遺構外	C13				口縁片	粗砂	黄	普通	沈澱により三角形状、弧 状などの幾何学モチーフ を描き、部分的に単筋 L R 縄紋を充填施紋する。 口唇外面が肥厚。	順1
第31図 PL 19	286	縄紋土器	注口	1	遺構外	K9				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい 黄	普通	注口との接合部で欠損。 287と同一個体。	順1

Ⅳ 検出された遺構と遺物

図番号	種別	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考	
第31図 PL 19	287	縄紋土器	注口	1	遺構外	J9				胴部片			沈線による渦巻紋、指円紋などの幾何学モチーフを描く。部分的に刺突を充填施紋する。	類I	
第31図 PL 19	288	縄紋土器	注口	1	遺構外	K9				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい黄緑	普通	口縁下に3本の沈線をめぐらせて幅狭な紋帯を区画。紋帯内は縦糸細直紋を施す。区画の下の沈線間に刺突を充填施紋する。紋帯下は磨削。	類I
第31図 PL 19	289	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	I10				口縁片	粗砂	にぶい黄緑	普通	口縁下に帯縄紋、区切り紋を施し、内面に沈線をめぐらす。口唇部に刻みを付す。	加B
第31図 PL 19	290	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	3トレ				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄緑	良好	残存部は無紋。内面に沈線をめぐらす。	加B
第31図 PL 19	291	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	3トレ				口縁片	粗砂、白色粒	黒褐	良好	小突起を付す。帯状沈線を施し、基部LR縄紋を充填施紋する。内面に横位沈線を施す。	加B
第32図 PL 19	292	縄紋土器	深鉢	1	遺構外	J9				胴部片	粗砂、白色粒	にぶい黄緑	普通	胴部上位が膨らみ、口縁に向かってすぼまる器形。縦位指円紋や横位沈線を施す。	加B
第32図 PL 19	293	土製品	ミニチュア	1	遺構外	D13	5.8			口縁片	細砂	灰黄	普通	筒状の器形。無紋。	後前期
第32図 PL 19	294	土製品	ミニチュア	1	遺構外	G11				胴部片	粗砂	淡黄	普通	液状口縁あるいは口縁下に孔を穿っている。無紋。	後前期
第32図 PL 19	295	土製品	ミニチュア	1	遺構外	K8	3.6			ほぼ定形	粗砂、白色粒	淡黄	普通	無紋。	後前期
第32図 PL 19	296	土製品	ミニチュア	1	遺構外	G11	4.8			底部片				294と同一個体。	後前期
第32図 PL 19	297	土製品	土製品	1	遺構外					破片	粗砂、白色粒	橙	普通	厚さ1.3cm。大形の土製円盤か？	後前期
第32図 PL 19	298	土製品	土製円盤	1	遺構外	N9				定形	粗砂	橙	良好	径2.6cm、厚0.9cm。	後前期
第32図 PL 19	299	土製品	土製品	1	遺構外	I9				ほぼ定形	粗砂	浅黄緑	普通	長さ5.8cm、径1.4cmで中央がやや太くなる。上下端と中央部にそれぞれ1本の沈線をめぐらせる。	後前期
第32図 PL 19	300	土製品	土製品	1	遺構外	J8				定形	粗砂	橙	良好	長さ3.1cm、幅1.5cm、厚さ1.2cmの不整指円形状を呈す。十文字に沈線を施す。	後前期
第32図 PL 19	301	土製品	土製品	1	遺構外	D12				ほぼ定形	粗砂	浅黄緑	普通	長さ7.2cm、幅4.7cm、高さ2.8cm。	後前期
第32図 PL 19	赤生I	赤生土器	壺		遺構外					口縁片	細砂	浅黄緑	普通	口縁端部に刻み	赤生後期
第32図 PL 19	赤生2	赤生土器	壺		遺構外	表土				口縁片	細砂	赤褐	普通	外面折り返し2段後刺突。内面磨き	赤生後期
第32図 PL 19	2IX1	縄紋土器	深鉢	2	遺構外	3J				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄緑	普通	口縁部紋帯の部位。隆起による指円状モチーフを施す。	加E3
第32図 PL 19	2IX2	縄紋土器	深鉢	2	遺構外	3J4				胴部片	粗砂	にぶい黄緑	普通	沈線による懸垂紋を施し、基部LR縄紋を縦位充填施紋する。	加E3
第32図 PL 19	2IX3	縄紋土器	深鉢	2	遺構外	3K5				口縁片	粗砂	にぶい黄緑	普通	帯状沈線によるモチーフを描く。	称II
第32図 PL 19	2IX4	縄紋土器	深鉢	2	遺構外	3L6				胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	帯状沈線によりJ字状モチーフを描き、区画内にLR縄紋を充填施紋する。	称I
第32図 PL 19	2IX5	縄紋土器	深鉢	2	遺構外	3L6				胴部片	粗砂	橙	普通	帯状沈線によりJ字状モチーフを描く。	称II
第32図 PL 19	2IX6	縄紋土器	深鉢	2	遺構外	3I3				胴部片	粗砂、白色粒	淡黄	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描く。	類2

## (上江田西田遺跡土師器・須恵器他)

図番	器形	区	遺構名	口径 (長) cm	底径 (幅) cm	器高 (厚) cm	重量g	部位	胎土の特徴	色調	焼成	器形及び整形の特徴
第33区 PL. 21	1 壺	1	遺構外	(16.0)	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁肥厚、内外面横位主体のハケ目。
第33区 PL. 21	2 壺	1	遺構外	15.2	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	薄い粘土部貼付による折返し口縁。細かいハケ目。内面磨き。
第33区 PL. 21	3 壺	1	遺構外	13.7	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	明褐	酸化	口唇弱い面取り。頸部外面ハケ目。口縁横ナデ。
第33区 PL. 21	4 壺	1	遺構外	(18.6)	-	-	-	口-胴上半部	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	頸部は直立する二重口縁。胴部は球形か。外面磨き。
第33区 PL. 21	5 壺	1	遺構外	(16.8)	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	黄灰	酸化	水平近く開く二重口縁。内外面とも細かい丁寧な研磨。甕入品か。
第33区 PL. 21	6 壺	1	遺構外	(12.0)	-	-	-	口頸部片	白色粒子を含む	灰	還元	轆轤成形、内外ナデ
第33区 PL. 21	7 壺	1	遺構外	13.0	-	-	-	口-肩片	砂粒を含む	明赤褐	酸化	口唇面取り後へうによる刻み。頸部に刻みある凸帯を廻らす。
第33区 PL. 21	8 壺	1	遺構外	-	-	-	-	頸部片	砂粒を含む	橙	酸化	頸部に断面方形の凸帯を廻らす。
第33区 PL. 21	9 壺	1	遺構外	-	-	-	-	肩部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	鋭い鑿歯具による4段横線文にへうによる乱れた面文を2段挿す。
第33区 PL. 21	10 小型壺	1	遺構外	(10.0)	-	-	-	口-胴上半部	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	外面、口縁内面に縦研磨。研磨部に赤彩の可能性。
第33区 PL. 21	11 直口壺	1	遺構外	(8.2)	-	-	-	口-胴上半部	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	ナデ後研磨と思われるが剥離。外面と口縁内面に赤彩。
第33区 PL. 21	12 直口壺	1	遺構外	9.0	-	-	-	口縁部	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	縦ハケ目のち、まばらな研磨。
第33区 PL. 21	13 直口壺	1	遺構外	(8.4)	-	-	-	口縁部片	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	縦ハケ目のち、まばらな研磨。口縁横ナデ。
第33区 PL. 21	14 器台	1	遺構外	-	-	-	-	器受け部	細砂粒を含む	橙	酸化	器受け部が大きく凹状に開く。
第33区 PL. 21	15 壺	2	遺構外	-	-	-	-	口縁部	砂粒・小石を含む	橙	酸化	内外面器差入れ
第33区 PL. 21	16 壺	1	遺構外	11.6	-	-	-	口-胴上半部	細砂粒を含む	橙	酸化	口唇は薄く外傾。外面ハケ目のちナデ及び研磨。体外面に砥。
第34区 PL. 21	17 壺	1	遺構外	-	-	-	-	口-胴上半部	砂粒を含む	明赤褐	酸化	外面ハケ目のちナデ及び研磨。
第34区 PL. 21	18 壺	1	遺構外	-	-	-	-	肩部片	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	外面研磨、赤彩。
第34区 PL. 21	19 (壺)	1	遺構外	-	-	-	-	頸-胴上半部	砂粒を多く含む	にぶい黄褐	酸化	外面ハケ目のちナデ及び研磨。内面積み上げ痕、へうナデ。
第34区 PL. 21	20 小型壺	1	遺構外	-	5.0	(8.9)	-	胴-底部片	砂粒を含む	オリーブ黒	酸化	外面ハケ目のちナデ及び研磨。
第34区 PL. 21	21 S字状口縁壺	1	遺構外	(14.0)	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	灰黄	酸化	肩部斜ハケ目、頸部にへう先ナデ。
第34区 PL. 22	22 S字状口縁壺	1	遺構外	(16.3)	-	-	-	口-肩片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	口唇上縁に面取り。肩部斜ハケ目のち横ハケ目。
第34区 PL. 21	23 S字状口縁壺	1	遺構外	(15.2)	-	-	-	口-肩片	砂粒を含む	淡黄	酸化	口唇水平に折れる。肩部縦ハケ目。
第34区 PL. 21	24 S字状口縁壺	1	遺構外	(18.5)	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	口縁上段小さく屈曲。肩部縦ハケ目。
第34区 PL. 22	25 S字状口縁壺	1	遺構外	(15.0)	-	-	-	口-肩片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	口縁上段肥厚。肩部斜ハケ目、胴中位からの左上方ハケ目。
第34区 PL. 22	26 S字状口縁壺	1	遺構外	(18.8)	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	明赤褐	酸化	口縁上段は直状に開き、頸部は弓なりに屈曲。肩部斜ハケ目。
第34区 PL. 22	27 S字状口縁壺	1	遺構外	(10.0)	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	口縁上段が小さく直立。外面縦ハケ目。小型品。
第34区 PL. 22	28 台付壺	1	遺構外	(15.4)	-	-	-	口-器台片	砂粒を含む	灰黄褐	酸化	内外面とも細かい斜ハケ目。口縁内面横ナデ。口唇上縁へう刻み。接合しないが同一個体か。
第35区 PL. 22	29 壺	1	遺構外	(15.0)	-	-	-	口-胴上半部	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	外面と口縁内面ハケ目、胴内面ナデ。
第35区 PL. 22	30 壺	1	遺構外	(14.6)	-	-	-	口-肩片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	外面と口縁内面ハケ目、胴内面ナデ。
第35区 PL. 22	31 壺	1	遺構外	(17.6)	-	-	-	口-肩片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	口縁内外面横ナデ。肩外面と内面横ハケ目。



Ⅳ 検出された遺構と遺物

図番	器形	区	遺構名	口径 (長) cm	口径 (幅) cm	器高 (厚) cm	重量g	部位	胎土の特徴	色調	焼成	器形及び整形の特徴
第35図 PL 22	32	類	1	遺構外	-	-	-	口頸部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	口唇弱く肥厚。内外面ハケメ。
第35図 PL 22	33	類	1	遺構外	(16.4)	-	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄	酸化	強く外反し。内外面にハケメ。
第35図 PL 22	34	類	1	遺構外	(16.2)	-	-	口頸部片	砂粒を含む	浅黄	酸化	口唇尖り、直状に開く。内外面ハケメ。
第35図 PL 22	35	類	1	遺構外	(22.0)	-	-	口～肩片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	器厚は薄く、口唇部尖る。朝外面ハケメ 口縁内外面にハケメ。
第35図 PL 22	36	類	1	遺構外	-	-	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	大きく外反して開く。内外面ハケメ。
第35図 PL 22	37	類	1	遺構外	(17.8)	-	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい赤	酸化	口縁上端は肥厚して、やや立ち上がる。 内外面ナデ。
第35図 PL 22	38	類	1	遺構外	(14.7)	-	-	口頸部片	砂粒を含む	にぶい赤	酸化	口唇部に面取り。内外面ナデ。
第35図 PL 22	39	類	1	遺構外	(12.6)	-	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口唇やや肥厚丸縁。内外面横ナデ。
第35図 PL 22	40	類	1	遺構外	-	-	-	口頸部片	砂粒を多く含む	にぶい黄	橙	口縁上端は直立しヘラナデ。内外面ナデ。
第35図 PL 22	41	類	1	遺構外	(12.0)	-	-	口～胴上半部	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口唇はわずかに肥厚して外傾。外面ハケ メのちナデ及び積層。
第35図 PL 22	42	小型台 付要	1	遺構外	(8.7)	-	-	口縁～胴部	砂粒を多く含む	にぶい黄	橙	口縁小さく外反。肩の張る球脚。外面ハ ケメ。内面ナデ。
第35図 PL 22	43	類	1	遺構外	13.2	4.6	-	口～底片	砂粒を含む	灰黄	酸化	弱い受け口口縁。上縁は弱い面取り。外 面縦ハケメ。内面ナデ。平底部は別個体 の可能性を残す。
第35図 PL 22	44	小型要	1	遺構外	(9.4)	-	-	口～胴部片	砂粒を含む	にぶい黄	橙	口縁小さく外反。肩の張る球脚。外面ハ ケメ。内面ナデ。台付要の可能性あり。
第35図 PL 22	45	小型要	1	遺構外	(10.8)	-	-	口縁部片	砂粒を含む	赤褐	酸化	口縁肥厚し小さく外反。内外面はナデか。
第35図 PL 22	46	類	1	遺構外	-	-	-	口縁片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	口唇部にヘラ刻み。頸部には粗いハケメ。
第35図 PL 22	47	類	1	遺構外	(18.6)	-	-	口～胴上半部 片	砂粒を含む	にぶい赤	褐色	口縁大きく外反。胴部肩のちナデ。
第36図 PL 22	48	類	1	遺構外	(20.4)	-	-	口頸部片	砂粒を含む	にぶい黄	橙	口縁肥厚し外傾。横ナデ。
第36図 PL 22	49	類	1	遺構外	(20.0)	-	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁上端は小さな折返して外反。ナデ。
第36図 PL 22	50	S字状 口縁要	1	遺構外	-	-	-	脚台上半部	砂粒を多く含む	にぶい褐	酸化	内面ナデ。外面斜ハケメ。
第36図 PL 22	51	S字状 口縁要	1	遺構外	-	-	-	脚台上半部	砂粒を含む	灰黄	酸化	内面ナデ。外面斜ハケメ。
第36図 SZ PL 23	52	類	1	遺構外	19.2	-	-	口～胴上半部 片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	口唇面取り。頸部に輪強の粘土帯を遡ら す。内外面斜ハケメ。
第36図 PL 23	53	(意)	1	遺構外	-	7.6	-	体下半～底	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	焼成後底部穿孔。内外面ハケメ。
第36図 PL 22	54	台付要	1	遺構外	-	-	-	胴下半～脚部 片	砂粒を含む	にぶい黄	橙	外面と脚内面に粗いハケメ。脚内面ナデ。
第36図 PL 22	55	台付要	1	遺構外	-	7.6	-	脚台部	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	やや外反気味に開く。外面は長い縦ハケ メ。
第36図 PL 22	56	台付要	1	遺構外	-	(6.0)	-	底～台部	砂粒を含む	にぶい黄	橙	粗いハケメとナデ。高杯ミニチュア品の 可能性あり。
第36図 PL 23	57	台付要	1	遺構外	-	(10.8)	-	脚台部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	長く、直状に開く。外面は長い縦ハケメ。 内面斜ハケメ。
第36図 PL 22	58	S字状 口縁要	1	遺構外	-	-	-	脚台部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	内湾気味に開く。外面ナデ。内面指ナデ。
第36図 PL 23	59	台付要	1	遺構外	-	11.6	-	脚台部片	砂粒を含む	明赤褐	酸化	大きく外反して開く。外面縦ハケメ。北 部系高杯に似る。
第36図 PL 23	60	小型要	1	遺構外	(11.2)	-	-	口～肩部片	砂粒を含む	にぶい黄	橙	口唇尖るS字状口縁。縁か台付要の可能 性もある。
第36図 PL 23	61	器	1	遺構外	-	9.9	-	体～底部片	砂粒を含む	にぶい黄	橙	大きめの平底。底面に口へ横き状描線。 脚内外面にハケメとナデ。
第37図 PL 23	62	高杯	1	遺構外	24.0	11.4	13.5	-	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	脚部中位に3孔。口唇部に小さな面取り。 杯部内外面に丁寧な放射状積層。

図番	器形	区	遺構名	口径 (長) cm	底径 (幅) cm	器高 (厚) cm	重量g	部位	胎土の特徴	色調	焼成	器形及び整形の特徴
第37図 PL. 23	63	高杯	1 遺構外	(21.5)	(14.5)	14.1	-	1/2	砂粒を含む	にぶい黄褐色	酸化	胴部中位に3孔。杯部内外面に放射状研磨。脚上位は中実柱状。
第37図 PL. 23	64	高杯	1 遺構外	(15.8)	-	-	-	杯部片	砂粒を含む	にぶい黄褐色	酸化	口唇内面に面取り。杯部研磨と思われるが不明瞭。
第37図 PL. 23	65	(高杯)	1 遺構外	(16.0)	-	-	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい褐色	酸化	口唇外側につまみナデによる沈積。二重口縁造の可能性あり。
第37図 PL. 23	66	高杯	1 遺構外	(11.4)	-	-	-	杯部片	砂粒を含む	にぶい褐色	酸化	杯部筒形で、口縁上縁が強く外折。小型品。
第37図 PL. 23	67	高杯か 器台	1 遺構外	(15.8)	-	-	-	口縁部片	砂粒を含む	明黄褐色	酸化	下方に突出する粘土帯で外反する口縁を形成。北陸系。
第37図 PL. 23	68	高杯	1 遺構外	-	-	-	-	杯部片	砂粒・小石を含む	黄褐色	酸化	杯部底の横強く、杯部は外反して立つ。
第37図 PL. 23	69	器台	1 遺構外	(10.6)	-	-	-	杯部片	細砂粒を含む	にぶい褐色	酸化	浅い皿状の器受け部で、脚部への貫通孔はない。
第37図 PL. 23	70	高杯	1 遺構外	-	-	-	-	杯～脚部片	砂粒を含む	褐色	酸化	杯部底の横強く、杯部は外反して立つ。杯部内外面に放射状研磨。
第37図 PL. 23	71	高杯	1 遺構外	-	-	-	-	杯部下位片	砂粒を含む	にぶい褐色	酸化	杯部底の横強く、杯部は外反して立つ。
第37図 PL. 23	72	器台	1 遺構外	8.7	11.3	8.7	-	1/2	細砂粒を含む	にぶい褐色	酸化	脚中位で屈曲して開き、3孔を穿つ。
第37図 PL. 23	73	器台	1 遺構外	(8.5)	(9.8)	7.9	-	3/4	細砂粒を含む	にぶい褐色	酸化	器受け部は段状、脚部は強く外反して開く。
第37図 PL. 23	74	器台	1 遺構外	(7.7)	(10.1)	7.5	-	3/4	細砂粒を含む	にぶい赤褐色	酸化	器受け部は浅い内湾皿形。脚部が外反する。
第37図 PL. 23	75	器台	1 遺構外	7.4	-	-	-	脚部部	細砂粒を含む	にぶい赤褐色	酸化	口唇部外側に小さな面取り。脚部中位で弱く折れる。
第37図 PL. 23	76	器台	1 遺構外	(8.5)	-	-	-	杯～脚部片	砂粒を含む	明赤褐色	酸化	器受け部は直線状に開き、口唇は実る。
第37図 PL. 23	77	器台	1 遺構外	-	-	-	-	杯～脚部片	砂粒を含む	褐色	酸化	口縁屈曲すると思われる。
第37図 PL. 24	78	器台	1 遺構外	-	-	-	-	脚部部	砂粒を含む	にぶい明黄褐色	酸化	器受け部は小さな内湾皿形。
第37図 PL. 24	79	結合器台	1 遺構外	(18.3)	-	-	-	口～器受け部	細砂粒を含む	にぶい褐色	酸化	円盤状の器受け部から強く外反して口縁が開く。透かしは不明。
第37図 PL. 24	80	結合器台	1 遺構外	-	-	-	-	器受け部	細砂粒を含む	褐色	酸化	円盤状の器受け部から口縁が開く。透かしは不明。
第37図 PL. 24	81	結合器台	1 遺構外	-	-	-	-	器受け部	砂粒を含む	褐色	酸化	円盤状の器受け部から口縁が開く。透かしは不明。内外面研磨。
第37図 PL. 24	82	結合器台	1 遺構外	-	-	-	-	器台部	砂粒を多く含む	にぶい褐色	酸化	器受け部は大きく開く皿形。脚部は大きく外反して開く。
第37図 PL. 24	83	(高杯)	1 遺構外	-	(18.6)	-	-	脚部	細砂粒を含む	にぶい黄褐色	酸化	円盤状の底面、結合口縁が杯部の接合部にハケメ残す。脚部外面は丁寧な研磨。
第38図 PL. 24	84	器台か	1 遺構外	-	-	-	-	器受け部	細砂粒を含む	にぶい褐色	酸化	円盤状の底面、結合口縁が杯部の接合部にハケメ残す。
第38図 PL. 24	85	器台か	1 遺構外	-	-	-	-	器受け部～脚部片	砂粒を含む	にぶい褐色	酸化	円盤状の底面、結合口縁が杯部の接合部にハケメ残す。
第38図 PL. 24	86	高杯	1 遺構外	-	-	-	-	脚部	砂粒を含む	褐色	酸化	外反して開く。円孔は上位に穿つ。
第38図 PL. 24	87	高杯	1 遺構外	-	11.4	-	-	脚部	細砂粒を含む	赤褐色	酸化	低く外反して開く。小さな円孔を4箇所対面に穿つ。
第38図 PL. 24	88	器台か 高杯	1 遺構外	-	-	-	-	脚部	砂粒を含む	にぶい褐色	酸化	上位柱状、下半大きく開く。脚内面に芯棒孔を残す。
第38図 PL. 24	89	器台か 高杯	1 遺構外	-	(8.6)	-	-	脚部	細砂粒を含む	にぶい黄褐色	酸化	円錐形に開き、裾部が外折する。
第38図 PL. 24	90	器台か 高杯	1 遺構外	-	15	-	-	脚部	細砂粒を含む	にぶい褐色	酸化	脚部は円錐形に大きく開き、裾部が外折する。円孔は上位に穿つ。
第38図 PL. 24	91	器台	1 遺構外	7.0	-	-	-	器受け部	砂粒を含む	褐色	酸化	器受け部は小さく外反気味に開く。
第38図 PL. 24	92	高杯	1 遺構外	-	-	-	-	脚部片	砂粒を含む	にぶい黄褐色	酸化	脚部内面に粘土様接合痕と紋目を残す。
第38図 PL. 24	93	高杯	1 遺構外	-	-	-	-	脚部	細砂粒を含む	褐色	酸化	ふくらむ脚柱部から外折して裾部が開く。円孔なし。
第38図 PL. 24	94	有孔鉢	1 遺構外	17.9	4.3	8.6	-	略定形	砂粒を含む	にぶい褐色	酸化	内湾して開く鉢形で、口唇部外側に小さな面取り。底孔径6mm。

Ⅳ 検出された遺構と遺物

図番	器形	区	遺構名	口径 (長) cm	底径 (幅) cm	器高 (厚) cm	重量 g	部位	胎土の特徴	色調	焼成	器形及び整形の特徴	
第38区 PL 24	95		有孔鉢	1	遺構外	-	4.7	-	体～底部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	やや深い鉢形で外面にハケメ。底孔径は12mm。
第38区 PL 24	96	(栗)	1	遺構外	-	4.8	-	底部	砂粒を含む	明赤褐	酸化	被熱痕。	
第38区 PL 24	97	(藍)	1	遺構外	-	7.0	-	底部	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	輪状粘土層によるドーナツ状の凹み底。	
第38区 PL 24	98	(埴)	1	遺構外	-	3.4	-	底部片	細砂粒を含む	明赤褐	酸化	底面はレンズ状に直む。	
第38区 PL 24	99	栗	1	遺構外	-	(6.8)	-	底部片	砂粒を含む	明褐灰	酸化	体内内外面ハケ目後ナデ。	
第38区 100 PL 24	100	藍	1	遺構外	-	6.2	-	底部	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	内外面ハケ目後ナデ、底面中央直む。	
第38区 101 PL 24	101	(藍)	1	遺構外	-	(4.7)	-	底部片	砂粒を含む	灰黄	酸化	体外外面下位ハケ目、底面わずかに直む。	
第38区 102 PL 24	102	(栗)	1	遺構外	-	4.4	-	底部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	外面ハケメ。底面直む。	
第38区 103 PL 24	103	(藍)	1	遺構外	-	(4.8)	-	底部	砂粒を含む	灰黄褐	酸化	突出底。	
第38区 104 PL 24	104	藍	1	遺構外	-	6.4	-	底部	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	外面ハケメ。内面ナデ。	
第38区 105 PL 24	105	(栗)	1	遺構外	-	(6.0)	-	底部	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	球割と思われる。外面に塚付着。	
第38区 106 PL 24	106	(藍)	1	遺構外	-	4.8	-	底部	砂粒を多く含む	にぶい黄橙	酸化	外面器表裏れ	
第38区 107 PL 24	107	藍	1	遺構外	-	(3.8)	-	底部片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	突出した底部で、底面に木葉痕。	
第38区 108 PL 24	108	藍	1	遺構外	-	(8.8)	-	脚～底部片	砂粒を含む	灰褐	酸化	外方に張り出して突出する底面に布目痕(粗い字織り)を残す。	
第39区 109 PL 24	109	土師器 杯	1	遺構外	-	-	-	口～底部片	細砂粒を含む	橙	酸化	口縁部横ナデ、底部へう割り、内面粗い放射状縮文	
第39区 110 PL 24	110	土師器 鉢	-	遺構外	-	-	-	口縁部片	細砂粒を含む	にぶい褐	酸化	胴部上半へうミガキ、下半へう割り、底部の荒れ顯著	
第39区 111 PL 24	111	須恵器 壺	2	遺構外	-	-	-	口縁部片	白色粒子を含む	灰赤	還元	外面に2条團線	
第39区 112 PL 24	112	須恵器 高杯	2	遺構外	-	(2.5)	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄橙	還元	底部回転へう割り、内面のロクロ整形痕顯著	
第39区 113 PL 24	113	須恵器 高杯	1	遺構外	-	-	-	口縁部片	白色粒子を含む	灰褐	還元	ロクロ整形、底部回転へう割り、体内面に自然輪	
第39区 114 PL 24	114	白付盤	2	遺構外	-	(5.0)	-	脚部片	はく	褐灰	還元	長方形遺かし	
第39区 115 PL 24	115	土師器 杯	1	遺構外	11.8	9.底	5.2	-	完形	細砂粒を含む	褐	酸化	口縁部横ナデ、底部へう割り、内面放射状ミガキ
第39区 116 PL 25	116	須恵器 ミニチュア 杯	2	遺構外	(7.4)	4.0	2.4	-	3/4	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	ロクロ整形(右回転)、底部回転赤切り無調整
第39区 117 PL 25	117	須恵器 杯	1	遺構外	(12.4)	6.4	4.0	-	3/4	砂粒を含む	褐	灰黄	ロクロ整形(右回転)、底部回転赤切り無調整
第39区 118 PL 25	118	須恵器 杯	1	遺構外	-	7.2	-	底部	砂粒を含む	灰黄	還元	ロクロ整形(右回転)、底部回転赤切り無調整	
第39区 119 PL 25	119	須恵器 碗	2	遺構外	-	7.3	(0.5)	底部片	白色粒子を含む	褐灰	還元	ロクロ整形(右回転)、底部回転赤切り後付付高台、高台剥落	
第39区 120 PL 25	120	須恵器 杯	2	遺構外	-	(5.6)	-	底部片	砂粒を含む	灰黄	灰黄	ロクロ整形(右回転)、底部回転赤切り無調整	
第39区 121 PL 25	121	灰輪陶 器碗	1	遺構外	(14.6)	-	-	口縁部片	精良	灰白	還元	ロクロ整形、輪軸ハケ掛け、光ヶ丘1号器式	
第39区 122 PL 25	122	灰輪陶 器皿	1	遺構外	-	(6.2)	-	底部片	精良	灰白	還元	ロクロ整形、輪軸技法不明、見込み部に重々焼き痕	
第39区 123 PL 25	123	土師器 壺	2	遺構外	(16.8)	-	(5.2)	口縁部片	砂粒を多く含む	にぶい橙	酸化	口縁部横ナデ後、胴部縦位へう割り、口縁部に接合痕	
第39区 124 PL 25	124	壺	1	遺構外	-	-	-	口縁部片	砂粒を多く含む	明黄褐	酸化	口縁部下に横位の糸痕様の痕跡 時期不明	
第39区 125 PL 25	125	杯か	1	遺構外	-	-	-	口縁部片	細砂粒を含む	にぶい黄褐	酸化	内外面赤彩	

図番	器形	区	遺構名	口径 (長) cm	底径 (幅) cm	器高 (厚) cm	重量g	部位	胎土の特徴	色調	焼成	器形及び整形の特徴
第39図 130 PL.25	特録車 か	1	遺構外	3.5	3.6	2.2	21.6	完形	砂粒を含む	灰白	酸化	器表荒れ
第39図 127 PL.25	土師器 甕	1	遺構外	(19.8)	-	-	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 緑	酸化	武蔵型、口縁部横ナデ、外面に接合痕
第39図 128 PL.25	内耳鍋	1	遺構外	-	6.2	-	-	底部	砂粒を含む	外=黒灰 内=橙	還元	内外面ナデ
第39図 129 PL.25	円筒埴 輪	1	遺構外	-	-	厚1.3	-	口縁部から胴 部片	チャート、雲母、 白色鉱物粒含む	橙	酸化	外面縦ハケ、内面ナデ、突帯は断面台形

## 陶磁器

図番	種別	器形	名 遺構番号	4形・成調整等	備考
第39図130	白磁	皿	遺構外	中国。口先の皿口縁部	13世紀後半から14世紀前半
第39図131	陶器	直縁大皿?	遺構外	灰釉。古瀬戸後期?	132と同一個体か
第39図132	陶器	直縁大皿?	遺構外	灰釉。古瀬戸後期?	131と同一個体か
第39図133	青白磁	梅瓶	遺構外	中国。体部上位片。獅状工具で施文。	13世紀から14世紀前半
第39図134	軟質陶器	片口鉢	遺構外	口縁部片。	14世紀後半
第39図135	焼結陶器	甕?	遺構外	常滑。肩部片。	中世
第39図136		内耳鍋	遺構外	口縁部短く内腕。口縁部厚。	14世紀後半から15世紀初?

Ⅳ 検出された遺構と遺物

石器

図番	器種	形態	出土位置	石材	長さ	幅	高さ	残存	調整加工・形状等
40図1住1	打製石斧	短冊	1号住	緑片	95	4.7	52.9	刃部欠	板状割片を用い、側縁を弱く抉る。
40図1住2	打製石斧	短冊	1号住	ホル	7.3	5.8	99.7	上半欠	風化により磨耗等は不明。刃部内生の可能性あり。
40図1住3	打製石斧	短冊	1号住	黒頁	100	4.2	52.4	完形	側縁刃部とも磨耗。刃部は再生使用。
40図1住4	多孔石		1号住	粗安	221	137	2435.8	完形	表裏面とも孔4、裏面にアバタ状の打痕1。
40図1住5	石核		1号住	黒頁	11.7	9.3	568.6	完形	大形の盤状石核を用い、幅広割片を求心的に剥離。
40図1住6	磨石	円盤	1号住	粗安	108	7.4	649.7	完形	中央付近に打痕あり、表裏面とも磨耗。
40図1住7	多孔石		1号住	粗安	300	21.0	14800	完形	背面側4・右側面5・左側面2の孔を穿つ。
40図1住8	磨石	楕円	1号住	粗安	82	8.2	467	完形	表裏面に磨耗痕あり。
41図2住1	凹石		2号住	粗安	164	11.2	2339	完形	表面にアバタ状の打痕あり、表裏面に磨耗痕あり。
41図2住2 PL20	凹石	楕円	2号住	粗安	92	7.6	316.7	完形	中心からやや外れて集合打痕1が表裏面にある。
42図1土1 PL20	削器		1号土	珪頁	5.4	10.6	100.2	完形	横長割片の端部に浅い剥離を施す。
42図1 PL20	打製石斧	短冊	S-8	凝砂	7.3	3.9	63.2	下半欠	側縁に敲打・磨耗痕あり。使用時欠損?
42図2 PL20	打製石斧	分測	D-13	粗安	9.5	7.3	163.1	完形	側縁刃部とも著しく磨耗。下縁刃部は再生状態。
42図3 PL20	打製石斧	分測	S-9	粗安	13.3	7.4	187.3	刃部欠	礫面を大きく残す幅広割片素材。側縁に捲縛痕。
42図4 PL20	打製石斧	分測	O-8	砂岩	11.2	7.5	196.0	上半欠	側縁に磨耗痕あり。刃部磨耗は未確認。
42図5 PL20	打製石斧	分測	表採	粗安	11.6	6.3	157.7	完形	側縁に捲縛痕、刃部磨耗痕あり。再生後使用。
42図6 PL20	打製石斧	分測	1トレ	硬泥	10.6	6.2	161.4	刃部破	側縁に捲縛痕、刃部磨耗痕あり。再生時欠損、変染?
42図7 PL20	磨製石斧		M-8	変玄	5.0	2.5	20	完形	頭部周辺に敲打痕が残る。刃部は刃こぼれ。
42図8 PL20	石鏃	不明	Sトレ	黒曜	17	1.2	0.5	下半欠	表裏面とも押圧剥離だが、右側縁のみ急鋭度調整。
42図9 PL20	楔形石器		J-6	黒曜	2.5	2.0	3.6	完形	下端側表裏面に両極剥離痕あり。
42図10 PL20	削器		L-7	黒頁	8.7	5.0	75.5	完形	縦長割片の裏面側側縁に粗い加工を施す。
42図11 PL20	削器		R-8	黒頁	9.0	6.7	105.1	完形	幅広割片の両側縁側面に粗い加工を施す。
42図12 PL20	削器		不明	黒頁	8.8	4.8	72.7	完形	両側縁に錯向様に粗く剥離を加え、刃部を作出する。
42図13 PL20	石核		3トレ	チャ	14.8	5.7	63.6	完形	小形扁平礫を用い、表裏面に小形割片を剥離。
42図14 PL20	石核		C-13	珪頁	4.5	9.2	91.5	完形	厚い不定形割片を石核素材に、小形割片を剥離。
42図15 PL20	敲石		E-13	雲片	15.5	5.0	408	崩部欠	小口部に打痕あり。
43図16 PL20	磨石		D-13	粗安	135	10.8	690.4	完形	表面にアバタ状の打痕あり。表裏面に磨耗痕あり。
43図17 PL20	磨石	楕球	不明	粗安	7.8	6.8	357.3	完形	背面側中央に敲打痕あり、全面磨耗。
43図18 PL20	凹石	楕円	J-7	粗安	175	13.0	1544.9	完形	背面側にロート状の凹部1、アバタ状の凹部1あり。
43図19 PL20	凹石	楕円	S-9	粗安	135	11.5	1530	完形	表面側にロート状の小さな凹部2、表裏面に磨耗痕。
43図20 PL20	凹石	楕円	C-13	粗安	10.2	8.8	431.7	完形	表裏面とも中央付近にロート状の凹部2を有する。
43図21 PL20	凹石	楕円	D-13	粗安	12	5.7	820.7	完形	表裏面にアバタ状の凹部2、磨耗痕あり。
43図22 PL20	凹石	楕円	E-12	粗安	9.7	11.0	693.1	上半欠	表裏面にアバタ状の打痕、磨耗痕あり。
43図23 PL20	凹石	楕円	2トレ	粗安	9.2	7.9	426.4	完形	表裏面とも中央付近にアバタ状の凹部1がある。
43図24 PL20	スタンプ		E-12	粗安	11.6	5.6	347.1	完形	底面角75°を測る。打点個が若干磨耗する程度。
43図25 PL20	多孔石		4トレ	粗安	18.1	16.9	5007.3	完形	背面側・右側面・裏面に孔を穿つ。
43図26 PL20	垂飾		K-8	軽石	4.9	4.0	6.6	完形	径6mmの孔を穿つ。
43図27 PL20	石棒	表採	雲片	14.6	6.0	4004.3	基部破	長径12cm・短径8cmを測る。円柱状に整形。焼熟。	
43図28 PL20	砥石		QR-9	凝砂	5.6	3.3	30.5	破片	背面側に若干の磨耗痕あり。

黒色頁岩:黒頁 硬質泥岩:硬泥 珪頁頁岩:珪頁 ホルンフェルス:ホル 黒曜石:黒曜 チャート:チャ 粗粒珪石安山岩:粗安 細粒珪石安山岩:粗安  
粗安 凝灰質砂岩:凝砂 緑色片岩:緑片  
変玄武岩:変玄 雲母石英片岩:雲片

# 源 六 堰 遺 跡

## V 検出された遺構と遺物

### 1号住居跡

A区南西部に位置し000～080・555の範囲にある。住居跡の壁高は、9cm～10cmを測り、南部では確認できなかった。北東部の床面を確認したのみであり、大半は調査区域外に延びる。

このため規模と、形態は把握できなかったが、北東部から方形を呈するものと思われる。床面はほぼ平坦をなし、炉は確認できなかった。

床面からは小穴が5基確認され、P1～P3は柱穴の可能性が。各々の形態規模はP1は円形を呈し、径43cm、深さ50cm、P2は円形を呈し、径36cm、深さ45cm、P3は円形を呈し、径33cm、深さ50cm、P4は円形を呈し、径30cm、深さ38cm、P5は円形を呈し、径30cm、深さ20cmを測る。

その他住居跡に伴う施設は確認できなかった。

出土遺物は高坏の杯部片が南東隅、床面直上から出土している。古墳時代前期の土器である。

### 2号住居跡

A区南西部に位置し、085～080・570・565の範囲にある。住居跡の南端部は調査区域外に延びるため、調査できなかった。

平面形態は長方形で隅丸をなす。規模は6m×5.03mを測り、壁高は5～12cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、住居跡中央部に炉を確認した。規模は70cm×60cmで焼土の厚さ約20cm、深いところでは40cmを測る。

床面には柱穴と思われる小穴が9基確認され、P1・P4が主柱穴の可能性が。各々の形態、規模はP1は楕円形を呈し、75cm×60cm、深さ40cm、P2は円形を呈し、径70cm、深さ50cmを測る、P3は円形を呈し、径80cm、深さ48cmを測る、P4は円形を呈し、径60cm、深さ80cmを測る。他の5基のピットのP5～P9のうちP5は楕円形を呈し、75cm×50cm、深さ40cm、P6はほりこみ面は径60cmの円形を呈するが、底面は約35cm×35cmの方形を呈し、深さ40cmを測る。P7は円形を呈し、径55cm、深さ

25cmを測る。P8は円形を呈し、径45cm、深さ25cm、P9は楕円形を呈し、50cm×40cm、深さ30cmを測る。P1からP4が主柱穴と考えられるが、P4はやや斜めのほりこみを持つ。尚、P6は底面の形状から柱穴ではなく、貯蔵穴の可能性が指摘できる。遺物は古墳時代前期の土師器が出土しており、東海系S字状口縁台付甕と南関東系単口縁台付甕が認められる。また柱穴P2内から礎板が検出されているが、形状や大きさから柱穴の周囲から差し込まれた程度の補強用の材と考えられる。樹種はコナラ節である。

### 1号掘立柱建物跡

B区中央部から掘立柱建物跡が確認された。主軸方位はN70°Eで出土遺物等はない。

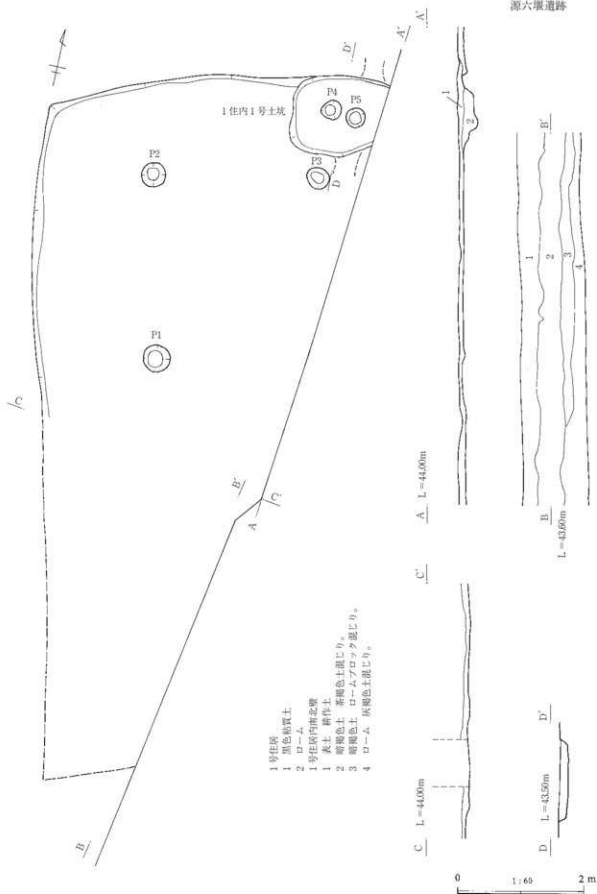
桁長は3.3m、柱間はP1・P6間は1.6m、P5・P6間は1.7mを測る。梁長は3mと同間隔を守っている。小穴の形態規模はP1は楕円形を呈し、50cm×38cm、深さ31cm、P2は円形を呈し、径36cm、深さ22cm、P3は不定形で、52×39cm、深さ19cm、P4は円形を呈し、35×33cm、深さ11cm、P5は楕円形で、43×30cm、深さ24cm、P6は円形を呈し、34×33cm、深さ9cmである。

出土遺物は確認できないため、時期は不明である。

### 土坑群

源六堰遺跡では147基の土坑が確認されている。このうち28基から縄文時代後期土器が出土し、遺跡内に広く確認される。出土土器が無い土坑は覆土が基本土層の3・4層が確認され縄文時代と考えられる。遺物の出土状況はすべて覆土からの出土である。7号土坑からは須恵器杯底部を出土した。

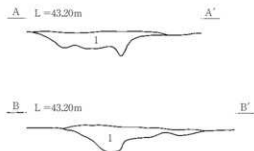
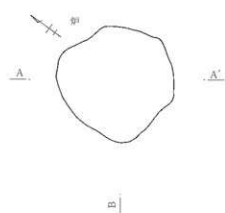
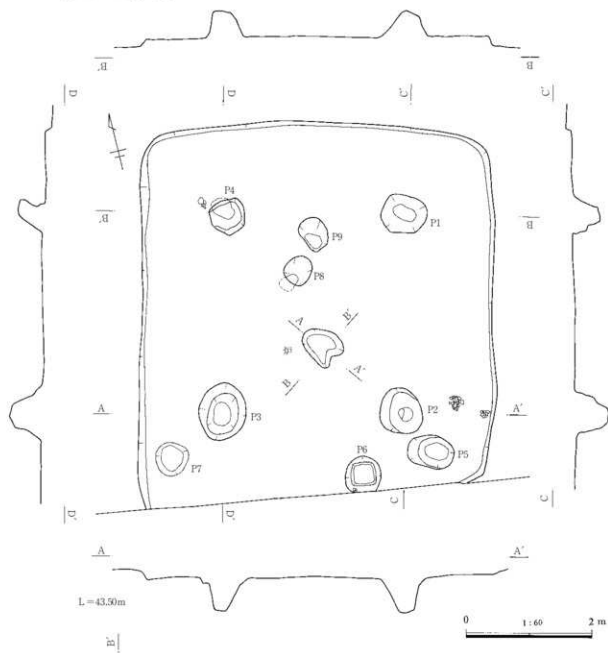
形態、位置、計測値は土坑一覧表に記載してある。



第47図 1号住居跡



V 検出された遺構と遺物

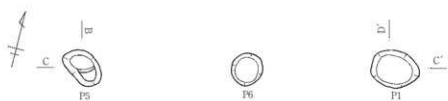


2号住居跡

1 暗褐色土 ロームブロック混じり。表面に微量の焼土あり。

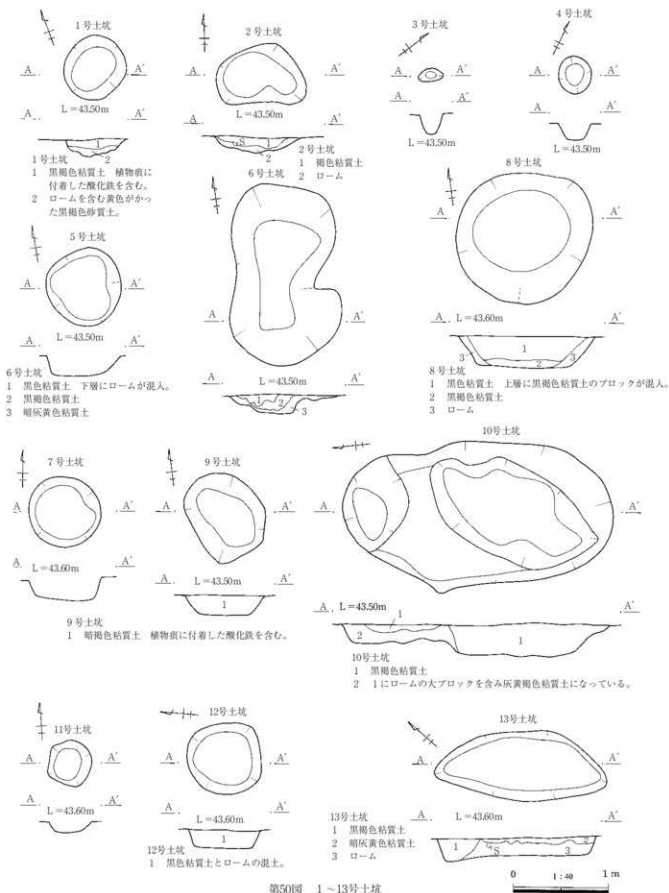
第48図 2号住居跡

0 1:20 50cm



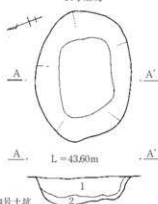
第49圖 1号掘立柱建物跡

V 検出された遺構と遺物



第50図 1~13号土坑

14号土坑



14号土坑

- 1 黒褐色粘質土  
2 1に崩壊したロームのブロックを含む。

15号土坑



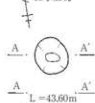
16号土坑



17号土坑



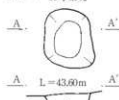
18号土坑



18号土坑

- 1 黒色粘質土  
2 1とロームとの混土。

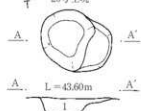
19号土坑



19号土坑

- 1 黒褐色土 ローム混じり。

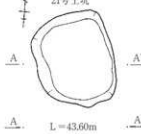
20号土坑



20号土坑

- 1 黒褐色土 砂混じり。

21号土坑



21号土坑

- 1 黒褐色土 砂混じり。

23号土坑



23号土坑

- 1 暗褐色土 ローム混じり。

22号土坑



22号土坑

- 1 暗褐色土 砂混じり。  
2 暗褐色土 ローム混じり。

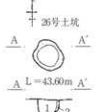
24・25号土坑



24・25号土坑

- 1 暗褐色土  
2 暗褐色土 黄褐色土(粘性)混じり。  
3 暗褐色土 ローム混じり。

26号土坑



26号土坑

- 1 暗褐色土 砂混じり。  
2 ローム・暗褐色土混じり。

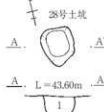
27号土坑



27号土坑

- 1 暗褐色土 黒色土混じり。  
2 ローム 黒褐色土混じり。  
3 ローム・炭化物(植物)混じり。

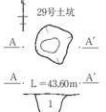
28号土坑



28号土坑

- 1 黒褐色土

29号土坑



29号土坑

- 1 黒褐色土

30号土坑



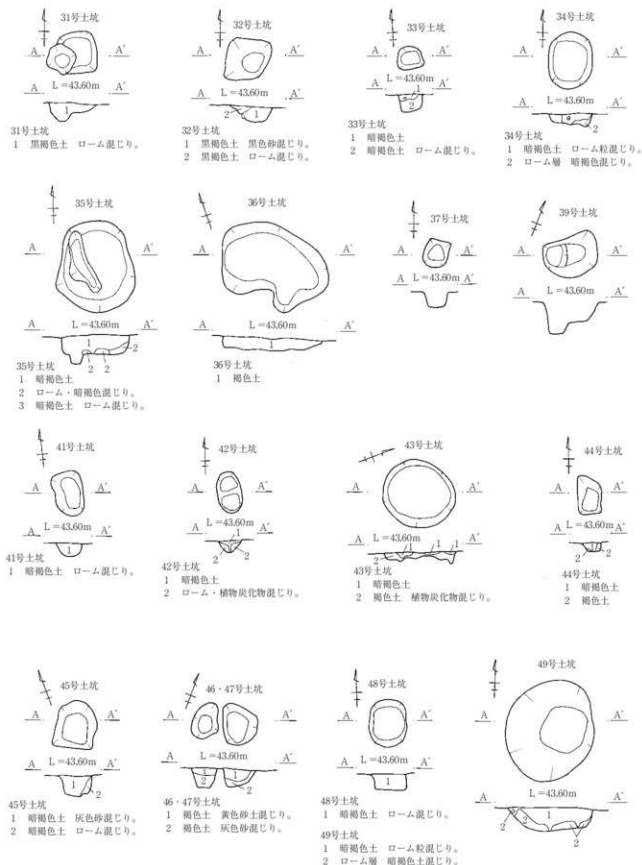
30号土坑

- 1 黒褐色土 黒色砂混じり。

第51図 14~30号土坑

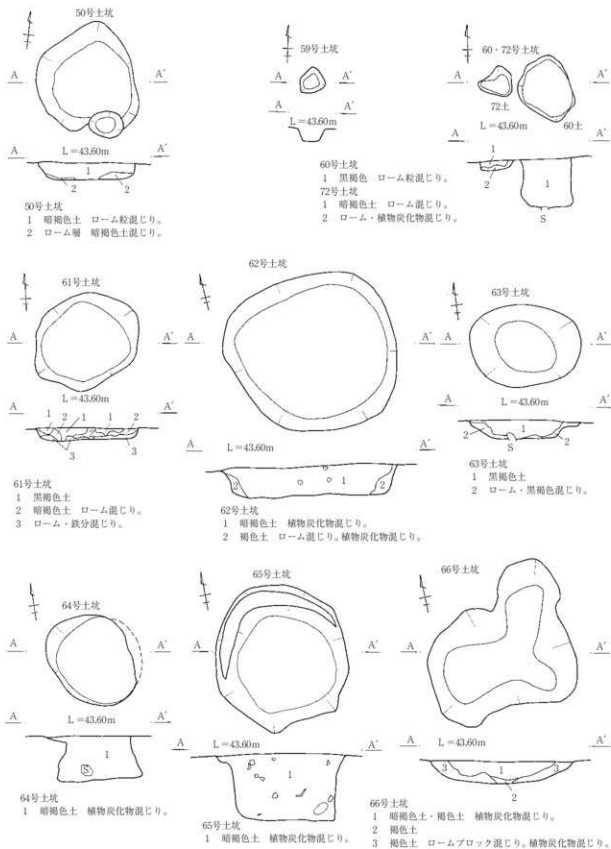


V 検出された遺構と遺物



第52図 31～37・39・41～49号土坑

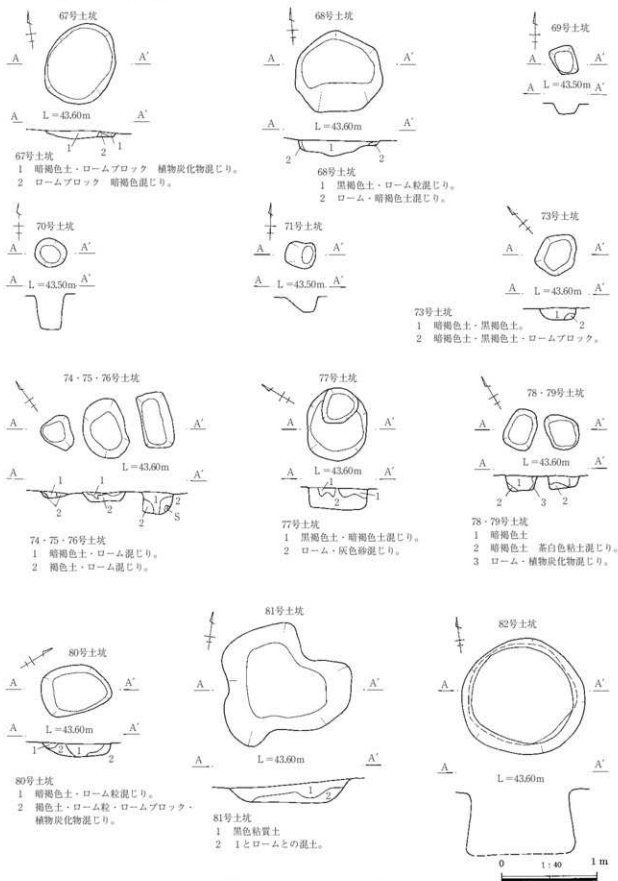
0 1:40 1m



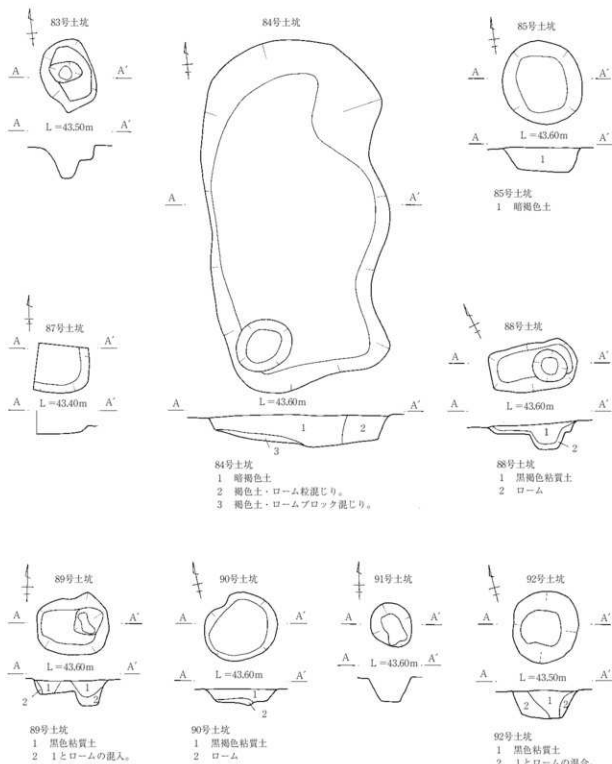
第53図 50・59～66・72号土坑

0 1:40 1m

V 検出された遺構と遺物



第54図 67~71・73~82号土坑

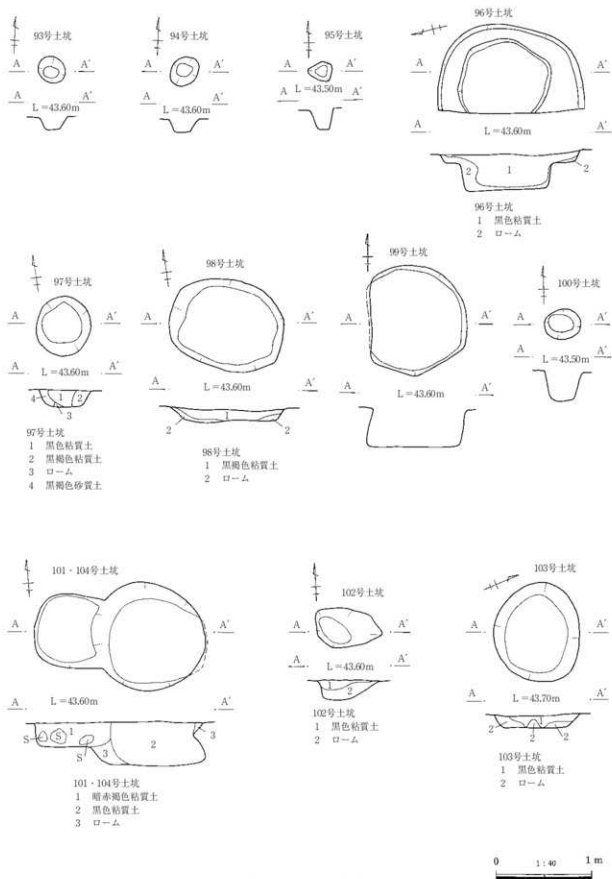


0 1:40 1m

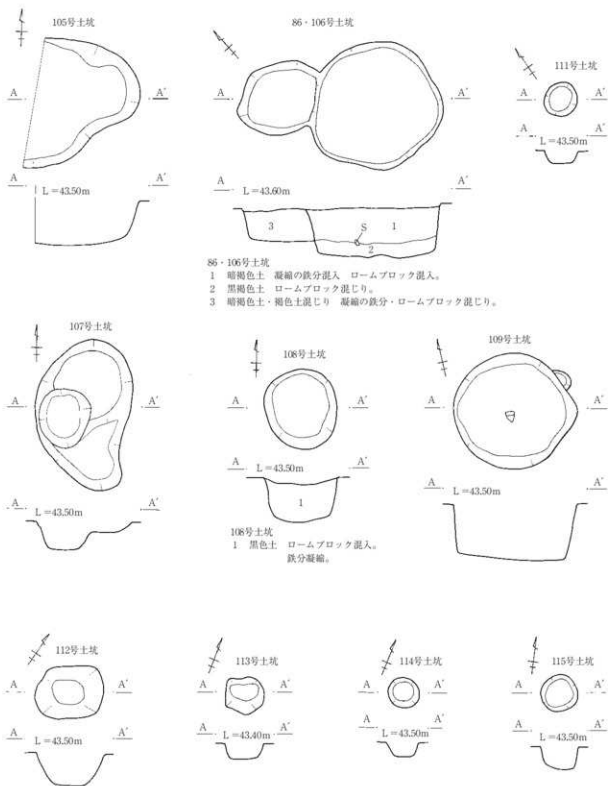
第55図 83～85号・87～92号土坑



V 検出された遺構と遺物

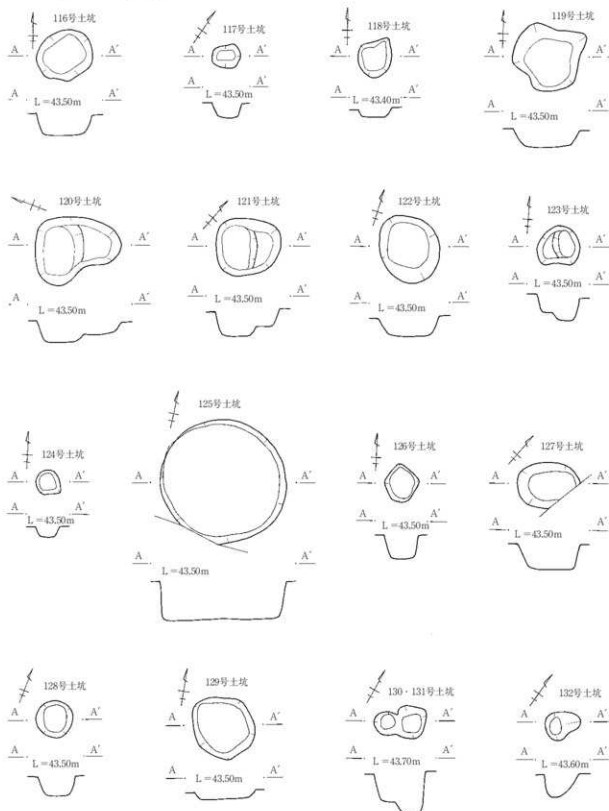


第56図 93～103号土坑



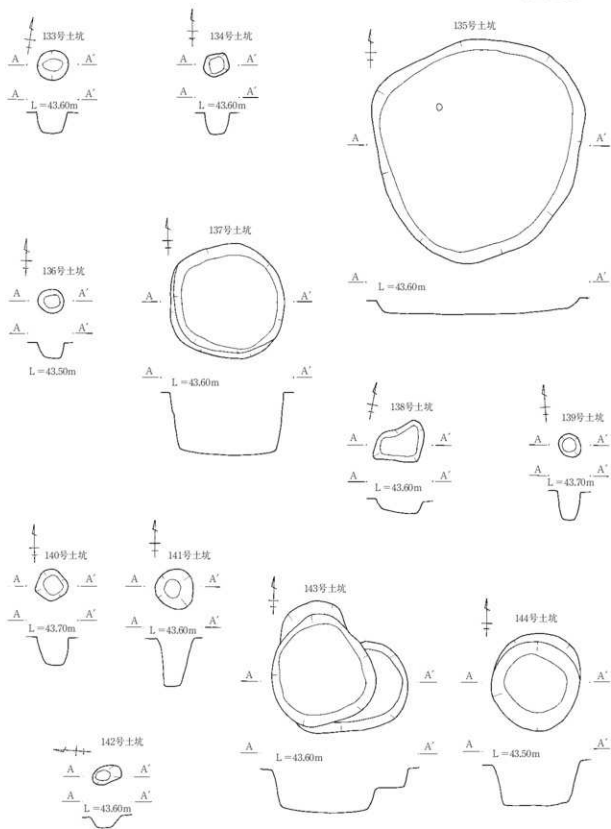
第57図 86・105～109・111～115号土坑

V 検出された遺構と遺物



第58図 116～132号土坑





第59图 133~144号土坑

0 1:40 1m



第4表 土坑・溝計測表

番号	長径	短径	深さ	形状	位置	遺物・備考
土坑1	67	62	18	円形	095-570	
土坑2	95	60	16	楕円形	095-570	
土坑3	25	14	21	楕円形	095-575	
土坑4	39	39	18	円形	095-575	
土坑5	78	77	21	円形	095-575	
土坑6	192	83	19	楕円形	100-560	
土坑7	76	75	24	円形	100-555	
土坑8	150	140	33	円形	100-565	称名寺1式土器
土坑9	95	74	20	楕円形	100-570	
土坑10	285	152	34	楕円形	105-570	
土坑11	46	44	12	円形	110-565	
土坑12	77	75	19	円形	110-565	
土坑13	182	73	24	楕円形	110-565	
土坑14	134	102	31	楕円形	110-565	
土坑15	26	25	13	円形	105-555	
土坑16	30	29	32	円形	105-555	
土坑17	25	23	19	円形	105-555	
土坑18	38	34	31	楕円形	105-555	
土坑19	62	51	28	隅丸方形	155-545	
土坑20	78	61	19	楕円形	155-545	
土坑21	102	82	23	隅丸方形	160-545	
土坑22	174	84	10	楕円形	160-545	
土坑23	31	30	12	円形	160-545	
土坑24	104	78	31	楕円形	160-545	
土坑25	45	29	24	隅丸長方形	160-545	
土坑26	34	28	24	円形	160-545	
土坑27	49	41	26	楕円形	160-545	
土坑28	40	34	25	楕円形	160-545	
土坑29	34	34	26	方形	160-545	
土坑30	20	18	18	方形	160-545	
土坑31	54	43	19	不定形	160-545	
土坑32	45	42	16	方形	160-550	称名寺1式土器
土坑33	26	24	20	円形	165-550	
土坑34	60	45	13	楕円形	160-550	
土坑35	96	75	29	楕円形	165-550	
土坑36	120	65	12	楕円形	165-550	
土坑37	29	25	16	方形	165-550	
土坑38	36	36	22	方形	170-550	1号掘立P2に変更
土坑39	58	40	34	楕円形	170-550	
土坑40	50	38	31	楕円形	170-550	1号掘立P1に変更
土坑41	47	28	14	楕円形	175-555	
土坑42	44	26	12	楕円形	175-550	
土坑43	76	70	12	円形	175-550	
土坑44	41	25	9	楕円形	175-550	
土坑45	51	42	22	隅丸方形	180-550	称名寺1式土器
土坑46	40	26	21	楕円形	180-550	
土坑47	45	36	20	楕円形	180-550	
土坑48	50	38	18	楕円形	180-550	
土坑49	110	94	24	楕円形	180-550	
土坑50	123	101	17	隅丸方形	180-550	
土坑51						
土坑52						
土坑53						
土坑54						
土坑55	52	39	19	楕円形	170-550	1号掘立P3に変更
土坑56	34	33	9	円形	170-555	1号掘立P6に変更
土坑57	43	30	24	楕円形	170-555	1号掘立P5に変更

V 検出された遺構と遺物

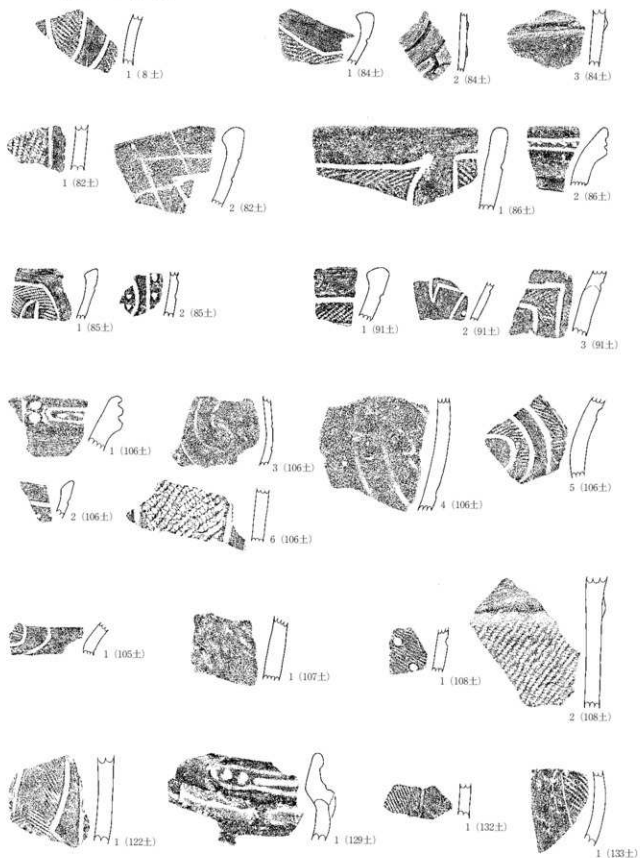
番号	長径	短径	深さ	形状	位置	遺物・備考
土坑58	35	33	11	円形	165-555	1号掘立P4に変更
土坑59	27	23	13	円形	165-555	
土坑60	70	55	50	楕円形	165-555	
土坑61	122	93	13	楕円形	165-555	
土坑62	182	165	32	円形	165-560	堀之内1式土器・加曾利3・4式土器
土坑63	117	87	19	楕円形	160-560	
土坑64	107	85	45	円形	160-555	称名寺Ⅱ式土器
土坑65	150	143	67	円形	160-550	称名寺Ⅱ式土器・堀之内1式土器
土坑66	192	144	24	楕円形	175-555	
土坑67	88	70	9	楕円形	175-555	
土坑68	87	85	16	円形	180-555	堀之内1式土器
土坑69	28	22	10	隅丸長方形	170-555	堀之内1式土器
土坑70	33	30	37	円形	170-555	
土坑71	32	17	17	隅丸長方形	165-555	
土坑72	37	28	10	楕円形	165-555	
土坑73	47	39	14	楕円形	180-555	
土坑74	36	30	6	楕円形	180-555	
土坑75	64	45	10	楕円形	180-555	
土坑76	59	31	23	隅丸長方形	180-555	
土坑77	76	62	22	楕円形	180-555	
土坑78	42	30	16	楕円形	180-555	堀之内1式土器
土坑79	37	33	15	楕円形	180-555	
土坑80	73	51	14	楕円形	180-555	
土坑81	129	110	24	楕円形	120-565	
土坑82	129	122	67	円形	120-565	後期前半土器
土坑83	72	54	35	楕円形	125-565	
土坑84	360	179	33	隅丸長方形	125-560	称名寺Ⅰ式土器・堀之内1式土器・加曾利E4式土器
土坑85	89	83	26	円形	115-555	称名寺Ⅰ・Ⅱ式土器
土坑86	79	78	36	円形	125-560	称名寺Ⅰ式土器・堀之内1式土器
土坑87	53	50	10		130-565	
土坑88	93	50	28	隅丸長方形	120-565	
土坑89	76	60	28	楕円形	115-565	
土坑90	78	64	18	楕円形	115-565	
土坑91	50	42	25	楕円形	115-565	称名寺Ⅰ・Ⅱ式土器
土坑92	76	69	30	円形	115-565	
土坑93	31	27	13	円形	110-555	
土坑94	33	28	14	円形	115-565	
土坑95	25	19	22	楕円形	120-565	
土坑96	155	93	40		120-565	
土坑97	62	57	18	円形	115-565	
土坑98	120	95	17	楕円形	115-570	
土坑99	117	100	41	円形	120-560	
土坑100	39	32	32	楕円形	115-570	
土坑101	79	60	25	円形	120-565	
土坑102	69	42	20	楕円形	120-560	
土坑103	104	91	15	楕円形	115-560	
土坑104	120	114	45	円形	120-565	
土坑105	139	110	47		125-565	称名寺Ⅰ式土器
土坑106	136	135	56	円形	125-560	称名寺Ⅰ・Ⅱ式土器
土坑107	159	102	30	楕円形	125-560	堀之内1式土器
土坑108	84	76	47	円形	125-565	堀之内1式土器・加曾利E4式土器
土坑109	132	122	60	円形	125-560	
土坑110						
土坑111	35	35	13	円形	080-560	
土坑112	73	55	34	隅丸方形	080-560	
土坑113	40	38	16	円形	080-560	
土坑114	34	32	14	円形	080-560	
土坑115	39	38	24	円形	085-565	

番号	長径	短径	深さ	形状	位置	遺物・備考
土坑116	60	50	23	円形	085-555	
土坑117	30	23	16	楕円形	085-565	
土坑118	37	35	10	楕円形	080-560	
土坑119	75	75	18	円形	080-560	
土坑120	90	60	22	円形	080-560	
土坑121	69	60	27	円形	085-560	
土坑122	76	63	20	円形	080-560	称名寺I式土器
土坑123	45	40	25	円形	085-565	
土坑124	25	25	10	円形	085-565	
土坑125	134	131	39	円形	080-565	
土坑126	41	35	24	楕円形	085-565	
土坑127	66	49	27	楕円形	080-555	
土坑128	39	39	22	円形	085-570	
土坑129	67	62	9	円形	090-560	堀之内I式土器
土坑130	25	25	30	円形	150-555	
土坑131	35	30	43	円形	150-555	
土坑132	37	30	24	楕円形	150-560	称名寺I式土器
土坑133	32	31	22	円形	140-555	加曾利E4式土器
土坑134	26	23	22	円形	140-555	
土坑135	236	216	16	円形	145-555	
土坑136	28	25	16	円形	135-555	
土坑137	122	120	67	円形	135-555	称名寺I・II式土器
土坑138	50	34	15	楕円形	135-555	
土坑139	24	22	30	円形	145-550	
土坑140	32	31	30	円形	145-550	
土坑141	43	40	50	円形	145-550	
土坑142	32	17	12	楕円形	135-560	
土坑143	143	139	47	楕円形	140-560	加曾利E4式土器
土坑144	104	91	46	円形	140-565	
土坑145	92	80	51	円形	135-560	加曾利E4式土器
土坑146	93	82	49	円形	135-565	後期加曾利E系土器
土坑147	85	75	62	円形	135-560	
土坑148	44	40	20	楕円形	135-560	加曾利E4式土器
土坑149	37	28	19	楕円形	135-555	
土坑150	53	36	20	楕円形	130-560	
土坑151						
土坑152						
土坑153	50	42	24	円形	130-555	
土坑154	42	36	24	円形	135-560	
土坑155	25	23	14	円形	135-560	
土坑156	161	134	14	円形	130-550	
土坑157	117	115	43	円形	135-560	
土坑158	120	112	66	円形	130-560	称名寺I式土器・後期加曾利E系土器

番号	幅	深さ	位置
1号溝	12	4	110-570
2号溝	171	20	115-570

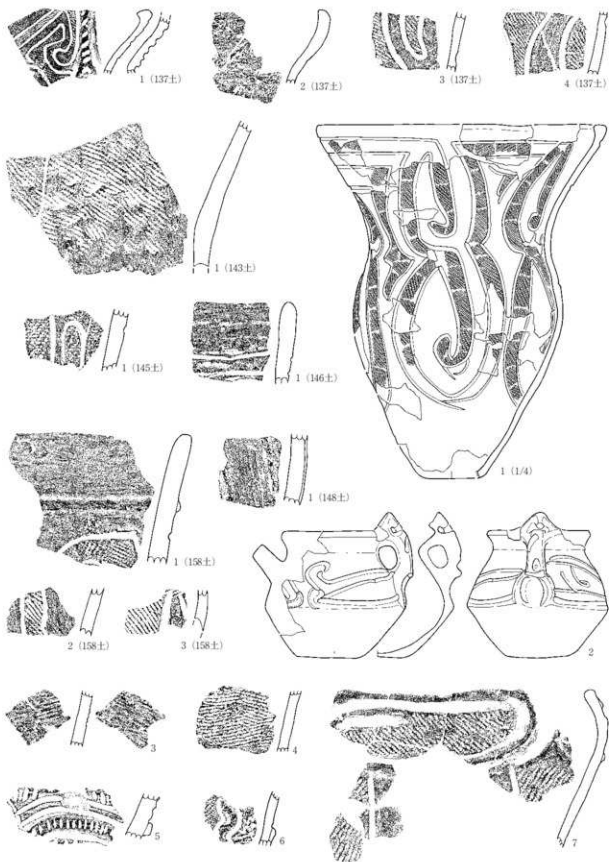


V 検出された遺構と遺物



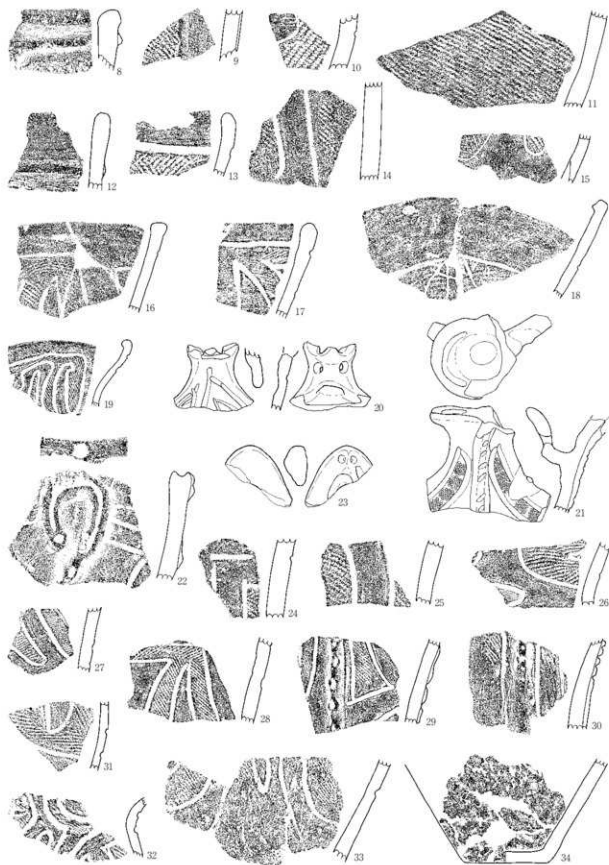
第61図 8・82・84~86・91・105~108・122・129・132・133号土坑出土遺物

0 1:3 10cm

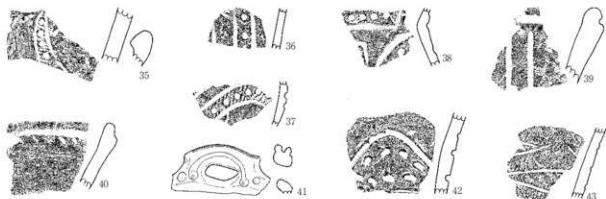


第62図 137・143・145・146・148・158号土坑、遺構外1～7(1)出土遺物

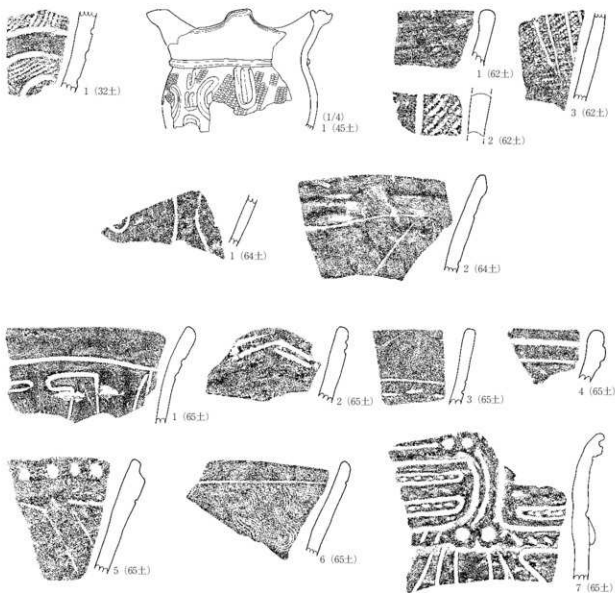
V 検出された遺構と遺物



第63図 遺構外出土遺物 8～34 (2)



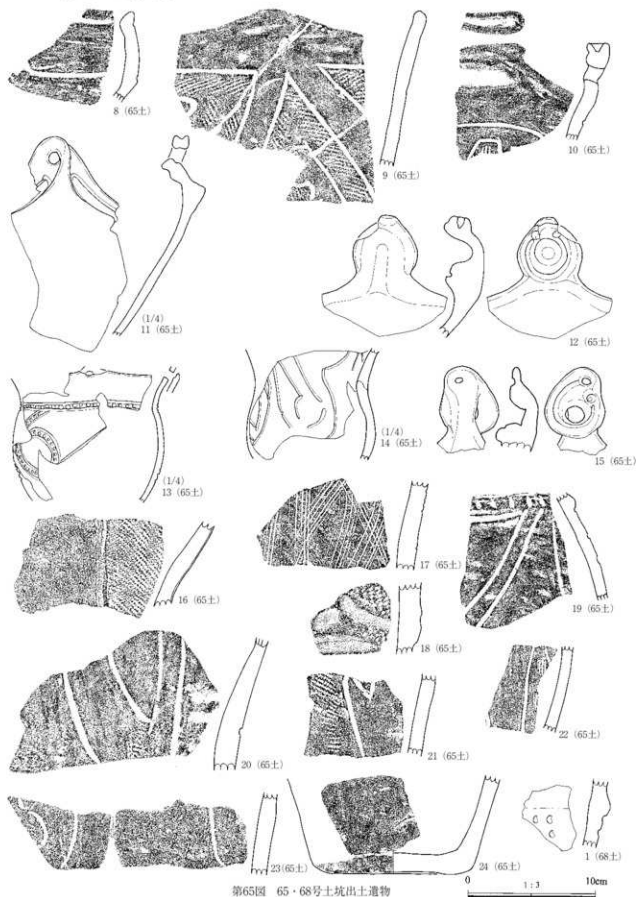
B区



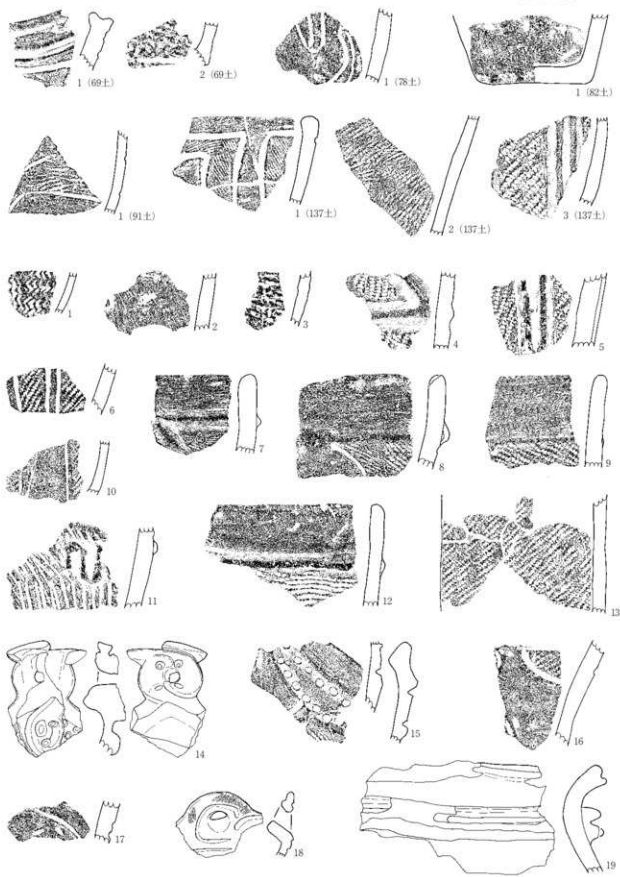
第64図 32・45・62・64・65号土坑、遺構外35-43(3)出土遺物

0 1:3 10cm

V 検出された遺構と遺物



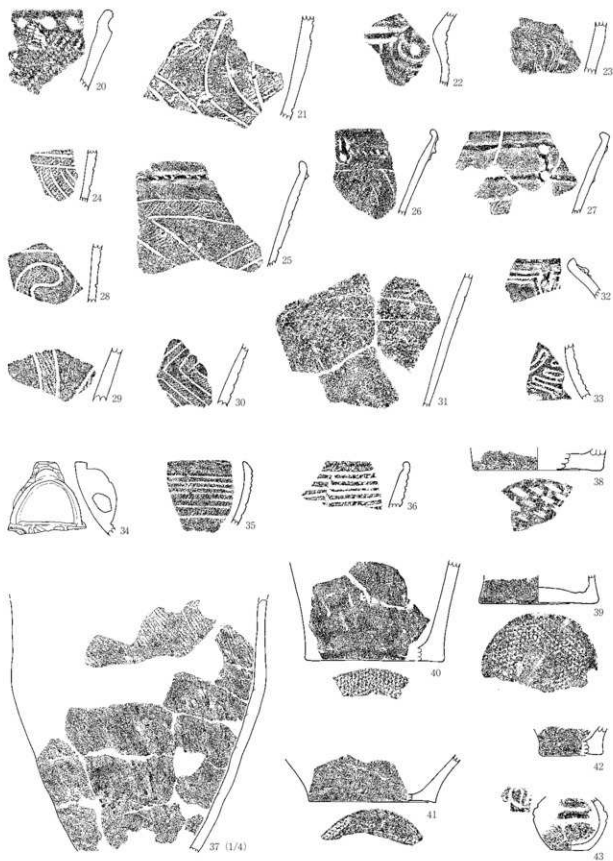
第65図 65・68号土坑出土遺物



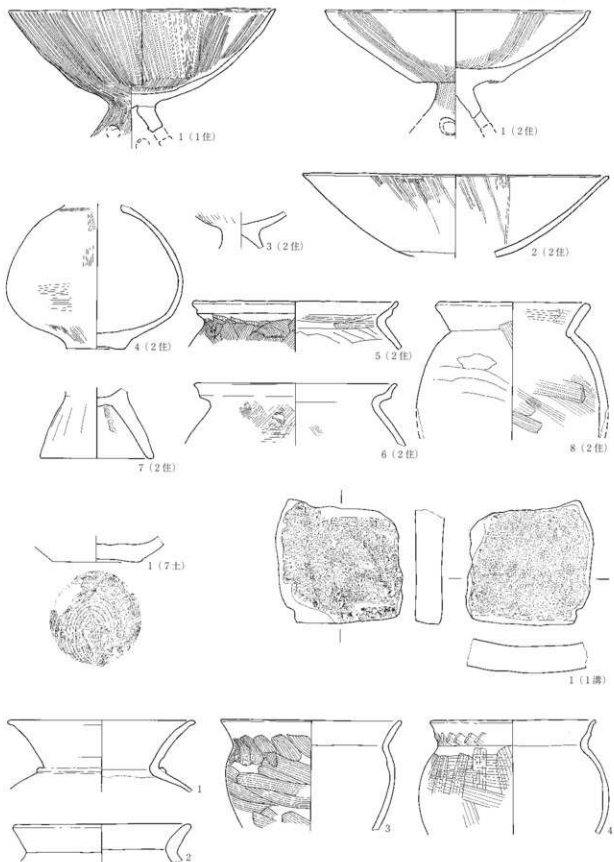
第66図 69・78・82・91・137号土坑、遺構外1~19(4)出土遺物



V 検出された遺構と遺物



第67図 遺構外出土遺物20~43 (5)

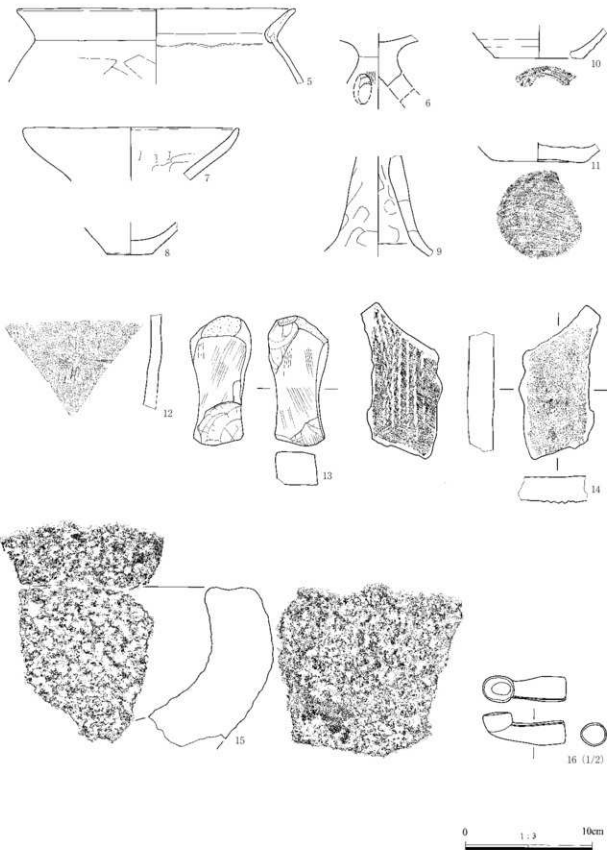


第68図 1・2号住居跡、7号土坑、1号溝、遺構外1～4 (6) 出土遺物

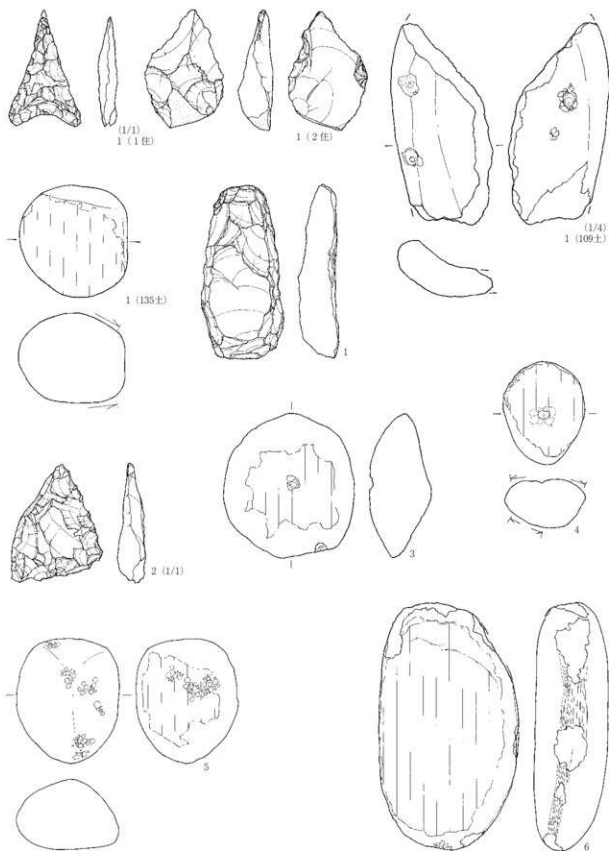
0 1:3 10cm



V 検出された遺構と遺物



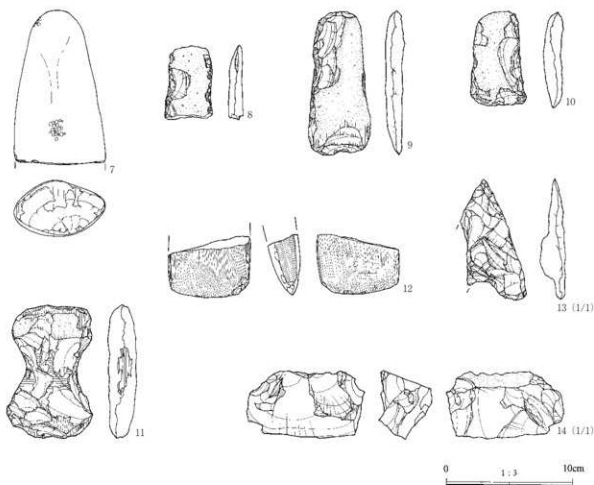
第69図 遺構外出土遺物 5～16 (7)



第70図 1・2号住居跡、109・135号土坑、遺構外1～6 (1) 出土石器

0 1:3 10cm

V 検出された遺構と遺物



第71図 遺構外出土石器7～14(2)

包含層出土の石器

総計83点(剥片系石器14点、磨石等の礫石器7点、剥片類51点、礫・礫片類11点)が出土した。縄文期遺構から出土した石器は2点(109・135号土坑)と少なく、大半は包含層(3・4層)から出土した。石器類はA・B区とも等量が出土しているが、剥片類や礫片類に限れば、石田川の低地が入り込んだB区の出土量が多い。出土した主な石器には、石鏃3・磨製石斧1・打製石斧7・加工痕ある剥片1・使用痕ある剥片1等の剥片系石器があるほか、凹石2・磨石3・石皿1・スタンプ形石器1の礫石器類があり、摺糸紋期や早期末～前期初頭、中・後期に特徴的な石器類が出土しており、各期の石器が混在していたというべきである。以下、整理過程で気付いた点について、その概要を記す。

石鏃については、製作途上の破損例2点(70図2)、完形例1点(70図1住1)が出土した。資料数が少ないのは致命的だが、在地石材としてのチャートを用いた石鏃の遺跡内製作を示唆した。これに対し、打製石斧(石材6種)は黒色頁岩を除いて同種剥片類の出土(ホルンフェルス・細粒輝石安山岩が各1点、凝灰質砂岩・珪質頁岩は出土なし)が少なく、遺跡外で製作、それを搬入した可能性が高い。削器類については、剥片類の出土量からみて、遺跡内で剥片生産が行われたようで、打製石斧の製作に結び付いた製作、使用実態は指摘できないようである。石材構成については、チャートやホルンフェルス・黒色頁岩や黒色安山岩を多用、大間々原状地、及び、赤城山南麓の縄文期遺跡の石材構成を併せ持つ。



第72图 2号住居跡柱穴内出土磁板

0 1:3 10cm

V 検出された遺構と遺物

第5表 遺物観察表(源六塚遺跡縄文土器)

図番号	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第61E8土1 PL 48	深鉢	A 8	土坑	覆土				銅部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	帯状沈線によりJ字状モチーフを描き、内部に単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61E82土1 PL 48	深鉢	A 82	土坑	覆土				銅部片	粗砂	にぶい橙	普通	沈線による懸垂紋を施し、単節LR縄紋を縦位充填施紋する。	加E 3
第61E82土2 PL 48	深鉢	A 82	土坑	2包14				口縁片	粗砂	橙	普通	小波状口縁で口唇内面が肥厚。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61E84土1 PL 48	深鉢	A 84	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	波状口縁で口唇内面が肥厚。帯状沈線を施し、単節LR縄紋を充填施紋する。内面研磨。	称I
第61E84土2 PL 48	注口土器	A 84	土坑	覆土				銅部片	細砂	橙	普通	細線襷により弧状モチーフを施す。	類1
第61E84土3 PL 48	深鉢	A 84	土坑	覆土				銅部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	横位隆帯をめぐらす。	加E 4
第61E85土1 PL 48	深鉢	A 85	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口唇内面が肥厚。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61E85土2 PL 48	深鉢	A 85	土坑	覆土				銅部片	細砂	にぶい橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、列点を充填施紋する。	称II
第61E86土1 PL 48	深鉢	A 86	土坑	覆土				口縁片	粗砂	橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61E86土2 PL 48	深鉢	A 86	土坑	覆土				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	口縁下肥厚部に横位2条の沈線を施し、沈線間に刺突を充填施紋する。	類1
第61E91土1 PL 48	深鉢	A 91	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口唇内面が肥厚。帯状沈線を施し、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61E91土2 PL 48	深鉢	A 91	土坑	覆土				銅部片	細砂	にぶい黄橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、列点を充填施紋する。	称II
第61E91土3 PL 48	深鉢	A 91	土坑	覆土				銅部片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61E105土1 PL 48	深鉢	A 105	土坑	覆土				銅部片	粗砂	橙	普通	縦く外反する器形。帯状沈線により弧状モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61E106土1 PL 48	深鉢	A 106	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	口縁下肥厚部に横位楕円状モチーフを描き、刺突を充填施紋する。Sの字貼付紋を貼付。	類1
第61E106土2 PL 48	深鉢	A 106	土坑	覆土				口縁片	細砂	にぶい黄橙	普通	波状口縁で口唇内面が肥厚。帯状沈線を施し、列点を充填施紋する。	称II
第61E106土3 PL 48	深鉢	A 106	土坑	覆土				銅部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	帯状沈線によりJ字状モチーフを描く。	称II

## 源六環遺跡

図番号	器形	区名	遺構種	取上番号	口徑(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考	
第61図106±4 PL.48	深鉢	A	106	土坑	覆土				銅部片	粗砂	にぶい橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61図106±5 PL.48	深鉢	A	106	土坑	覆土				銅部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	縦く外反する器形。帯状沈線により弧状モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61図106±6 PL.48	深鉢	A	106	土坑	覆土				銅部片	粗砂	橙	普通	沈線による懸垂紋を施し、単節RL縄紋を縦位充填施紋する。	加E3
第61図107±1 PL.48	深鉢	A	107	土坑	覆土				銅部片	粗砂	橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描くが、厚減激しい。	称I
第61図108±1 PL.48	深鉢	A	108	土坑	覆土				銅部片	粗砂	橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、内形剣突を施す。	称I
第61図108±2 PL.48	深鉢	A	108	土坑	覆土				銅部片	粗砂	にぶい橙	普通	横位隆帯をめぐらせ、隆帯下に単節RL縄紋を縦位充填施紋する。	加E4
第61図122±1 PL.48	深鉢	A	122	土坑	覆土				銅部片	粗砂	明赤褐	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61図129±1 PL.48	深鉢	A	129	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	波状口縁で口縁部破片が内折する。内折部に横位隅四状モチーフを施し、沈線、剣突を充填施紋する。	称I
第61図132±1 PL.48	深鉢	A	132	土坑	覆土				銅部片	粗砂	橙	普通	帯状沈線を施し、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第61図133±1 PL.48	深鉢	A	133	土坑	覆土				銅部片	粗砂	橙	普通	沈線により弧状モチーフを施し、単節LR縄紋を充填施紋する。	加E4
第62図137±1 PL.48	深鉢	A	137	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	波状口縁で口縁内面が肥厚。波頂部下から刻みを付した隆帯を垂下。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第62図137±2 PL.48	深鉢	A	137	土坑	覆土				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁が内湾する器形。無紋。	称II
第62図137±3 PL.48	深鉢	A	137	土坑	覆土				銅部片	粗砂	橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第62図137±4 PL.48	深鉢	A	137	土坑	覆土				銅部片	粗砂	橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第62図147±1 PL.48	深鉢	A	143	土坑	覆土				銅部片	細礫、粗砂	橙	普通	無節LR縄紋を縦位充填施紋する。	加E4
第62図145±1 PL.48	深鉢	A	145	土坑	覆土				銅部片	粗砂	にぶい橙	普通	沈線による懸垂紋を施し、単節RL縄紋を縦位充填施紋する。	加E4
第62図146±1 PL.48	深鉢	A	146	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	口縁部破片に無紋帯を空け、横位帯状沈線を施す。	後加E系
第62図148±1 PL.48	深鉢	A	148	土坑	覆土				銅部片	粗砂、白色粒	黒褐	普通	斜位の隆帯を施す。	加E4

V 検出された遺構と遺物

図番号	器形	区	名	遺構種	取上番号	口徑(長)	底徑(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考	
第62図158土1 PL 48	深鉢	A	158	土坑	覆土					口縁片	細砂	にぶい橙	普通	口縁部破片に1条の隆帯をめぐらせて口縁部破片無紋帯を作出。隆帯で帯状沈線による幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	後加E系
第62図158土2 PL 48	深鉢	A	158	土坑	覆土					胴部片	粗砂	浅黄橙	普通	縦位帯状沈線を施し、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第62図158土3 PL 48	深鉢	A	158	土坑	覆土					胴部片	粗砂	橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第62図 1 PL 49	深鉢	A	2	覆土	12	推29.8	5.7	37.1	口～底部	粗砂	にぶい黄橙	普通	口野内面が肥厚。帯状沈線により縦位に展開するJ字状、弧状モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I	
第62図 2 PL 49	注口土器	A	2	第3層	1. 91 土	推7.8	5.1	11.4	口～底部	粗砂	橙	普通	算盤玉状の器形。屈曲部にJ字状の隆帯を貼付。帯状沈線によりJ字状モチーフを描く。	称II	
第62図 3 PL 49	深鉢	A							胴部片	粗砂、繊維	橙	普通	内外面に糸痕を施す。	早期後半 糸痕紋系	
第62図 4 PL 49	深鉢	A							胴部片	粗砂、繊維	橙	普通	無節LR縄紋を施す。	前期前半	
第62図 5 PL 49	深鉢	A		表採					胴部片	粗砂	橙	普通	刻みを付した弧状隆帯を貼付。沈線を施す。	磨板	
第62図 6 PL 49	深鉢	A	2	覆土					胴部片	粗砂、金雲母	明赤褐	普通	隆線による総行懸垂紋を施し、単節RL縄紋を縦位充填施紋する。	加E 2	
第62図 7 PL 49	深鉢	A		表採					口縁片	粗砂	赤褐	普通	隆帯による口縁部筒状区画、沈線による胴部懸垂紋を施し、単節RL縄紋を充填施紋する。	加E 3	
第63図 8 PL 49	深鉢	A		覆土					口縁片	粗砂	橙	普通	隆帯による口縁部筒状区画を施す。	加E 3	
第63図 9 PL 49	深鉢	A		覆土					胴部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	隆線による懸垂紋を施し、単節LR縄紋を縦位充填施紋する。	加E 4	
第63図 10 PL 49	深鉢	A		表採					胴部片	粗砂	橙	普通	沈線により弧状モチーフを描き、単節RL縄紋を充填施紋する。	加E 4	
第63図 11 PL 49	深鉢	A		表採					胴部片	細砂	橙	普通	単節LR縄紋を縦位充填施紋する。	加E 4	
第63図 12 PL 49	深鉢	A	2	覆土	9				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	口縁部に1条の横位隆帯をめぐらせ、以下、単節LR縄紋を施す。	加E 4	
第63図 13 PL 49	深鉢	A		覆土					口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁下に沈線をめぐらせ、以下、無節LR縄紋を施す。	加E 4	
第63図 14 PL 49	深鉢	A		表採					胴部片	粗砂	橙	普通	沈線による懸垂紋を施し、単節LR縄紋を縦位充填施紋する。	加E 4	
第63図 15 PL 49	深鉢	A	2	覆土					胴部片	粗砂	橙	普通	沈線による縦位筒状モチーフを描き、内部に単節LR縄紋を充填施紋する。	加E 4	

## 源六軍遺跡

図番号	器形	区名	遺構種	取上番号	口徑(長)	底徑(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考	
第63図 PL 49 16	深鉢	A	2	覆土	15				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口唇内面が肥厚。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第63図 PL 49 17	深鉢	A		表採					口縁片	細砂	橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第63図 PL 49 18	深鉢	A	2	覆土	2				口縁片	細砂	橙	普通	口唇内面が肥厚。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第63図 PL 49 19	深鉢	A	2						口縁片	細砂	にぶい橙	普通	口唇内面が肥厚。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第63図 PL 49 20	深鉢	A	2						口縁片	粗砂	橙	普通	波状口縁の環状突起。頂部に4単位の突起を付すようだ。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第63図 PL 49 21	深鉢	A		覆土					口縁片	粗砂	橙	普通	波状口縁の環状突起で、頂部に沈線をめぐらす。波頂部下から削みを付した隆線を垂下。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第63図 PL 49 22	深鉢	A		表採					口縁片	粗砂	橙	普通	小波状口縁で、波頂部下に逆J字状隆帯を貼付。帯状沈線を描し、単節LR縄紋を充填施紋する。波頂部に円形刺突。	称I
第63図 PL 49 23	深鉢	A		覆土					口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	波状口縁で波頂部下に透かしが入る。内面に円形刺突、称沈線を施す。	
第63図 PL 49 24	深鉢	A	2	覆土	7				胴部片	粗砂	橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第63図 PL 49 25	深鉢	A		表採					胴部片	粗砂	浅黄橙	普通	帯状沈線により弧状モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第63図 PL 49 26	深鉢	A		表採					胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第63図 PL 49 27	深鉢	A	2	住居	覆土				胴部片	粗砂	浅黄橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第63図 PL 49 28	深鉢	A	2	覆土	8				胴部片	粗砂	灰黄褐	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第63図 PL 49 29	深鉢	A		表採					胴部片	粗砂	灰黄褐	普通	刺突を施した隆線を垂下。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I
第63図 PL 50 30	深鉢	A	2	覆土	4				胴部片	粗砂	橙	普通	刺突を施した隆線を垂下。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称I



V 検出された遺構と遺物

図番号	器形	区名	遺構種	取上番号	口徑(長)	底徑(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第63図 PL 50	31 深鉢	A		表採				割部片	粗砂	にぶい橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称1
第63図 PL 50	32 深鉢	A		表採				割部片	粗砂	にぶい橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称1
第63図 PL 50	33 深鉢	A	2	覆土	11			割部片	細礫、粗砂	橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称1
第63図 PL 50	34 深鉢	A	2	覆土	11	6.6		底部破片				33と同一個体。	称1
第64図 PL 50	35 深鉢	A		表採				口縁片	粗砂	橙	普通	液状口縁で、口唇内面が肥厚。帯状沈線を描き、円形刺突を充填施紋する。	称II
第64図 PL 50	36 深鉢	A		表採				割部片	細砂	にぶい黄橙	普通	帯状沈線を描き、列点を充填施紋する。	称II
第64図 PL 50	37 深鉢	A						割部片				38と同一個体。	称
第64図 PL 50	38 深鉢	A	2	覆土	14			割部片	粗砂	橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填、さらに円形刺突を充填施紋する。	称
第64図 PL 50	39 深鉢	A						口縁片	粗砂	橙	普通	口縁下に1条の沈線。2条の沈線による懸垂紋を描く。	層1
第64図 PL 50	40 深鉢	A		表採				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁下肥厚部に1条の沈線。下層に斜位の刻みを付す。	層2
第64図 PL 50	41 深鉢	A	2	覆土	2			口縁片	細砂	にぶい黄橙	普通	口縁部に環状把手。沈線、円形刺突を描く。	層3
第64図 PL 50	42 深鉢	A		表採				割部片	粗砂	橙	普通	沈線により幾何学モチーフを描き、刺突を充填施紋する。	層4
第64図 PL 50	43 深鉢	A		表採				割部片	粗砂	明赤褐	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	層2
第64図32±1 PL 50	深鉢	B	32	土坑	覆土			割部片	粗砂	にぶい橙	普通	帯状沈線により弧状モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称1
第64図45±1 PL 50	深鉢	B	45	土坑	覆土	推17.8		口～割部	粗砂	赤褐	普通	液状口縁で、頸部で屈曲する彫形を呈し、頸部に1条の隆帯をめぐらす。隆帯下に単節LR縄紋を地紋とし、沈線によりJ字状や弧状モチーフを描く。口唇部を肥厚させ、1条の沈線を描く。	層1
第64図62±1 PL 50	深鉢	B	62	土坑	覆土			口縁片	粗砂	橙	普通	口縁部無紋帯の部位。	加E 4
第64図62±2 PL 50	深鉢	B	62	土坑	覆土			割部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	沈線による懸垂紋を描き、単節LR縄紋を複色充填施紋する。	加E 3
第64図62±3 PL 50	深鉢	B	62	土坑	覆土			割部片	粗砂	にぶい橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、沈線による懸垂紋を描く。	層1

## 源六環遺跡

図番号	器形	区名	遺構種	取上番号	口徑(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考	
第641864土1 PL 50	深鉢	B	64	土坑	覆土				銅部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	帯状沈線により弧状モチーフを描く。	特Ⅱ
第641864土2 PL 50	深鉢	B	64	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	沈線を横位、縦位、斜位に施す。	類1
第641865土1 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい黄褐	普通	口縁下に1条の沈線をめぐらせ、以下、沈線による幾何学モチーフを描く。	類2
第641865土2 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				突起	粗砂	にぶい黄橙	普通	波状口縁。波頂部下に口縁に沿った沈線と円形刺突を施す。	類3
第641865土3 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	帯状沈線を横位に施し、内側に刺突を充填施す。	特Ⅱ
第641865土4 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁下肥厚部に2条の沈線をめぐらす。	類1
第641865土5 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい橙	普通	口縁下に円形刺突。沈線による幾何学モチーフを描く。	類1
第641865土6 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	口縁下に1条の沈線をめぐらせ、以下、条線による蛇行型垂紋を施す。	類1
第641865土7 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂	明赤褐	普通	刻みを付した隆帯をめぐらせて口縁部紋帯帯を区画、口縁から弧状の隆帯を垂下させて連結する。口縁部紋帯帯は横位の長筒円形モチーフを描き、列点を充填施す。胴部は沈線による垂紋を施す。	類1
第651865土8 PL 50	浅鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	縦く内湾する器形で、口縁が短く外反する。隆線を1条のめぐらせて口縁部紋帯帯を区画。紋帯帯内は沈線によるモチーフを描く。	類1
第651865土9 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	波状口縁。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節しR隅紋を充填施す。	特Ⅰ
第651865土10 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂	橙	普通	波状口縁で波頂部下に透かしが入る。沈線により幾何学モチーフを描き、3条の短沈線を充填施す。	類1
第651865土11 PL 51	浅鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁が内折する器形。波頂部下に円形の透かしを施し、環状の把手を付す。内折部に沈線をめぐらす。胴部は無紋。	特Ⅱ
第651865土12 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	波状口縁の突起部で円筒状の突起を付す。無紋。	特
第651865土13 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂、白色粒	にぶい黄橙	普通	小波状口縁で、頸部で屈曲する器形。胴部に刺突を挟んだ帯状沈線をめぐらせて区画。胴部も同様の帯状沈線でワラビ手紋、斜行紋を施す。波頂部下に円孔。口縁内面に1条の沈線を施す。	類1

V 検出された遺構と遺物

図番号	器形	区	名	遺構種	取上番号	口徑(長)	底徑(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第65図65土14 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				副部片	粗砂、白 色粒	橙	普通	帯状沈線によりJ字状、弧 状モチーフを描く。	称II
第65図65土15 PL 50	深鉢	B	65	土坑	覆土				口縁片	粗砂、白 色粒	にぶい橙	普通	液状口縁の突起部で、環状 の突起を付す。突起内面に 沈線、凹形刺突を施す。	称
第65図65土16 PL 51	深鉢	B	65	土坑	覆土				副部片	粗砂	橙	普通	隆線による懸垂紋を施し、 単筋LR縄紋を縦位充填施 紋する。	加E 4
第65図65土17 PL 51	深鉢	B	65	土坑	覆土				副部片	粗砂、白 色粒	にぶい黄橙	普通	条線を斜位に施す。	編1
第65図65土18 PL 51	深鉢	B	65	土坑	覆土				副部片	粗砂	橙	良好	隆帯による指門状区画を施 し、単筋LR縄紋を充填施 紋する。	加E 3
第65図65土19 PL 51	深鉢	B	65	土坑	覆土				副部片	細礫、粗 砂	にぶい黄橙	普通	胴部で屈曲する器形。胴部 に刺みを付した隆帯をめぐ らす。隆帯下は帯状沈線を 縦位、斜位に施す。	編1
第65図65土20 PL 51	深鉢	B	65	土坑	覆土				副部片	粗砂	橙	普通	帯状沈線を縦位、斜位に施 す。	編1
第65図65土21 PL 51	深鉢	B	65	土坑	覆土				副部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	帯状沈線により幾何学モ チーフを描き、単筋LR縄 紋を充填施紋する。	称I
第65図65土22 PL 51	深鉢	B	65	土坑	覆土				副部片	粗砂	にぶい橙	普通	沈線によりモチーフを描 き、条線による短沈線を充 填施紋する。	編1
第65図65土23 PL 51	深鉢	B	65	土坑	覆土				副部片	粗砂	橙	普通	帯状沈線により弧状モチ ーフを描く。	称II
第65図65土24 PL 51	深鉢	B	65	土坑	覆土		推12.5		底部破片	粗砂	橙	普通	残存部は無紋。	後期前半
第65図68土1 PL 51	深鉢	B	68	土坑	覆土				副部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	隆帯を1条めぐらせて、隆 帯下に刺突を充填施紋す る。隆帯とその上位に赤色 彫彩が施されている。	編1
第66図69土1 PL 51	深鉢	B	69	土坑	覆土				口縁片	粗砂	橙	良好	液状口縁。口唇部を肥厚さ せ、凹ませる。口縁に沿っ て沈線を施す。	編1
第66図69土2 PL 51	深鉢	B	69	土坑	覆土				底部	粗砂、礫 粒	橙	普通	単筋LR縄紋を縦位施紋す る。	前期前半
第66図78土1 PL 51	深鉢	B	78	土坑	覆土				副部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	沈線により幾何学モチ ーフを描く。	編1
第66図82土1 PL 51	深鉢	B	82	土坑	覆土		8.2		底部	粗砂	橙	普通	残存部は無紋。	後期前半
第66図91土1 PL 51	深鉢	B	91	土坑	覆土				副部片	粗砂	橙	普通	帯状沈線により弧状モチ ーフを描き、無筋LR縄紋 を充填施紋する。	称I
第66図137土1 PL 51	深鉢	B	137	土坑	覆土				口縁片	細砂	橙	普通	帯状沈線により幾何学モ チーフを描き、単筋LR縄 紋を充填施紋する。	称I
第66図137土2 PL 51	深鉢	B	137	土坑	覆土				副部片	粗砂	橙	良好	無筋LR縄紋を施す。	後期前半

## 源六環遺跡

図番号	器形	区名	遺構種	取上番号	口徑(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考	
第66図137土3 PL 51	深鉢	B	137	土坑	覆土				銅部片	粗砂	橙	良好	沈線による懸垂紋を施し、単節R L縄紋を縦位充填施紋する。	加E 3
第66図 1 PL 51	深鉢	B	1	覆土	覆土				銅部片	粗砂	橙	良好	山形押型紋を縦位施紋する。	早期押型紋系
第66図 2 PL 51	深鉢	B							銅部片	粗砂、繊維	橙	普通	外面に斜位の条痕を施す。	早期後半条痕紋系
第66図 3 PL 51	深鉢	B	1	覆土	覆土				銅部片	細漚、繊維	橙	普通	縄紋を施すようだが、器面が荒れていて不明。	前期前半
第66図 4 PL 51	深鉢	B	1	覆土					銅部片	細漚、粗砂	にぶい黄橙	普通	隆帯による口縁部楕円状区画を施し、単節R L縄紋を充填施紋する。	加E 3
第66図 5 PL 51	深鉢	B	1	覆土					銅部片	粗砂、白色粒	明赤褐	普通	隆帯による懸垂紋を施し、単節R L縄紋を縦位充填施紋する。	加E 3
第66図 6 PL 51	深鉢	B	1	覆土					銅部片	細砂	浅黄橙	普通	沈線による懸垂紋を施し、単節R L縄紋を縦位充填施紋する。	加E 3
第66図 7 PL 51	深鉢	B	1	覆土					口縁片	粗砂、白色粒	にぶい橙	普通	1条の隆帯をめぐらせて口縁部無紋帯を作出。隆帯下に弧状の隆帯を施し、単節L R縄紋を充填施紋する。	加E 4
第66図 8 PL 51	深鉢	B							口縁片	粗砂、白色粒	橙	普通	1条の隆帯をめぐらせて口縁部無紋帯を作出。隆帯下に弧状の沈線を施し、単節L R縄紋を充填施紋する。	加E 4
第66図 9 PL 51	深鉢	B							口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	1条の隆帯をめぐらせて口縁部無紋帯を作出。隆帯下に単節L R縄紋を充填施紋する。	加E 4
第66図 10 PL 51	深鉢	B		表採					銅部片	粗砂	明赤褐	普通	沈線により弧状モチーフを描き、単節R L縄紋を充填施紋する。	加E 4
第66図 11 PL 51	深鉢	B							口縁片	細漚、粗砂	にぶい橙	普通	斜位、縦位の集合沈線を施し、波状の隆帯を貼付する。	唐草紋系
第66図 12 PL 51	深鉢	B		表採					口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	1条の隆帯をめぐらせて口縁部無紋帯を作出。隆帯下に無節L r縄紋を充填施紋する。	加E 4
第66図 13 PL 51	深鉢	B	1	覆土					銅部片	粗砂	明赤褐	普通	単節R L縄紋を縦位施紋する。	中期後半
第66図 14 PL 51	深鉢	B	1	覆土					口縁片	粗砂、白色粒	にぶい橙	普通	波状口縁の突起部で環状の突起を付す。或頂部下にも環状の基付を施し、沈線、円形刺突を施す。	称
第66図 15 PL 51	深鉢	B	1	覆土					口縁片	粗砂、石英	にぶい黄橙	普通	波状口縁で、口縁が内湾する。口縁に沿って隆帯で区画し、円形刺突を施す。	称
第66図 16 PL 52	深鉢	B	1	覆土					銅部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節L R縄紋を充填施紋する。	称I
第66図 17 PL 52	深鉢	B	1	覆土					銅部片	粗砂	にぶい黄橙	普通	帯状沈線により弧状モチーフを描き、列点を充填施紋する。	称II

V 検出された遺構と遺物

図番号	器形	区名	遺構種	取上番号	口徑(長)	底徑(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考
第66図 PL 52	18 深鉢	B		表採				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁部の環状突起。口縁が内折する。沈線、単節LR縄紋を施す。	順1
第66図 PL 52	19 深鉢	B		表採				口縁片	細礫、粗砂	明赤褐	普通	胴部で屈曲する器形。胴部に幅広い隆帯をめぐらせ、沈線を施す。口縁下肥厚部にも1条の沈線を施す。	順1
第67図 PL 52	20 深鉢	B	1 覆土					口縁片	粗砂	明赤褐	普通	口縁下に円形刺突。以下、単節LR縄紋を施す。	順1
第67図 PL 52	21 深鉢	B						胴部片	細礫、粗砂	橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、横位、弧状の沈線を施す。	順1
第67図 PL 52	22 深鉢	B	1 覆土					胴部片	粗砂、石英	明赤褐	普通	横位、弧状の沈線を施す。8の字貼付紋を貼付。	順1
第67図 PL 52	23 深鉢	B	1 覆土					胴部片	粗砂、白色粒	浅黄橙	普通	弧状の条線を施す。	順1
第67図 PL 52	24 深鉢	B	1 覆土					胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	単節LR縄紋を地紋とし、横位、弧状の沈線を施す。	順1
第67図 PL 52	25 深鉢	B	1 覆土					口縁片	粗砂	にぶい橙	普通	口縁下に1条の隆線。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施す。	順2
第67図 PL 52	26 深鉢	B	1 覆土					口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁下に1条の隆線と8の字貼付紋。帯状沈線によるモチーフを描く。	順2
第67図 PL 52	27 深鉢	B		表採				口縁片	粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁下に2条の隆線をめぐらせ、縦位隆線で連結、連結部に円形刺突を施す。帯状沈線を施し、単節LR縄紋を充填施す。	順2
第67図 PL 52	28 深鉢	B	1 覆土					胴部片	粗砂	黒褐	普通	帯状沈線によりJ字状モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施す。	順2
第67図 PL 52	29 深鉢	B		表採				胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施す。	順2
第67図 PL 52	30 深鉢	B		表採				胴部片	粗砂	橙	良好	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施す。	順2
第67図 PL 52	31 深鉢	B	1 覆土					胴部片	粗砂	にぶい橙	普通	帯状沈線によるモチーフを施す。	順2
第67図 PL 52	32 注口土器	B	1 覆土					口縁片	粗砂、白色粒	黒褐	普通	口唇外面が肥厚。口縁下に1条の隆線と8の字貼付紋。隆線下にも弧状隆線によるモチーフを描く。隆線には沈線を施す。	順2
第67図 PL 52	33 注口土器	B	1 覆土					胴部片	粗砂	橙	普通	沈線により楕円状モチーフを描く。	順2
第67図 PL 52	34 注口土器	B	1 覆土					把手部	細砂	にぶい黄橙	普通	円柱状と半楕円状を組み合わせた把手。沈線により楕円状モチーフを描き、刺突を充填施す。	順1
第67図 PL 52	35 鉢	B		表採				口縁片	粗砂	橙	普通	口縁が緩く内湾する器形。帯縄紋を施す。	追加

## 源六郎遺跡

図番号	器形	区名	遺構種	取上番号	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	残存	胎土	色調	焼成	形・成調整等	備考	
第67図 PL.52	36 深鉢	B			表採				口縁片	粗砂	橙	普通	帯縄紋、区切り紋を施す。	加圧
第67図 PL.52	37 深鉢	B	1	覆土					胴部片	細礫、粗砂	にぶい赤褐	普通	胴部上位に無節Lr縄紋を施す。	後期前半
第67図 PL.52	38 深鉢	B	1	覆土			推10.2		底部破片	粗砂	橙	良好	底面に副代痕が残る。	後期前半
第67図 PL.52	39 深鉢	B	1	覆土			9.3		底部破片	粗砂、白色粒	明赤褐	普通	残存部は無紋。底面に副代痕が残る。	後期前半
第67図 PL.52	40 深鉢	B	1	覆土			推10.8		底部破片	粗砂	橙	普通	残存部は無紋。底面に副代痕が残る。	後期前半
第67図 PL.52	41 深鉢	B	1	覆土			推10.0		底部破片	粗砂	黒褐	普通	残存部は無紋。底面に副代痕が残る。	後期前半
第67図 PL.52	42 深鉢	B	1	覆土			推4.7		底部破片	粗砂	にぶい橙	普通	残存部は無紋。	後期前半
第67図 PL.52	43 ミニチュア	B	1	覆土			3.0		胴～底部	粗砂	にぶい黄橙	普通	球胴形を呈す。胴部中位に隆帯をめぐらせて区画。紋様帯内は楕円状モチーフを描き、縦位沈線を施す。	後期前半

V 検出された遺構と遺物

(源六塚遺跡土師器・須恵器)

図番	器形	区	遺構名	出土位置	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	部位	胎土	色調	焼成	器形及び整形の特徴
第68図1住1 PL.53	高杯	A	1住居	床面	(21.0)	-	-	杯部~脚部上位	砂粒を含む	橙	酸化	杯部内外面放射状研磨。脚部上下互いに違いに2段の丹孔を穿つ。口唇部内面に明瞭な面取り。
第68図2住1 PL.53	高杯	A	2住居	床面、覆土	(20.6)	-	-	杯部~脚部上位	砂粒を含む	にぶい赤褐	酸化	杯部内外面放射状研磨。脚部丹孔3箇所。口唇上面に深い面取り。
第68図2住2	高杯	A	2住居	床面	(24.0)	-	-	杯部片	砂粒を多く含む	橙	酸化	杯部内外面放射状研磨。口唇上面に深い面取り。
第68図2住3 PL.53	台付甕	A	2住居	覆土	-	-	-	底部~台部中位	砂粒・小石を含む	にぶい橙	酸化	外面に粗いハケメか。
第68図2住4 PL.53	甕	A	2住居	床面、覆土	-	4.5	-	口縁部欠	砂粒を含む	橙	酸化	下彫れ胴部に突出底。外面はハケメのち研磨。
第68図2住5 PL.53	S字状口緑婁	A	2住居	覆土	(16.0)	-	-	口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化	口唇部やや肥厚。内面の段内凹。胴部ハケメは乱れた斜位。頸部内面に横ハケメ。
第68図2住6 PL.53	S字状口緑婁	A	2住居	覆土	-	-	-	口縁部片	砂粒を含む	黒褐	酸化	口縁の段は強い。口唇上面に深い平坦面。胴部に斜ハケメのち横ハケメ。
第68図2住7 PL.53	台付甕	A	2住居	床面	-	8.6	-	脚台部	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	外面ハラナデ、内面横ハケメ。
第68図2住8 PL.53	婁	A	2住居	覆土	(11.4)	-	-	口縁部一体部上位	砂粒・小石を含む	橙	酸化	口唇肥厚丸縁。胴部は壺形。外面はハケメとナデ、内面ハケメ。
第68図1 PL.53	須恵器杯	A	7土坑	覆土	-	7.1	(1.3)	底部	砂粒を含む	黄灰	還元	底右回転糸切り。
第68図1	平瓦	A	1溝	覆土	-	-	厚さ20	破片	-	-	還元	表面に削り直残す。
第68図1 PL.53	壺	A		遺構外	(14.4)	-	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	頸部外面に凸帯、外面赤彩。
第68図2 PL.53	婁	A		遺構外	(13.6)	-	-	口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	内外面ハラナデ。
第68図3 PL.53	婁	A		遺構外	(14.0)	-	-	上半部片 胴下部片	砂粒を含む	にぶい赤褐	酸化	外面斜位ハケメ、内面ナデ。外面僅付着。
第68図4 PL.53	婁	B		遺構外	(12.8)	-	-	口縁部一体部上位	細砂粒を含む	にぶい赤褐	酸化	肩部ハケメの工具止り痕が口縁に残る。口縁屈曲して立つ。S字婁の模範か。
第69図5 PL.53	婁	B		遺構外	(21.9)	-	-	口縁部片	細砂粒を含む	にぶい赤褐	酸化	頸部内面接合痕
第69図6 PL.53	高杯	A		遺構外	-	-	-	杯部脚部接合部	砂粒を含む	明赤褐	酸化	脚部丹孔を穿つ。
第69図7 PL.53	高杯	B		遺構外	(16.6)	-	-	口縁部片	細砂粒を含む	浅黄	酸化	口縁部内湾。
第69図8 PL.53	婁	A		遺構外	-	3.6	-	底部	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	内底工具ナデか、摩滅。
第69図9 PL.53	高杯	B		遺構外	-	-	-	脚部片(縦欠損)	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	内外面器表裏れ。
第69図10 PL.53	須恵器杯	A		遺構外	-	(7.0)	-	底部片	細砂粒を含む	灰	還元	底回転糸切り。
第69図11 PL.53	須恵器杯	A	2	遺構外	-	7.5	-	底部	砂粒を含む	浅黄橙	還元	底静止糸切り。
第69図12 PL.53	須恵器婁	B		遺構外	-	-	-	体部片	白色粒子を含む	灰	還元	外面平行タタキ目後ナデ。

瓦

図番	種別	器形	区	面	名 遺構番号	遺構種	取上番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	残存	1 胎土	2 色調	3 焼成	4形・成調整等	備考
第68図1溝1 PL.53	瓦	平瓦?	A		1	溝	覆土	-	-	-	破片	砂粒を含む	灰白	還元		凹面ケズリ後ナデ、凸面ケズリ
第69図14 PL.53	瓦	平瓦?	B			表採	表採	-	-	-	破片	白色粒子を含む	黄灰	還元		凹面ナデ、凸面横目あり

## 石器

国番	器種	形態	区	出土位置	石材	長さ	幅	重さ	残存	調整加工・形状等の特徴
70081住1 PL54	石鏃	凹基	A	1号住	黒頁	29	1.9	1.7	完形	二等辺三角形形状を呈する錐身の石鏃。
70082住1 PL54	加工痕		A	2号住	黒頁	7.4	3.1	16.1	完形	幅広割片の左側縁表面に深い加工を施す。
7008109土 1PL54	石皿	有縁	A	109土	緑片	21.3	10.3	1422.8	破片	ロータ状の凹穴が背面に2、表面に1を穿つ。被熱。
7008135土 1PL54	磨石	円球	A	135土	粗安	8.9	8.5	797.6	完形	略全面磨耗。
70081 PL54	打製石斧	短冊	A	不明	凝砂	13.8	6.5	349.6	完形	裏面側は全面礫面、両側縁敲打痕、装着痕？
70082 PL54	石鏃	不明	A	表探	チャ	3.1	2.8	4.3		三角形剥片に押圧調整を施す。初期段階で放棄。
70083 PL54	凹石	円球	A	2区	粗安	11.3	10.4	708.6	完形？	径1cmの孔2。裏面は顕著に磨耗、研磨具に転用？
70084 PL54	凹石	不定	A	2区	粗安	8.1	6.4	289.7	完形	表裏面に集合打痕、裏面磨耗。
70085 PL54	磨石	不定	A	2区	粗安	9.9	8.1	549.1	完形	裏面側磨耗、表裏面に打痕あり。
70086 PL54	磨石	楕圓	A	2区	溶凝	19.5	5.8	1774.1	完形	表裏面に磨耗痕、右側縁に打痕。被熱。
70087 PL54	スタンプ		A	2区	粗安	12.2	7.2	529.6	完形	底面は磨耗。エッジに小割離痕あり。
70088 PL54	打製石斧	短冊	B	土坑	粗安	5.8	3.8	36.8	頭部破	背面側に礫面を残し、周辺加工して石器を作出。
70089 PL54	打製石斧	短冊	B	1区	珪頁	11.3	4.9	93.3	完形	右側縁に捲縛痕あり。左側縁・刃部再生。
700810 PL54	打製石斧	短冊	B	表探	粗安	7.4	4.4	57.2	完形	側縁に捲縛痕、刃部に磨耗痕あり。刃部再生使用。
700811 PL54	打製石斧	分銅	B	不明	ホル	10.5	6.3	191.5	完形	着柄部・刃部は著しく磨耗。
700812 PL54	磨製石斧	定角	B	2区	蛇紋	4.8	6.6	86.6	破片	刃部に使用時に生じた小割離痕が連続する。
700813 PL54	石鏃	凹基	B	2区	チャ	3.2	1.7	2.6	返部欠	背面側の素材面が残る。製作途上に破損。
700814 PL54	石核		B	1区	黒曜	1.8	3.1	6.3		板状剥片を用い、上面の礫面から小形剥片を剥離。

黒色頁岩：黒頁 珪質頁岩：珪頁 チャート：チャ ホルンフェルス：ホル 蛇紋岩：蛇紋 黒曜石：黒曜 粗粒輝石安山岩：粗安 細粒輝石安山岩：粗安 凝灰質砂岩：凝砂 緑色片岩：緑片 溶結凝灰岩：溶凝

## 石製品

国番	種別	器形	区	面	名通番号	遺構種	取上番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	1 胎土	2 色調	3 焼成	4形・成調整等	備考	
第69国 13 PL 53	石製品	砥石	A				覆土	長 10.3	幅 4.7	厚 3.7	184.4g	略完				4面使用		
第69国 15	石製品	石鉢	B				1号包合層			高 12.4								



## VI 上江田西田遺跡・源六堰遺跡 出土の古墳時代土器について

本遺跡の発掘調査において、古墳時代の遺構はほとんどみられなかったが、河道に堆積したと考えられる黒泥土層より、古墳時代前期に主体を置く土器が多く出土している。群馬県の古墳前期を代表する土器として「石田川式」の名で広く知られる標識遺跡の石田川遺跡は、本遺跡から南東に約8kmの位置にある。この他にも、重殿遺跡、高林遺跡など古墳時代前期の遺跡の分布密度がかなり高い地域であることがよく知られている。本遺跡の調査要因である石田川は、大開々扇状地を水源として小刻みな蛇行を繰り返しながら南東方向に流下しており、やがて太田市の南端部で南流してきた蛇川と合流する。このような大開々扇状地を開析する河川や扇端湧水池から流下する小河川の堆積物によって被われた広い沖積地は、頼母子古墳、朝子塚古墳のような4世紀代の古墳を初源として、その後も連続と古墳群が築かれていることから、古墳時代以降の集落・生産域として安定していた地域であったことがうかがいできる。その一方で、弥生社会の地域形成があまり発達しなかったことは、弥生遺跡の分布状況の稀薄さが雄弁に物語っている。いわば、古墳時代前期になってから急激な開発が始まった新開拓地域であり、その歴史的動向そのものが群馬における弥生時代から古墳時代への大きな社会的転換をもたらす象徴的な歴史的事実であったと類推される。ただし、その地域社会形成に至る過程については、S字状口縁台付甕（以後「S字甕」と呼ぶ）の主体的分布から想定された東海地方西部からの「入植」や「集団移住」によるとの解釈がもっぱらである。これを歴史的事実として認定できるか否かは、当該地域における弥生時代後期から古墳時代前半の遺跡に関する詳細な分析の如何にかかっているが、本遺跡ではその一助とするべく出土した古墳前期の土器群について概要を述べることにしたい。

### 1. 器種について

壺、小型壺、直口壺、台付甕、甕、小型甕、鉢、高坏、小型器台、結合器台、有孔鉢・小型丸底壺が見られる。遺構に伴う一括資料ではないので、器種組成分析のためのデータとしては不十分だが、当該地域の古墳時代前期集落でみられる器種組成とはほぼ同様と考えられる。ただし、直口壺及び遺存度の良好な高坏や器台が、他の器種に比べてやや多いとの印象を受けること、焼成後底部穿孔の壺（第36図-53）が見られることから、埋没谷堆積層中からの出土である点を積極的に評価して、単なる集落からの日常器の廃棄ではなく「水」に関する祭祀関係遺物との想定も用意しておくべきだろう。群馬県では、本格的な農耕集落が形成された弥生時代中期後半から後期にかけて、稲作文化とこれに伴う祭祀も伝播したと想定できるが、「水」に関係する祭祀的な遺構や遺物は非常に稀薄である。ところが古墳時代前期に入ると、低湿地への大規模な水田開発とともに「水辺」や「湧水」での特定器種（壺や高坏）の廃棄や井戸への土器、祭祀遺物廃棄（埋設か）行為がしばしば見られる。上江田西田遺跡出土の古墳時代前期土器群についても、南隣する源六堰遺跡（本書）や、石田川両岸に点在する微高地上の谷津遺跡や中道遺跡（文献1）を含めた古墳時代前期集落群に付随する「水」の祭祀関連遺物との見方を残しておきたい。

### 2. 型式の特徴について

壺は、退化した折返し口縁（第33図-1・2）、単口縁（第33図-3・7・10）、二重口縁（第33図-4・5）の三種に大別される第33図-1は内彎口縁で外面に稜をもたず、同図-2は外反して外面折返し端部にわずかな段を有する。前者は、大粒の赤色鉱物粒（酸化鉄化合物）を含む胎土を主な特徴とする他の土器と異なり、浅く粗い刷毛目を施す点

も同図-2・3とは異質である。やや肥厚する内彎形の口縁からその類縁を求めらば、吉ヶ谷式や弥生町式の系譜が候補にあげられよう。これに比べ、大きく外反する同図2・3は、在地弥生土器の樽式の系譜に連なるとも考え得るが、同様の特徴を持つ東海西部系や北陸系の外反口縁壺の流入やそれとの融合が進捗する段階での土器だけに、単一系譜での理解は避けておくべきだろう。二重口縁壺は、第33図-4・5とも頸部が直立する典型的な「茶白山型」壺である。5は胎土の特徴から現地産と考えられるが、稜線が明瞭で丁寧な研磨を施す特徴から、畿内産に近い印象をもつ。これに比べ4は段状部の稜線が弱く器面研磨も見られない。ただし、5とはほぼ同大同一形状であることから、同時期に使用されたことは間違いないだろう。第33図-9は、撫描横線文と窠描き鋸歯文の組合せ施文という文様構成からパレススタイル壺の類品としてよい。ただし、横線文を4段重畳させて幅広い横線文帯を施文し、その上に鋸歯文を描く手法や、鋸歯文がかなり乱れている点は、尾張地方のオリジナル品の文様から逸脱した印象を与え、胎土の特徴から在地品であることは間違いないものの、その稚拙な模倣品か年代の下る退化品と考えられる。直口壺(第33・34図-11・12・13・16・17)は、「瓢壺」の系譜を引く内彎気味口縁にやや扁平な球形胴をもつ11-13と、球形に胴径とほぼ同大の口径をもつ16の2種に分けられる。後者は後出型式の可能性もあるが、ここでは系譜の異なる同時存在と捉えておきたい。ちなみに、11は赤彩の可能性が高い。小型壺10は直口壺と同一用途で理解しうるが、曲線的に屈曲する頸部形状や長胴気味の胴部形状から、東海西部や畿内ではなくむしろ関東地方南部の弥生終末期～古墳前期に類品を見る。

甕については、S字甕、単口縁台付甕、平底甕の3種があり、数量比は不明である。S字甕(第34図-21-27、第36図-50・51・58)は、全形の判明する出土例がなかったため明確な基準での型式分類はできない。口縁形態では、口唇部上面にヘラナデ

による面取り(22・25)、丸縁(23・24)、口縁内面に弱い沈線状のナデ線(21・26)、先端縁(27)の変異が見られる。肩部刷毛目の工具は鋭く細かい脚状具(21-23・25・26)と目の粗い脚状具(24・27)がある。肩部への脚目による横線は22・26、源六塚遺跡2号住例(第68図-2住6)に見られる。これはかすれ気味の施文で、すでに横線文としては退化した最終段階のものといえよう。ただし源六塚遺跡2号住例は頸部内面に横刷毛目が見られ、口縁上段部の屈曲が強く小規模な形状から、他のS字甕より「型的」に先行すると考えられる。さて、本遺跡出土のS字甕で注目されるのは、胎土の違いである。22・24及び25・26が赤城山南麓に多いと思われる安山岩系鉱物(輝石、石英、白色岩片主体)を多く含む、後者はさらに赤色細礫(酸化鉄鉱物)が多いという特徴が見られる。前後者の違いは赤地粘土の差ではないか。これに対し、21・23・85は本遺跡の他器種の主体となるチャート、石英、白色岩片などの細礫を多く含む、見た目にごつごつした印象の胎土である。大量のS字甕が出土し、粘土採掘坑が検出されたことからS字甕生産地との性格が濃厚な伊勢崎市波志江中宿遺跡での胎土分析を参考にすれば、本遺跡の22・24はこれらとはほぼ同質と考えられる。S字甕というと、その画一的な形態の特徴から、拠点生産地から分布域内への広範な供給を想定しがちだが、ここに見られる胎土のパラエティからは、複数の生産地からの供給をも想定しておくべきだろう。単口縁の甕類は全形の判明するものがないため、台付甕と平底の判断ができない。ただし、第36図-54-57の脚台部は、東海～南関東地方に類例をもとめられるもので、単口縁台付甕の存在は間違いない。第40図-28はその想定例だが、別個体の可能性もある。特に、第36図-59の低く大きく開く脚形状は三河～遠江地域における大型台付甕の流れを汲む形態と考えたい。単口縁甕の口縁形態には、丸縁(28-30・33)、外端に面取り(31・38)、肥厚(29・32・39・41)のパラエティが見られるが、積極的な型式差を認めるには不十分であろう。頸部が強く彎曲し

て開き、口唇部が受け口状で小さく上方に尖る形状の40は、北陸北東部系とみてよい。43は胎土と整形技法の近似から同一個体の可能性を示唆したもののだが、平底か脚台付きかは不明である。口縁形態から受け口の寛ないしはS字巻の模倣品の可能性がある。なお、46は細い棒（直径5mmほど）で口縁外側に刻み列を施し、頸部以下には太い櫛目具による刷毛目整形とみられる口縁片で、挿図掲載したなかでは南関東系を想定できる唯一例である。

高坏は元屋敷系大型高坏（第37図-62・63・70、源六堰1号住・同2号住例と有稜杯部（64）と椀形杯部（66・69）の小型品、及び时期的に後出する柱状脚高坏（92・93）がある。84と85は有稜高坏の底～脚上半部である。椀形杯部小型品は口径が小さく、杯部も浅いことから器台の可能性もあるが、底内面に摩擦痕等は確認できない。源六堰1号住・同2号住例は口唇部内面に明瞭な後が見られること、底面中央に円形凹みを残す整形など、東海地方西部のオリジナル品に忠実な形態を保っていることから、上江田西田遺跡例よりはやや型的に先行するものと捉えたい。

器台は小型器台と結合器台（裝飾器台）に二分される。小型器台は器受け部が直線的に開く皿状（72・76）、有稜（73・77）、内彎（74・75・77）の変異が認められ、口縁形状では、面取り（72）、つまみ上げ（75）、有段直立（77）が見られる。結合器台（79～83）は受け部底面で鐙が突出する形態で、唯一受け部口縁形状の判明する79を見る限り、段を持たない形態だろう。これは関東地方～北陸北東部に多いとされるが、底面から脚部への貫通孔が見られないことから、「高坏」として製作・機能したとの考え方もできよう。小型器台の脚部形状は、中位からやや屈曲外反して裾部が大きく開く形状で、結合器台は脚全体が大きく開く形状（83）を示す。67は口縁部を外側に付加して外反させる形状で、北陸系の器台と思われる。ただし、胎土の特徴は在地品と変わらない。

埴（110）は1点のみ掲載した。胴部の上半を研

磨、下半を削りて仕上げる扁平球形で、下半は著しい剥離が見られる。器台と対で使用したための剥離痕と推測される。口縁を欠失しているが、強くすばまる頸部から内彎気味に長く立ち上がる口縁形状と想定される。

有孔鉢（94・95）は、やや内彎する逆円錐形で、平底中央部に一孔を穿つ。ほぼ完形で出土した94は、外面の片側1/3に二次的被熱変色部と焼成時と思われる黒斑を見るが、口縁近辺での煤附着や被熱痕は見られない。また底部孔の直径は7mmと、この種の有孔鉢としては約1/2ほどの小ささである。内面全体に白色付着物が残っており、「甌」ではなく「濾過器」の機能を想定したい（文献2）。ただし、口縁内面1cm弱の中で器面が剥離したような痕跡がみられるには、「蓋」使用を想定すべきか。意図的な類例調査の必要がありそうだ。

### 3. まとめ

上江田西田遺跡・源六堰遺跡から出土した古墳時代前期の土器の特徴について概要を述べてきたが、そこから判明した时期的位置づけや、今後の検討課題を提示したい。

まず編年上の位置づけだが、古墳前期のなかでも中頃、群馬県を地域毎に分割した編年を作成した深澤案に従えば「波良瀬川流域」の3期に相当しよう。深澤は3期のなかで、重殿遺跡4住例を古段階、五反田遺跡2住例を中段階に位置づけているが（文献3）、上江田西田遺跡出土土器群は中段階、源六堰遺跡1・2号住出土土器は古段階に位置づけたい。これは、尾張地域での編年ならば「廻間Ⅲ式」の範囲に含まれるものと解され、赤塚氏の暦年代観（文献4）に従うならば、3世紀後半のなかで理解すべきであろう。歴年代比定は、残念ながら東日本での年代測定データや暦年代資料が不十分なために、近畿、東海西部、北陸といった地域編年との並行関係から類推するしかないのが現状だが、現在における西日本各地での暦年代データの成果（文献5）から、これまで支配的であった群馬の古墳前期イコー

ル4世紀との認識は、少なくとも50年は遡らせて考  
える必要があるようだ。

群馬県の古式土師器として「石田川式」がよく知  
られている。これは、昭和27年に石田川河川改修工  
事に伴って採集調査された資料を基に松島栄治氏に  
よって様式設定がなされた(文献6)。そこでは様  
式の示標をA区1号住出土の1群土器で代表させて  
いる。その内容について現行的な捉え方をするなら  
ば、伊勢型二重口縁壺、S字甕、(S字)鉢、小型  
器台、有稜大型高坏、小型丸底壇、直口壺の組合せ  
となろう。言うまでもなく、これらの土器型式と器  
種組成は「石田川式」認定概念の中核ではあるが、  
時空を限定する「様式」の認定条件を提示している  
訳ではないと解する。二重口縁壺が「伊勢型」でな  
く「茶臼山形」でも良いと思うし、「石田川」に図  
示されたように小型器台や鉢の口縁がS字状に屈曲  
する型式である必要もないと思う。それは調査され  
た一括出土土器のセリエーションから石田川式の構  
成型式を吟味、抽出すれば自ずと様式概念とその範  
囲が明確になるのではないかと。ただし、問題はそれ  
ほど簡単ではない。弥生時代末～古墳時代前期にお  
ける遠距離多地域間の土器移動の実態は、「東海西  
部系」土器の移動あるいはその影響を理解しようと  
してきた「石田川」式を翻弄しているといつてよい。  
本遺跡出土土器の特徴でも述べたように、「石田川」  
式の象徴的型式でもあるS字甕は、少なくとも遺跡  
単位では単一相ではなく、単口縁台付甕や平底甕と  
共存しており、これらの故地は現在判明している限り  
、東海地方西部はもとより東海東部(遠江・駿  
河・相模)、南関東(武蔵・総)、北陸(能登・越)  
に求められるものが多い。ましてや平底で無文の甕  
ならば、在地の様式や吉ヶ谷・赤井戸式などの変容  
型式も考慮する必要があるのだ。このような現状で  
群馬の古墳前期土器を「石田川式」概念で包括ある  
いは代表させることは、歴史の限定者としての様式  
(型式)として意味をなさない。群馬県東南部の低  
地帯には古墳前期の遺跡が非常に密度で分布してい  
るが、たとえ隣接する遺跡であっても異なる系統の

土器型式が全く異なる組合せであったり、構成比率  
であったりする。本遺跡の時期と位置づけた古墳前  
期中葉段階は特にその傾向が著しい。太田市の東接  
地域、渡良瀬川を渡った佐野市松山・エグロ遺跡で  
はS字甕ではなく単口縁平底甕、台付甕が主体とな  
り、なおかつ遺跡単位で型式の構成比率が異なる  
ことが指摘されている(文献7)。複数系譜の異なる  
土器群が共存することで、遺跡毎、一括遺物毎と  
いった階層の異なるレベルでモザイク状態を呈して  
いるのが実態といえるだろう。このような複雑な型  
式群の組合せが予想される中で、改めて「石田川式」  
といえる有意な様式設定を図る必要があろう。よし  
んば、それが型式なり様式設定に至らなくとも、複  
雑なモザイク模様のひとつひとつを解きほぐす作業  
は欠かすことができまい。(大木)

#### 参考引用文献

- 1) 1988 増田 修『西田・谷津・中道・上新田・今井遺跡発掘  
調査報告書』東京電力株式会社
- 2) 1997 大木紳一郎『弥生時代の遺構と遺物』『南総井増光寺遺  
跡V』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか
- 3) 1998 深澤敦仁『上野における土器の交流と興衰』『庄内式土  
器研究』16
- 4) 2006 赤塚次郎『東海系土器と東日本の墳丘墓』『古式土師器  
の年代学』財団法人大阪府文化財センター
- 5) 2006 『古式土師器の年代学』財団法人大阪府文化財センター
- 6) 1968 尾崎善左衛門 今井新次 松島栄治『石田川』
- 7) 2003 仲山英樹『栃木県佐野市松山・エグロ遺跡の検討』『研  
究紀要』11財団法人とらぎ生誕学習文化財埋蔵文化財セン  
ター

## Ⅶ まとめ

上江田西田遺跡と源六堰遺跡の発掘調査は、氾濫対策として計画された石田川河川改修工事に伴うものである。遺跡地は石田川を主とする河川侵食で形成された湿地と浅谷、鳥状に点在する微高地といった景観を呈しており、かなり広範囲に氾濫堆積物が覆っている。上江田西田遺跡、源六堰遺跡のいずれからも、縄文時代後期の遺物（称名寺式土器、堀之内式土器）が出土しており、谷地形を埋積した黒泥土に覆われて柄筒形と思われる敷石住居跡も検出されている。上江田西田遺跡では、中期以前の縄文土器がほとんど見られないことから、後期初頭になってこの地点に集落が形成されたと考えてよい。当時の地形環境は台地部と谷部が明瞭で、検出された集落地点は比較的乾燥状態であったと考えたい。しかし、その後は河道が変遷することで度重なる台地部の侵食や氾濫層の堆積があり、泥炭土の堆積状況からも判明するように、安定した居住環境ではなくなったと理解されよう。源六堰遺跡で検出された古墳時代前期の集落は、ようやくこの時期（3世紀後半代）になってこの地点の居住環境が安定したことを物語る。

この自然環境の変遷を明らかにするために埋没谷の堆積物について、テフラ、放射性炭素年代測定（ $\beta$ 線法）、花粉分析、種実分析、植物珪酸体分析を株式会社古環境研究所に委託して行った。その結果、後期縄文土器と石器を多く含む黒泥層の最上位にAs-C（浅間C軽石）の堆積があり、その後堆積するシルト質黒灰色土（氾濫堆積物と思われる）層中でHr-FA（榛名二ツ岳決川テフラ）の降灰層が見られ、その上層に堆積する黒色土（層厚1cm）をAs-B（浅間B軽石）が覆っていることが判明した。このことから、縄文時代後期以降のある段階から3世紀ころまで黒泥土の堆積する湿地で、As-C降下以降はHr-FAを勘込んだシルト質の氾濫堆積層を耕土とした水田の可能性があり、上位にはAs-Bで覆われた水田土壌が存在したと理解できる。埋没谷に堆

積する黒泥土最下層から出土した自然木を試料として放射性炭素年代測定を行ったところ、14C年代は $7,610 \pm 60$ （ $\pm 13C - 24.3\%$ 、補正14C年代： $7,620 \pm 60$ ）、1994年時点での樹木年輪年代補正による暦年代はB C 6,430+30/-35との測定値が得られた。この数値から想定すれば、上江田西田遺跡で住居に隣接して検出された埋没谷は、縄文後期集落が進出した時点である程度埋積が進んでいた状態と考えられるが、谷の下半層を占める黒泥層堆積初期段階では花粉検出量が非常に少ないことから、流水域か乾湿を頻りに繰り返す環境と推測されている。降下年代が3世紀後半代と推測されるAs-Cと6世紀前葉とされるHr-FAの混在する黒泥土層最上部～シルト質黒灰色土では、カヤツリグサ科等の草本花粉とともにイネ属型花粉やイネの珪酸体が多く検出されていることから、水田として利用された可能性が高いと判断された。この時期の周辺環境についても、コナギ・オモダカ科・イトドリゲモ・ホタルイ属などの種実同定結果から、水湿地景観が想定される。一方、As-Bに覆われた黒色土ではイネ科花粉や珪酸体は見られず、カヤツリグサ科が繁茂する環境と想定されており、少なくともAs-B降下直前には水田ではなかったと推測された。

以上の環境復元を主眼とした科学分析結果から、縄文時代には小河川による侵食と埋積が進む地点に集落が進出し、3世紀後半代に遡りうる古墳時代前期に開始された水田経営が古墳時代後期頃まで続いたと想定できよう。この推測は、石田川流域での遺跡分布状況とも合致するもので、大間々扇状地扇端から流下する小河川による侵食谷の形成、谷の埋積、湿地形成という一連の地形変遷がその大きな要因であったとしてよいだろう。特に古墳前期の集団によるほとんど手つかずであった湿地の水田化が、その後にくく地域社会形成の端緒となったと理解できる好例と考えている。

# 写真図版





1号住居全景



1号住居全景



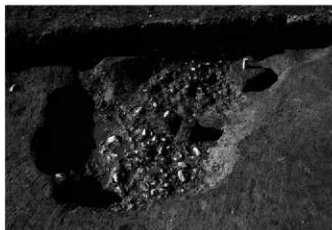
2号住居全景



2号住居炉全景



2号住居炉全景



1号土坑全景



2号土坑全景

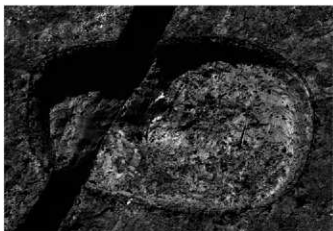


3号土坑全景





4号土坑遺物出土状態



4号土坑全景



5号土坑全景



6号土坑全景



7号土坑全景



8・9号土坑全景



10号土坑全景



11号土坑全景



12号土坑全景



13号土坑全景



14号土坑全景



1・2号溝全景



1・2号溝全景



1・2号溝遺物出土状態



1・2号溝遺物出土状態



3号溝全景



4号溝杭



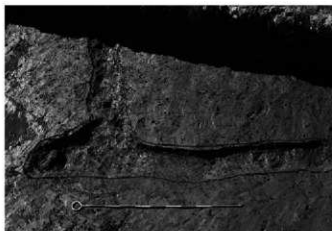
4号溝全景



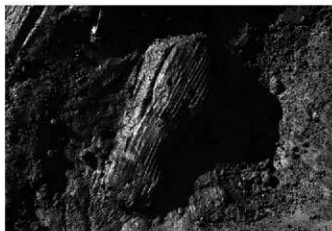
4号溝杭



4号溝全景



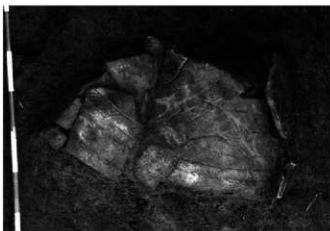
5号溝全景



5号溝遺物出土状態



6号溝全景



G-9 グリッド遺物出土状態



基本土層



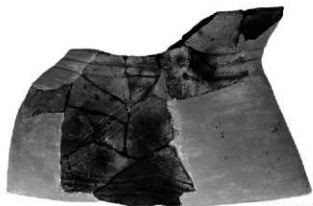
J-8 グリッド遺物出土状態



J-8 グリッド遺物出土状態



出土遺物(1)



10-1 (2枚)



10-2 (2枚)



1 (1±)



2 (1±)



3 (1±)



4 (1±)



10-3 (2枚)



1 (2±)



2 (2±)



1 (3±)



5 (4±)



2 (4±)



3 (4±)



4 (4±)



1 (4±)



1 (7±)



2 (7±)



4 (8±)



2 (8±)



3 (8±)

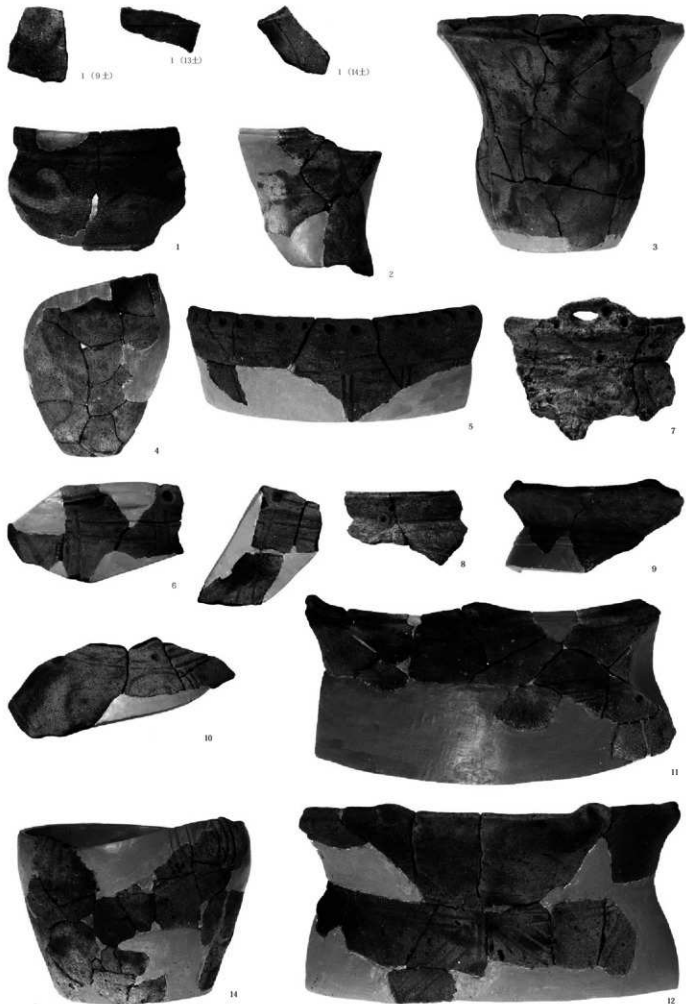


1 (8±)



5 (8±)

出土遺物(2)





13



16



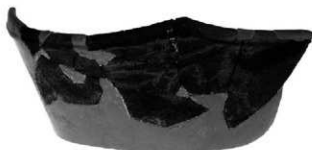
17



15



19

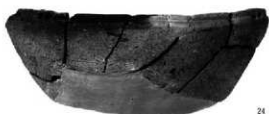


18



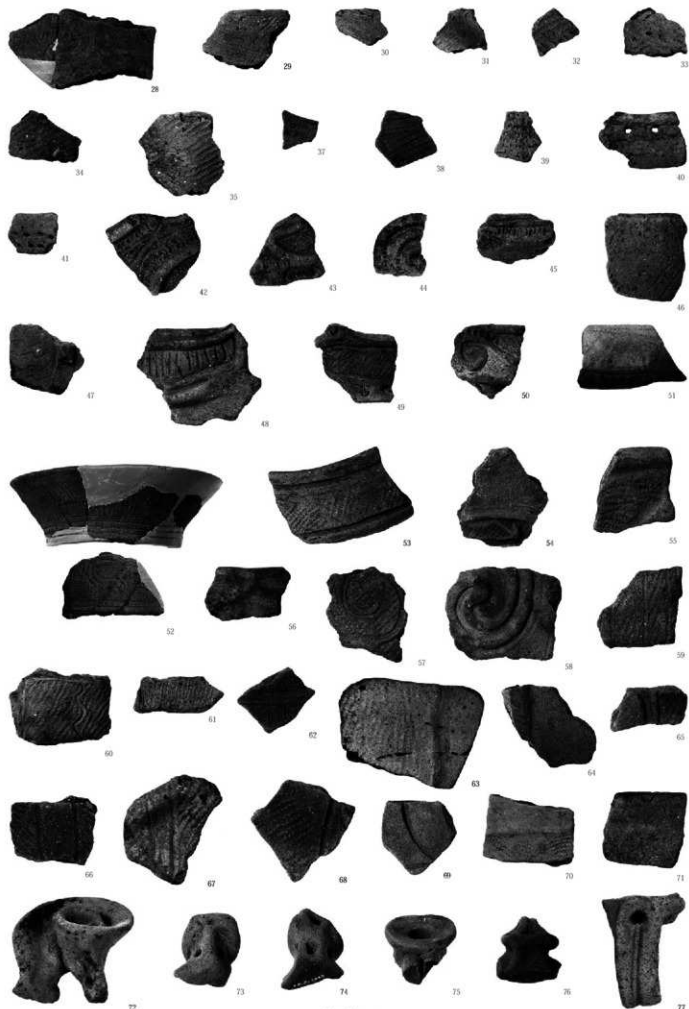
20



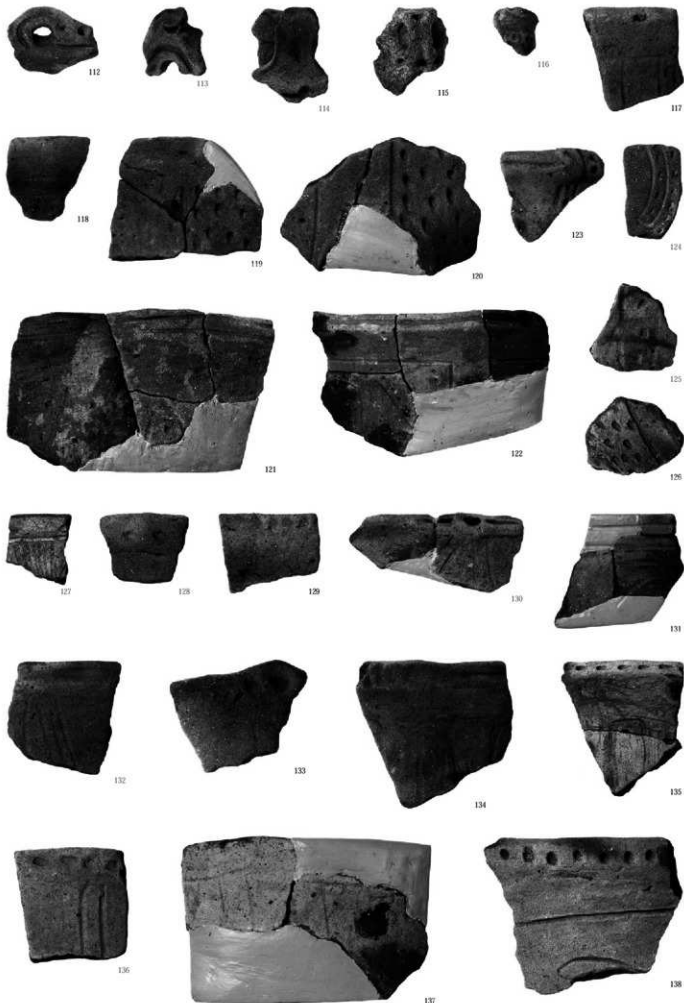


26





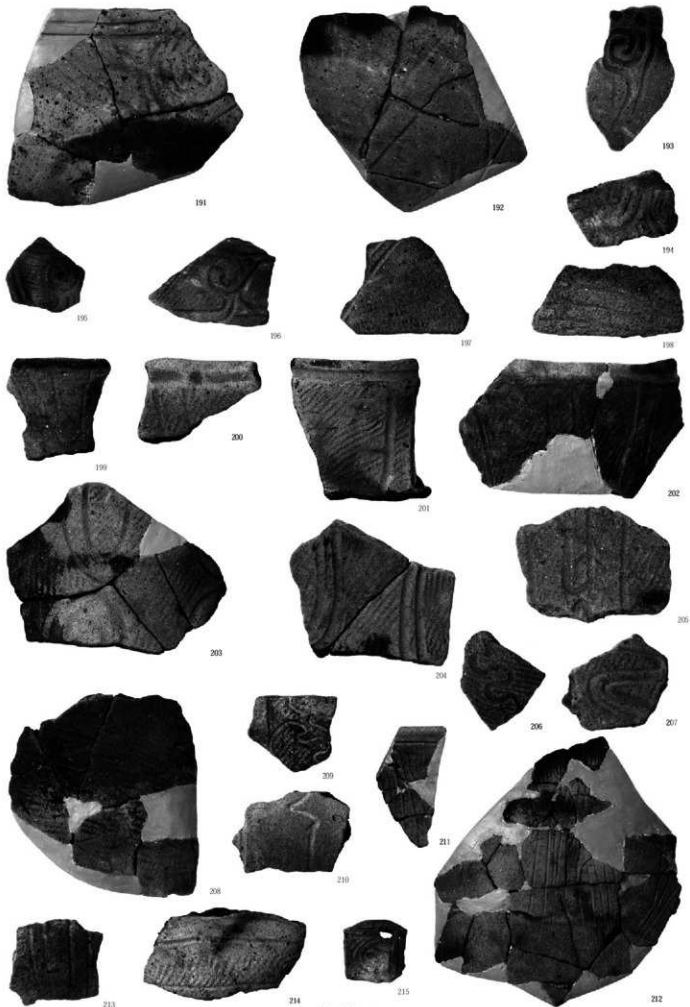


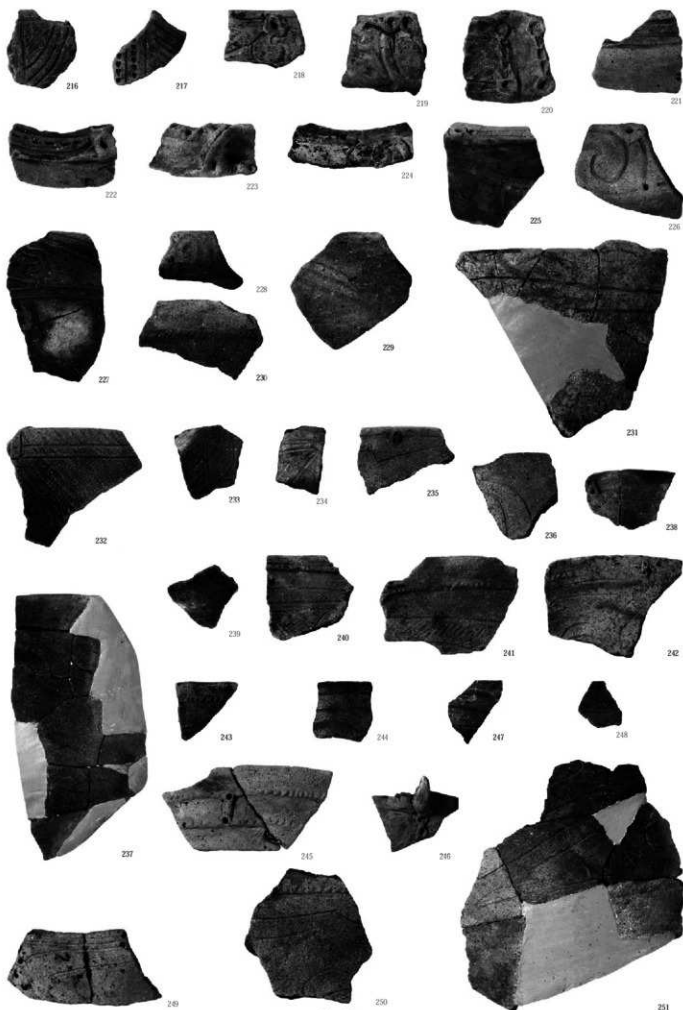




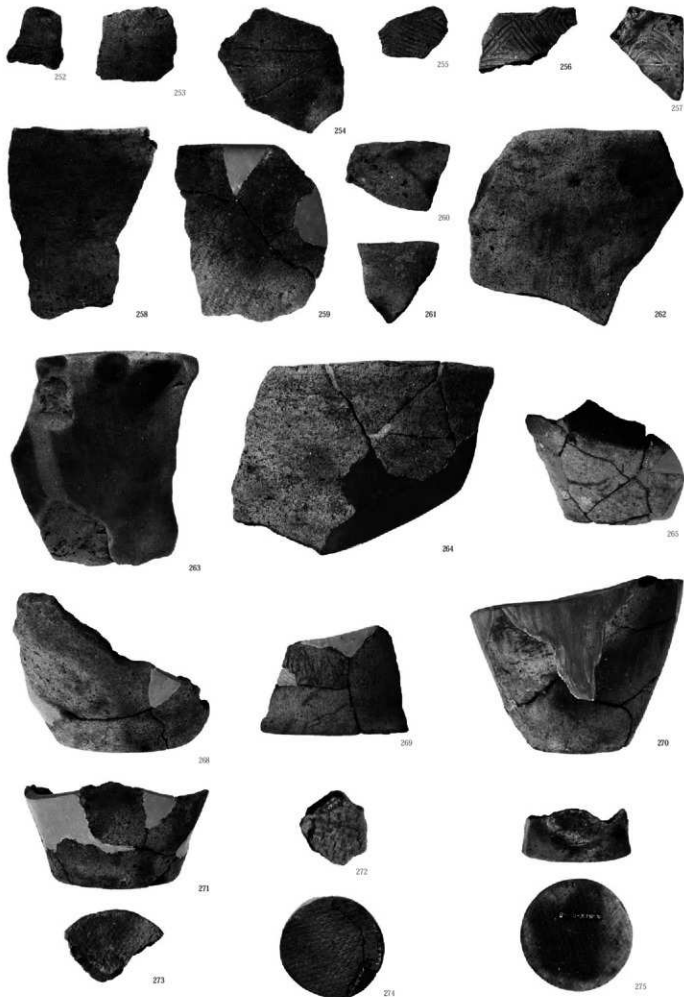


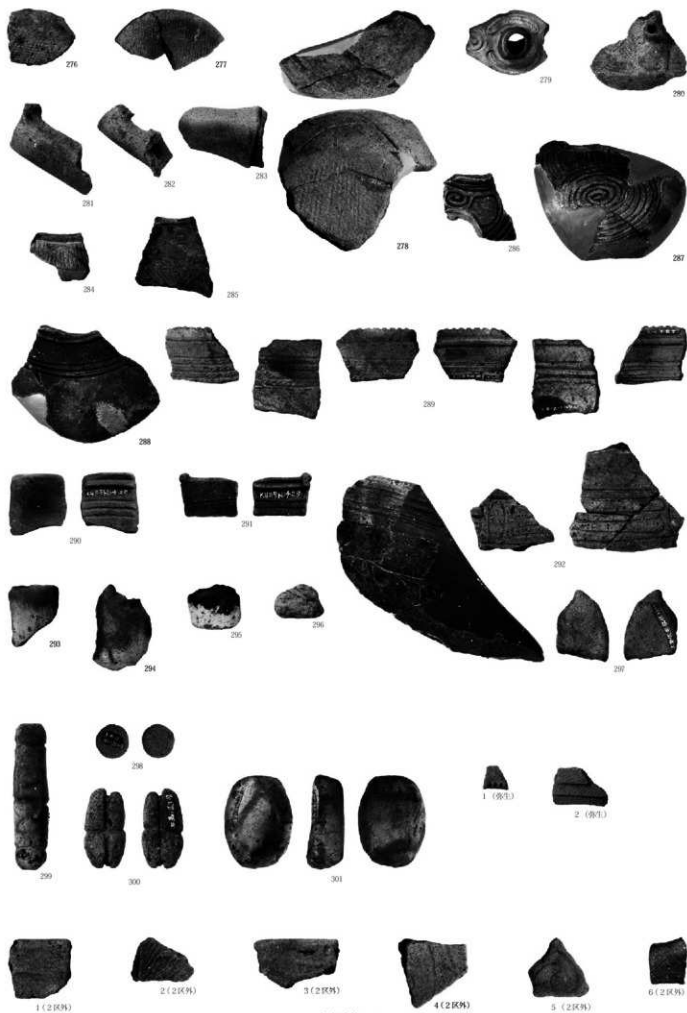
出土遺物(10)



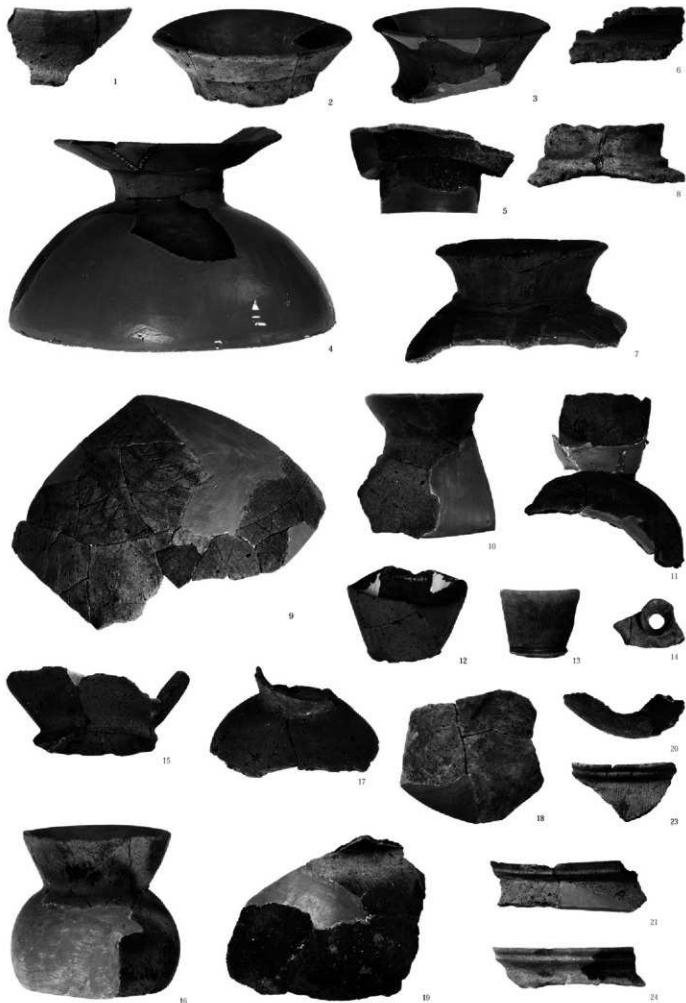




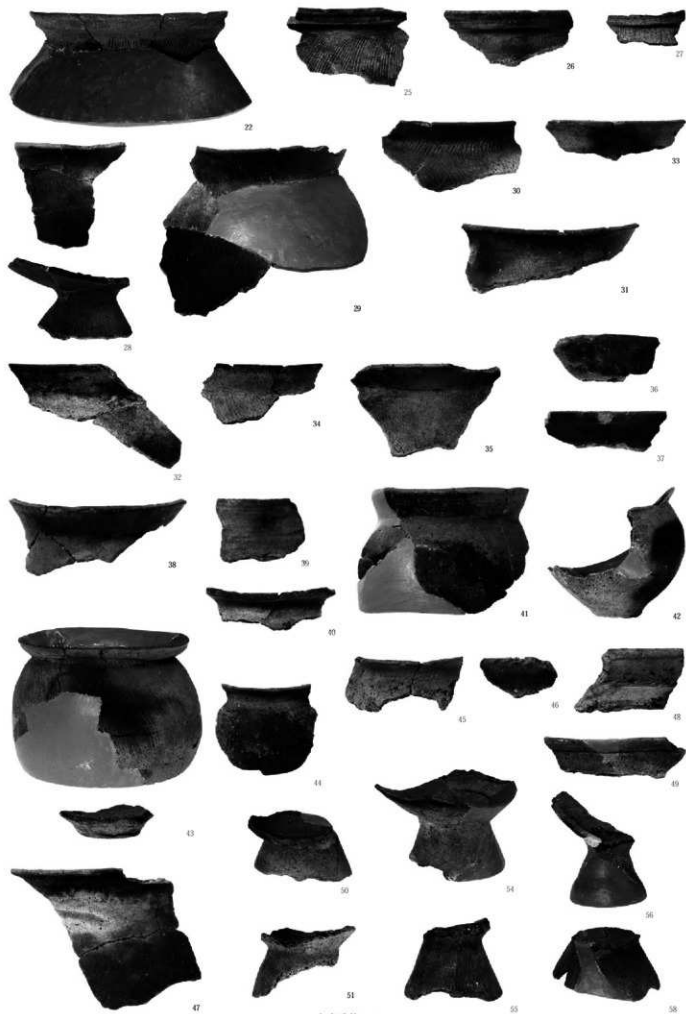


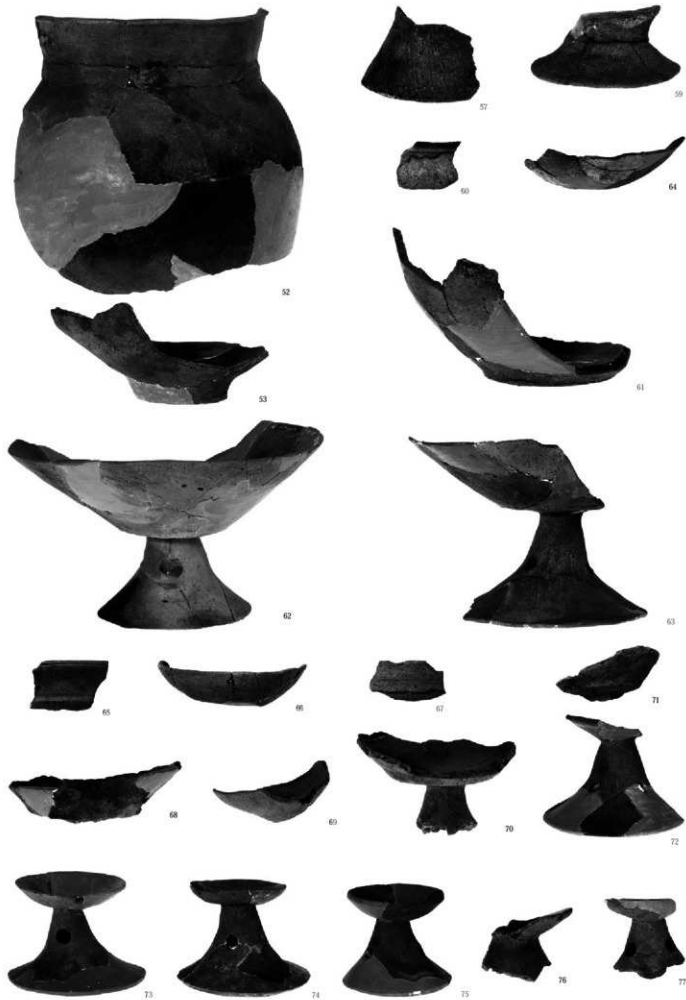


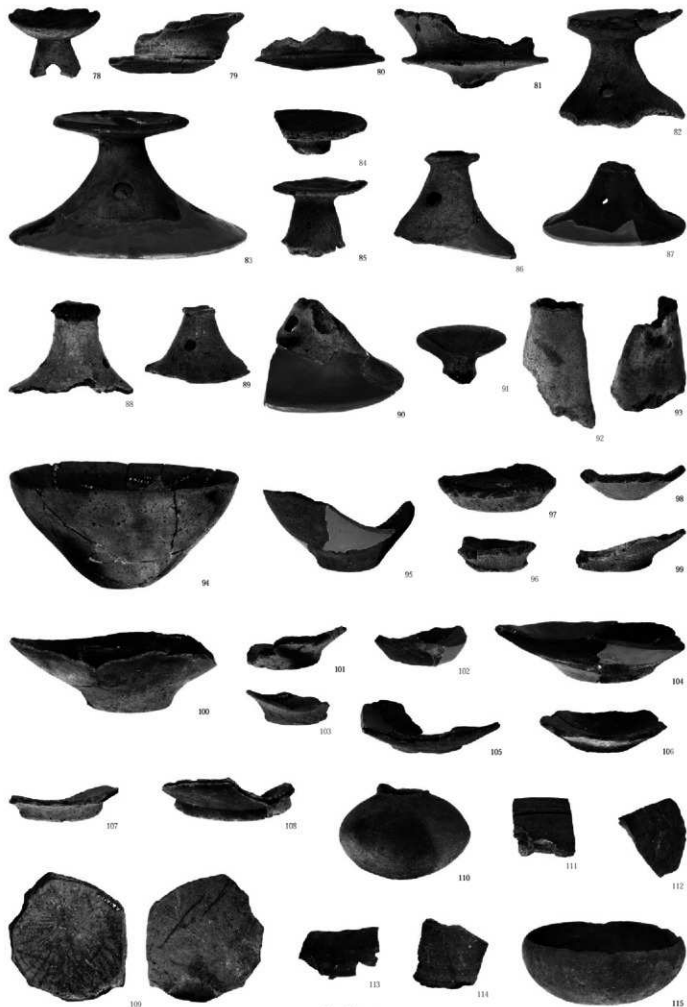




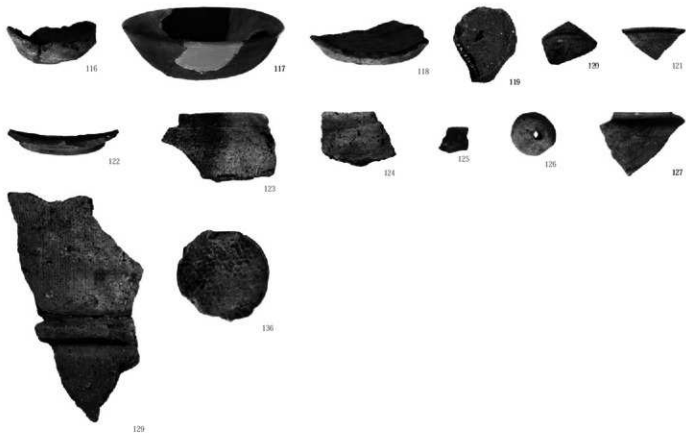
出土遺物(16)







出土遺物(19)



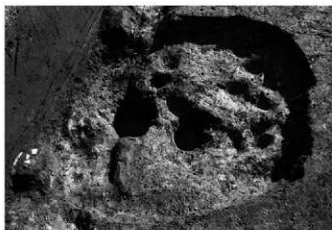




1号住居全景



1号住居掘り方全景



1号住居内1号土坑全景



1号住居内1号土坑遺物出土状態



1号住居床直土器



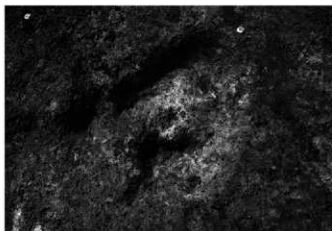
2号住居全景



2号住居全景



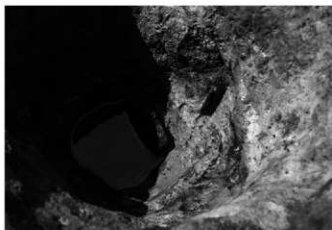
2号住居掘り方全景



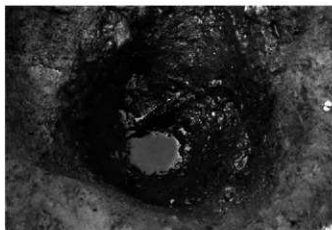
2号住居跡掘り方全景



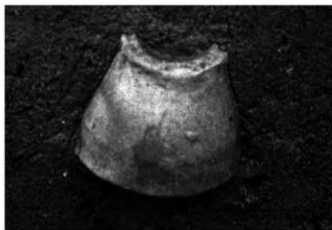
2号住居南東柱穴内礎板



2号住居南東柱穴内礎板



2号住居北東柱穴の柱材



2号住居遺物出土状態



2号住居遺物出土状態



1号溝全景



2号溝全景



2号包含層



2号包含層遺物出土状態



2号包含層遺物出土状態



2号包含層遺物出土状態



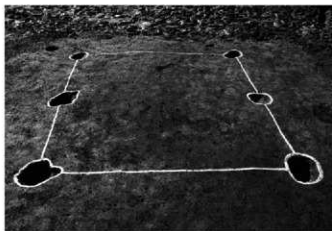
2号包含層遺物出土状態



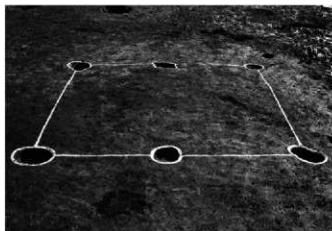
2号包含層遺物出土状態



1号包含層



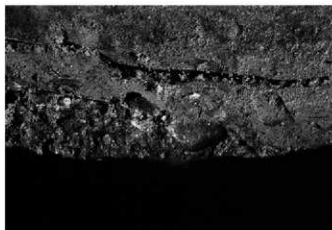
1号掘立柱建物全景



1号掘立柱建物全景



B区全景



西側壁近接



遠景



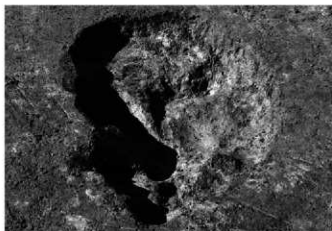
A区北側全景



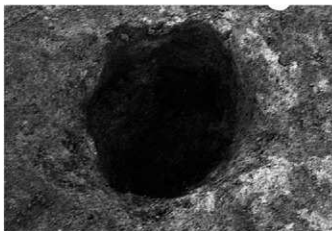
B区全景



1号土坑全景



2号土坑全景



3号土坑全景



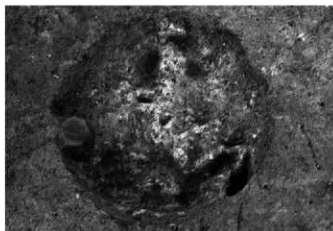
4号土坑全景



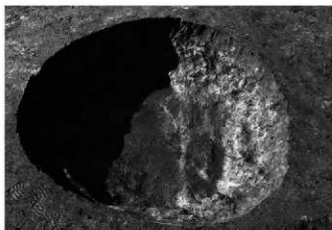
5号土坑全景



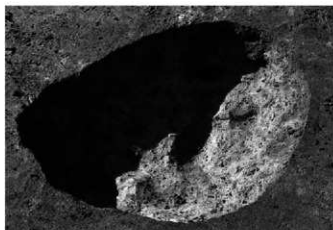
6号土坑全景



7号土坑全景



8号土坑全景



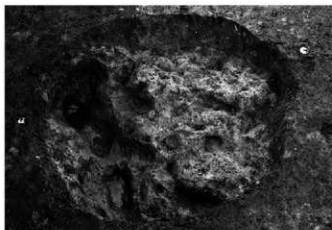
9号土坑全景



10号土坑全景



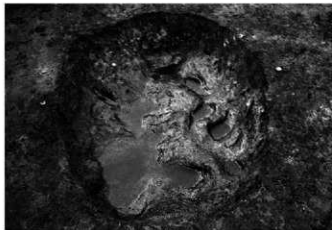
11号土坑全景



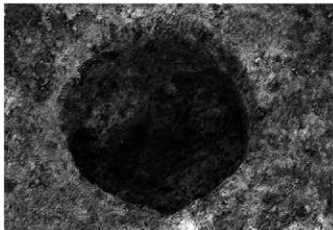
12号土坑全景



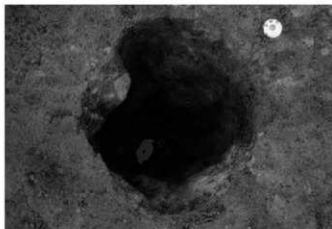
13号土坑全景



14号土坑全景



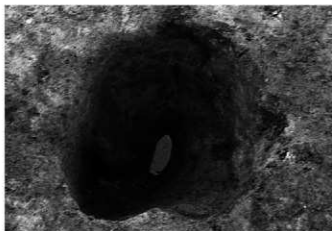
15号土坑全景



16号土坑全景



17号土坑全景



18号土坑全景



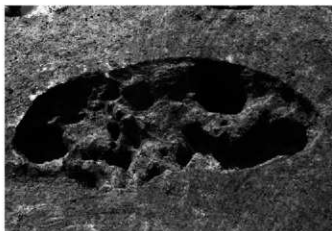
19号土坑全景



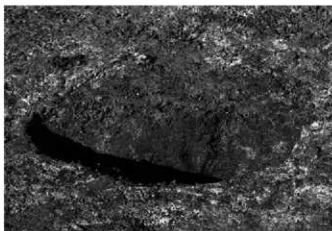
20号土坑全景



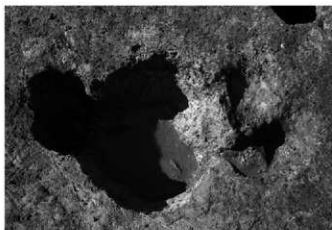
21号土坑全景



22号土坑全景



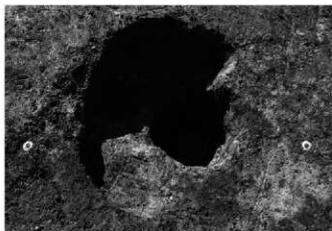
23号土坑全景



24・25号土坑全景



26号土坑全景



27号土坑全景



28号土坑全景



29号土坑全景



30号土坑全景





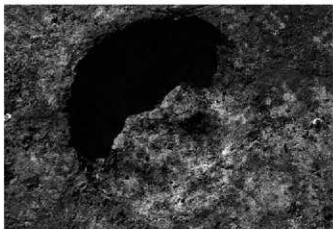
31号土坑全景



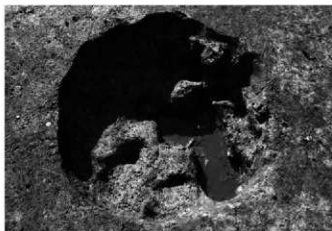
32号土坑全景



33号土坑全景



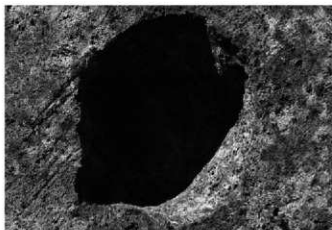
34号土坑全景



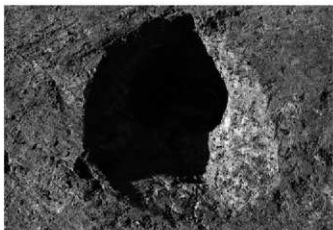
35号土坑全景



36号土坑全景



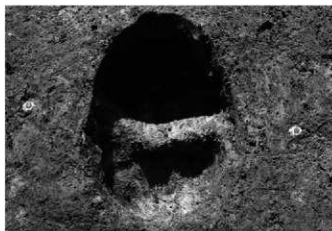
37号土坑全景



39号土坑全景



41号土坑全景



42号土坑全景



43号土坑全景



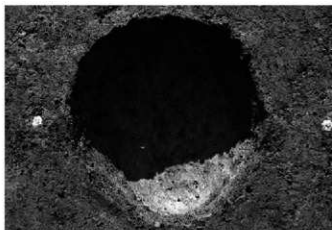
44号土坑全景



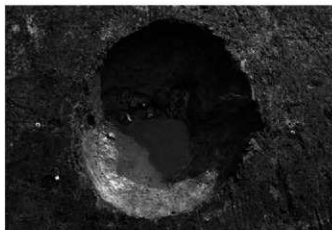
45号土坑全景



46・47号土坑全景



48号土坑全景



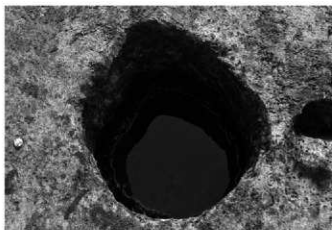
49号土坑全景



50号土坑全景



59号土坑全景



60号土坑全景



60・72号土坑全景



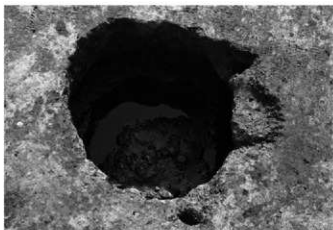
61号土坑全景



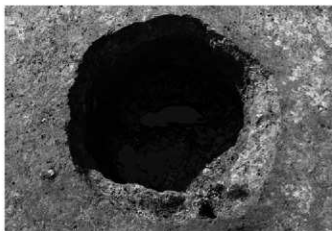
62号土坑全景



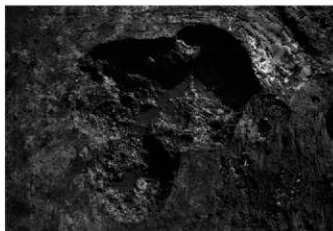
63号土坑全景



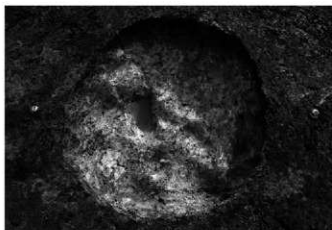
64号土坑全景



65号土坑全景



66号土坑全景



67号土坑全景



68号土坑全景



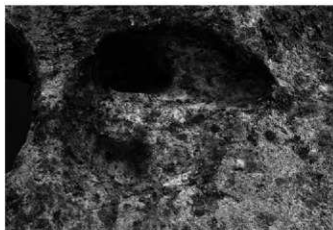
69号土坑全景



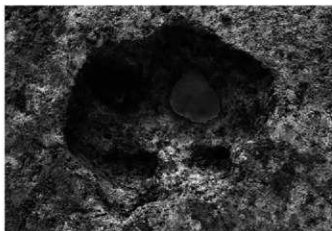
70号土坑全景



71号土坑全景



72号土坑全景



73号土坑全景



74号土坑全景



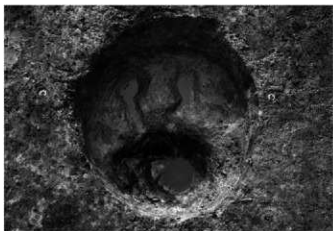
74・75・76号土坑全景



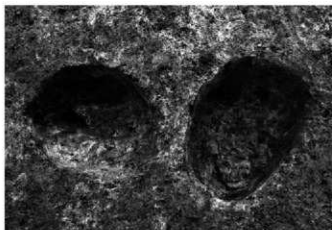
75号土坑全景



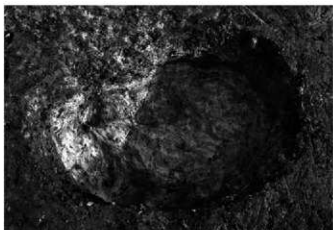
76号土坑全景



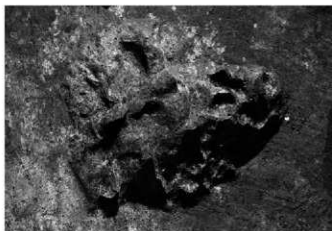
77号土坑全景



78・79号土坑全景



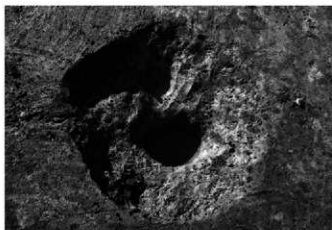
80号土坑全景



81号土坑全景



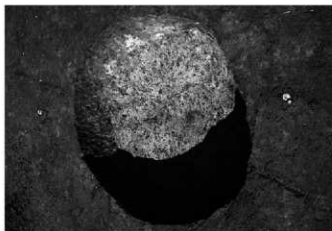
82号土坑全景



83号土坑全景



84号土坑全景



85号土坑全景



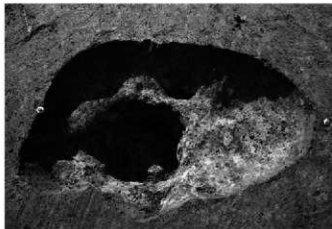
86・106号土坑全景



87号土坑全景



88号土坑全景



89号土坑全景



90号土坑全景



91号土坑全景



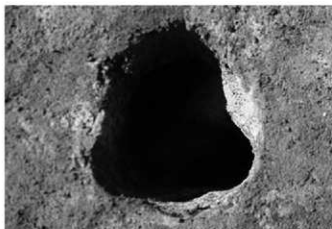
92号土坑全景



93号土坑全景



94号土坑全景



95号土坑全景



96号土坑全景



97号土坑全景



98号土坑全景



99号土坑全景



100号土坑全景



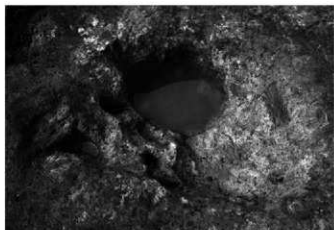
101・104号土坑全景



102号土坑全景

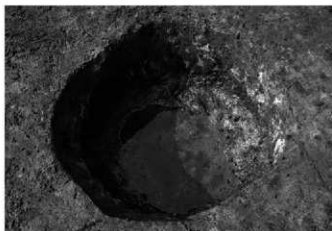


103号土坑全景



107号土坑全景

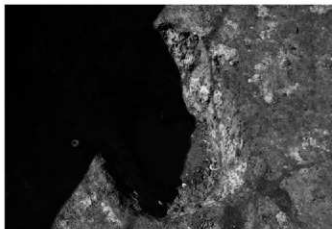




108号土坑全景



111号土坑全景



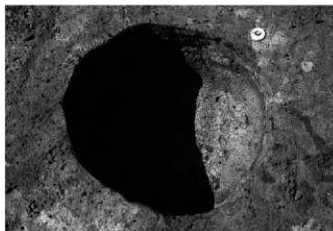
112号土坑全景



113号土坑全景



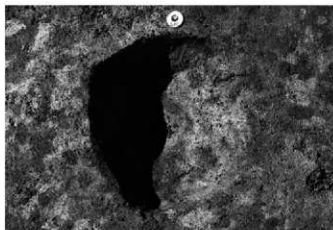
114号土坑全景



115号土坑全景



116号土坑全景



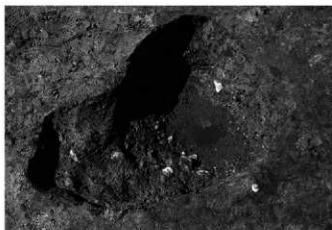
117号土坑全景



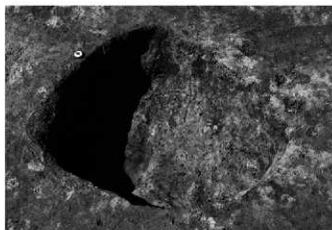
118号土坑全景



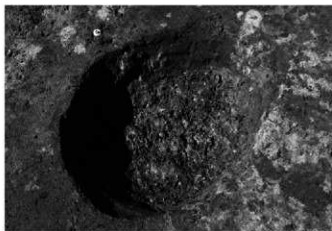
119号土坑全景



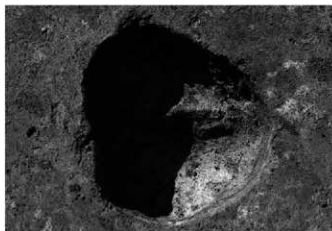
120号土坑全景



121号土坑全景



122号土坑全景



123号土坑全景



124号土坑全景



125号土坑全景



126号土坑全景



127号土坑全景



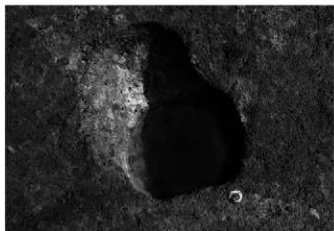
128号土坑全景



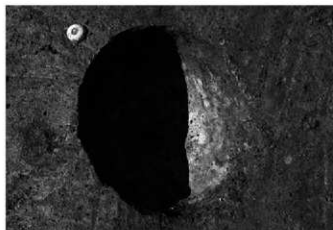
129号土坑全景



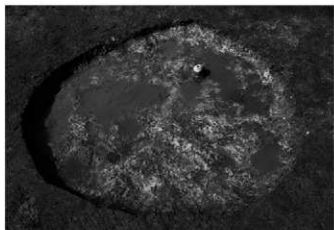
131号土坑全景



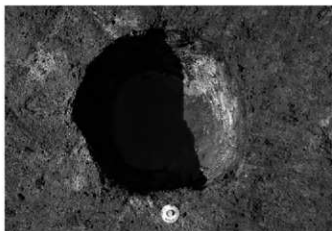
132号土坑全景



133号土坑全景



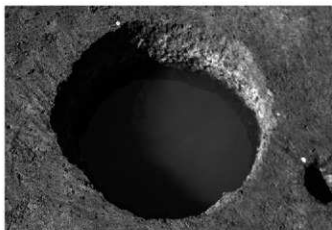
134号土坑全景



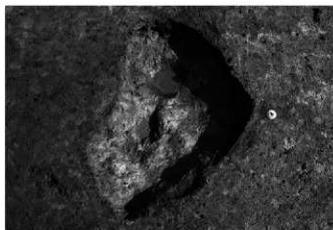
135号土坑全景



136号土坑全景



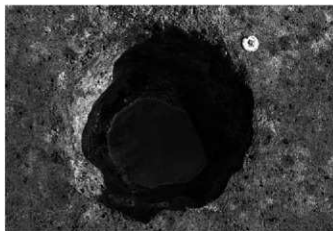
137号土坑全景



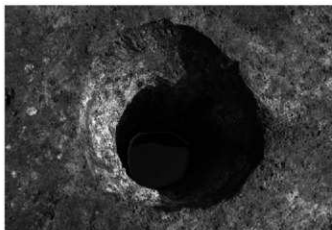
138号土坑全景



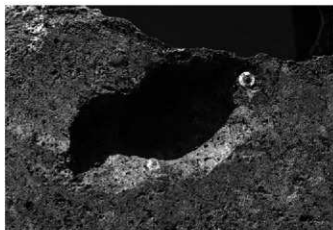
139号土坑全景



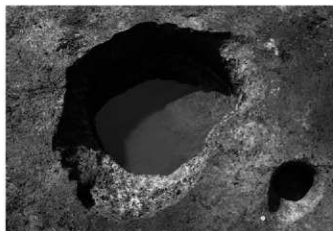
140号土坑全景



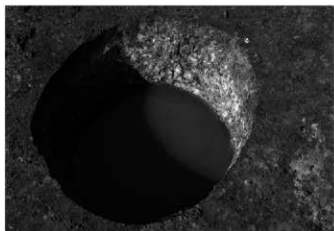
141号土坑全景



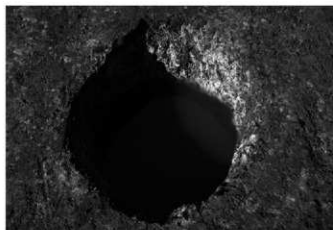
142号土坑全景



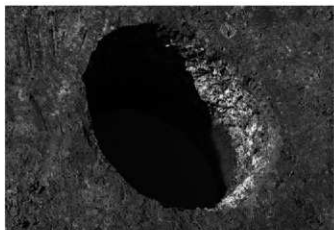
143号土坑全景



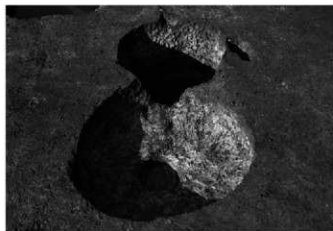
144号土坑全景



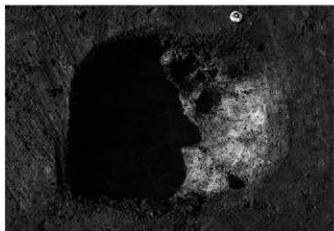
145号土坑全景



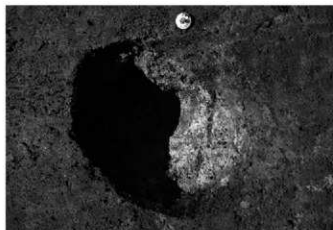
146号土坑全景



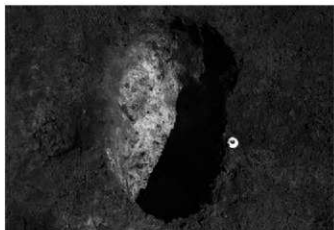
147・157号土坑全景



148号土坑全景



149号土坑全景



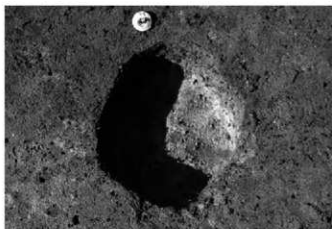
150号土坑全景



153号土坑全景



154号土坑全景



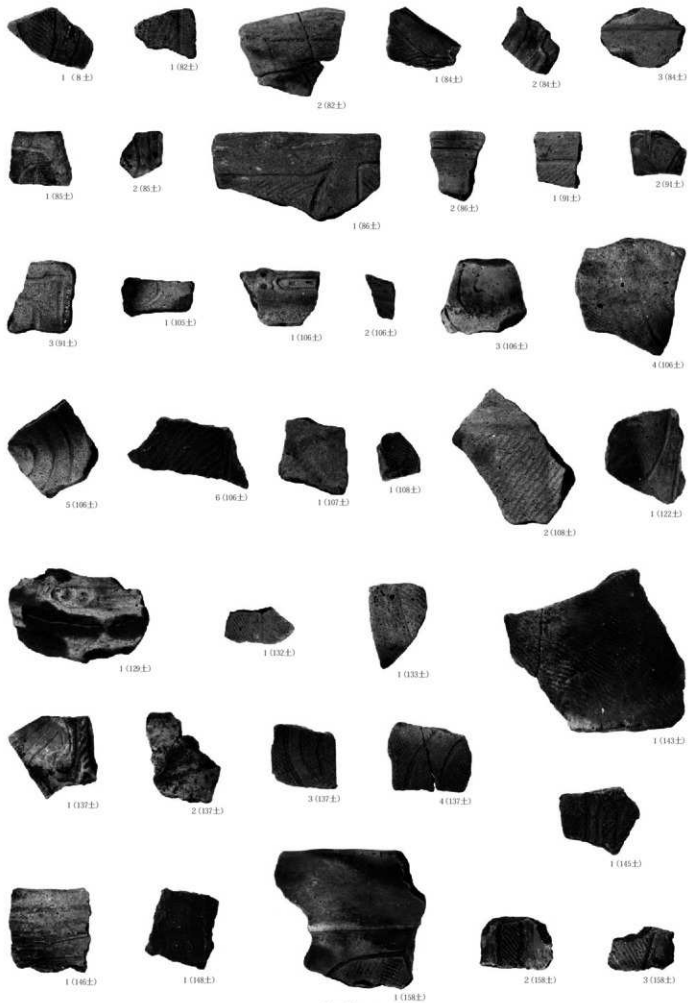
155号土坑全景

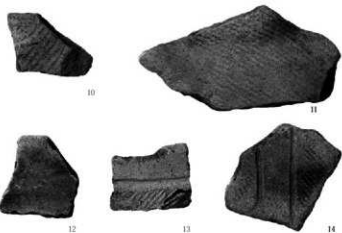
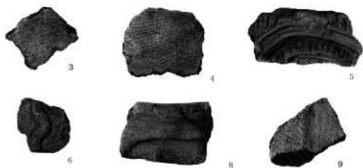


156号土坑全景



158号土坑全景



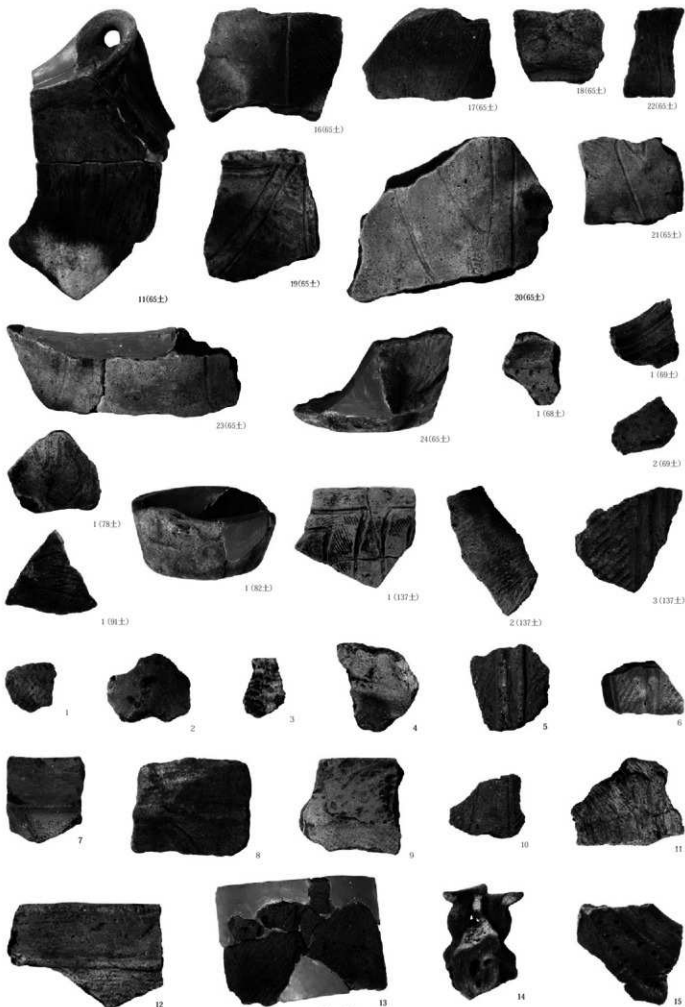


出土遺物(2)





出土遺物(3)

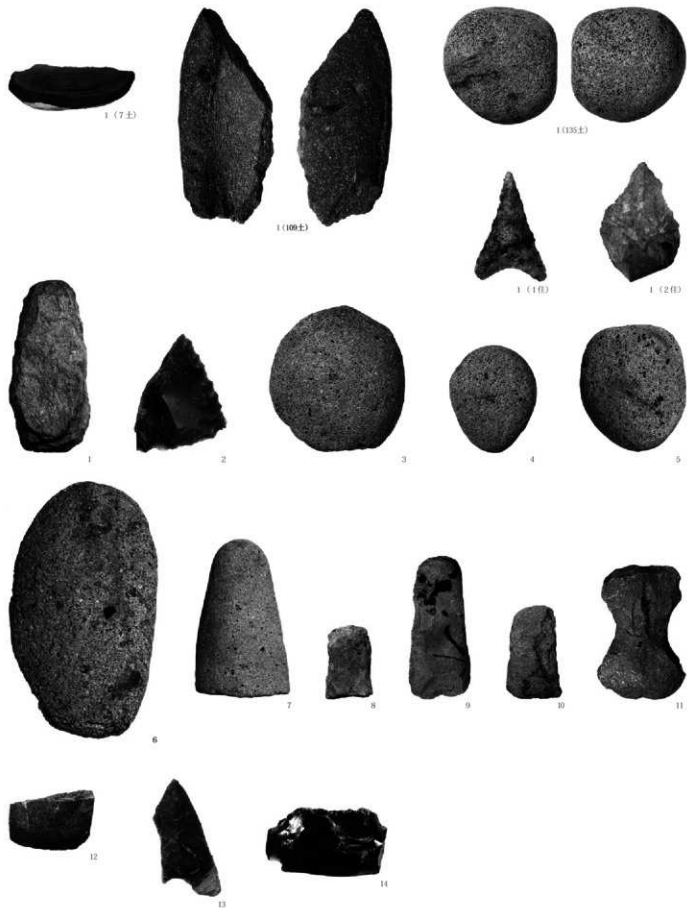


出土遺物(4)





出土遺物(6)



## 抄 録

書名ふりがな	かみえだにしたいせき・げんろくぜきいせき
書名	上江田西田遺跡・源六堰遺跡
副書名	広域基幹河川改修事業石田川に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	497集
編著者名	友廣哲也 大木紳一郎
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	平成22年3月25日
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	かみえだにしたいせき
遺跡名	上江田西田遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしにったかみえだ
遺跡所在地	群馬県太田市新田上江田
市町村コード	10205
遺跡番号	401
北緯(日本測地系)	361728
東経(日本測地系)	1391700
北緯(世界測地系)	361739
東経(世界測地系)	1391648
調査期間	19950101-19950331
調査面積	7260m <sup>2</sup>
調査原因	河川改修
種別	住居跡/溝/土坑/その他
主な時代	縄文/古墳/江戸
遺跡概要	縄文-土器/古墳-土器/近世-溝
特記事項	縄文時代後期前葉堀之内式土器主体+古墳時代前期土器
要約	縄文時代後期前葉堀之内式土器主体の住居跡と考えられる石囲い炉の検出、堀之内式注口土器。古墳時代前期土器。

## 抄 録

書名ふりがな	かみえだにしたいせき・げんろくぜきいせき
書名	上江田西田遺跡・源六堰遺跡
副書名	広域基幹河川改修事業石田川に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	497集
編著者名	友廣哲也 大木神一郎
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	平成22年3月25日
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橋町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	げんろくぜきいせき
遺跡名	源六堰遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしにたつしもたなか
遺跡所在地	群馬県太田市新田下田中
市町村コード	10205
遺跡番号	504
北緯（日本測地系）	361719
東経（日本測地系）	1391648
北緯（世界測地系）	361730
東経（世界測地系）	1391636
調査期間	19980101-19980331
調査面積	3760m <sup>2</sup>
調査原因	河川改修
種別	住居跡/溝/土坑/その他
主な時代	古墳/平安/中世/江戸
遺跡概要	縄文-土器+土坑/古墳-住居+溝/その他
特記事項	縄文土器後期初頭称名寺式土器主体
要約	縄文時代称名寺式土器を主体に出土。古墳時代前期住居跡柱穴に礎盤検出。

財団法人群馬埋蔵文化財調査事業団調査報告書第497集

## 上江田西田遺跡・源六堰遺跡

広域基幹河川改修事業石田川に伴う埋蔵文化財調査報告書

---

平成22年3月25日 印刷

平成22年3月25日 発行

発行／編集 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橋町下箱田784-2

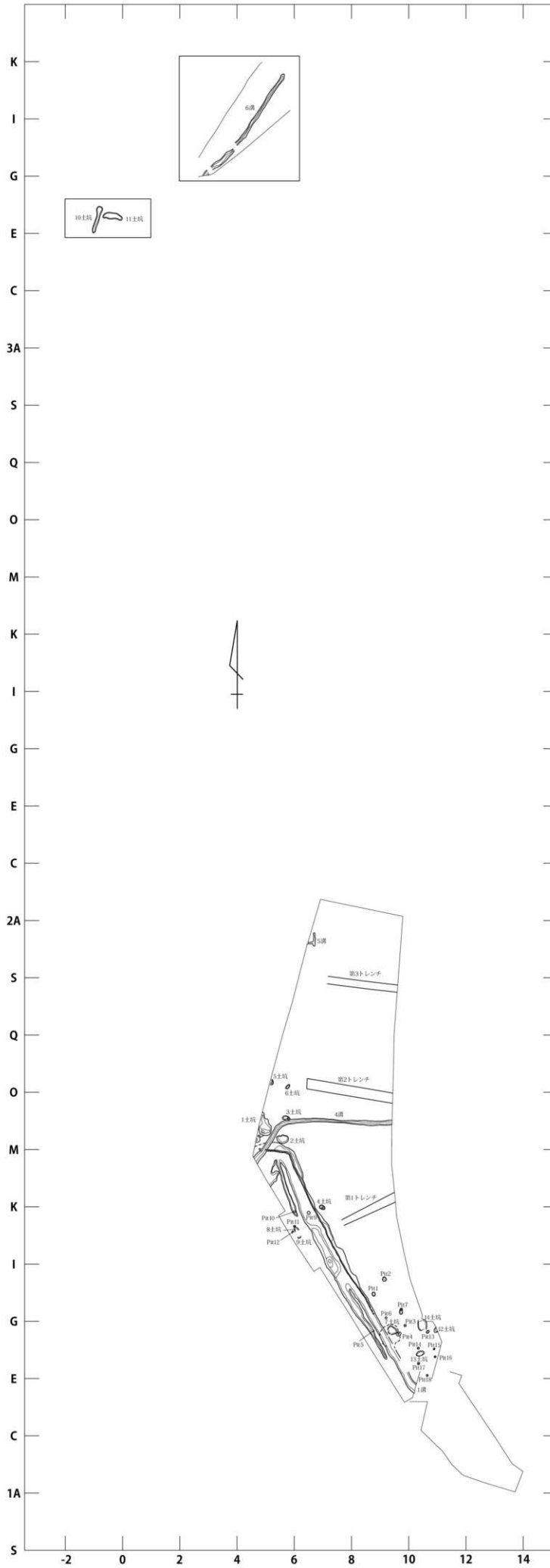
電話 0279-52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／上毛新聞社事業局出版部



上江田西田遺跡全体図 S=1/500



源六堰遺跡 S=1/250

